

【3P1S203】ピアノⅢ		音楽総合学科		2年前期		
		2単位	選択	演習	30時間	
教員	横井 香織					
資格・制限等	Pコース必修					
授業内容	1年次に修得した演奏テクニックを発展させ、近現代の作品を中心に、テクニックと表現力が調和した高度な音楽作りを目指します。音楽関連の知識を豊富にし、表現力豊かで魅力的な演奏ができるようにしていきます。					
実務家教員	音楽教室講師・10年					
授業方法	演習を中心とした個人レッスンをを行います。音楽的知識や技術・表現力修得の確認のため、中間発表(中間試験)も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。					
到達目標	知識・理解	音楽的知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。			○	
	思考・判断・表現	音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。			◎	
	技能	より高度な演奏技術の向上に努めることができる。			◎	
	関心・意欲・態度	音楽的感性を養う努力をし、指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	-	30	30	-	60
	中間発表(中間試験)	-	5	5	-	10
	受講態度	15	-	-	15	30
	合計(点)	15	35	35	15	100
評価の特記事項	実技試験は近現代曲の演奏を最終試験(前期定期試験)で行います。中間発表(中間試験)はスケール・アルペジオ、エチュードの演奏です。フィードバックとして中間発表(中間試験)、実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(実技試験)の受験資格はありません。					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。					
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社(または手持ちのもの)(1,320円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ：インヴェンション・シンフォニア』指定なし 前年度購入済					
参考書・教材	個々に合わせて選択します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(1) 休暇中の課題のレッスン、譜読みの確認 [課題(準備)] 各曲のレッスンができるように準備しておく。各曲1曲ずつ正確に譜読みの確認をする(2~3h)					
2	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(2) 課題の確認、中間発表(中間試験)曲を中心にテクニック練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、テクニックを向上する(2~3h)					
3	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(3) 課題の確認、強弱・速度・音楽用語 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽譜に忠実に強弱、速度、音楽用語を表現する(2~3h)					
4	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(4) 課題の確認、音楽性 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、音楽性を高める(2~3h)					
5	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(5) 課題の確認、暗譜 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする(2~3h)					
6	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(6) 課題の確認、弾き込み [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める(2~3h)					
7	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(7) 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッソンの復習をし、中間発表(中間試験)に向けて仕上げる(2~3h)					
8	中間発表(中間試験):調号3つ・4つのスケール・アルペジオ、練習曲 ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(1) 試験曲を中心に音の再確認 [課題(予習)] 試験曲の音の再確認をする(2~3h)					
9	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(2) 課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、テクニックを向上する(2~3h)					
10	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(3) 課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける(2~3h)					
11	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(4) 課題の確認、音色 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を研究する(2~3h)					
12	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(5) 課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、表現力を高める(2~3h)					
13	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(6) 課題の確認、暗譜 [課題(復習)] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする(2~3h)					
14	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(7) 課題の確認、弾き込み [課題(復習)] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める(2~3h)					
15	ハノン、練習曲、バッハ、近現代の作品(試験曲)(8) 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッソンの復習をし、音楽性を高め仕上げる(2~3h)					

時間外での学修	各々の課題について、授業外で細かく深く練習しましょう。また、練習時間以外にも、演奏会に積極的に出掛けて様々な音楽を聴く、作曲家や作品について調べる、西洋の風景や歴史・文化を知るなど、幅広く音楽的素養を身に付け、感性を磨いてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間】
受講学生へのメッセージ	音楽を頭で考え、心で感じて演奏しましょう。 オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。

【3P1A204】ピアノⅣ		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	Pコース必修						
授業内容	より高度な音楽作りを心掛け、個々の希望する曲などは可能な限り取り入れ、最大限の成長を目指します。幅広く音楽関連の素養を身に付け、音楽表現もより豊かにし、魅力的で感動的な演奏ができるようにしていきます。						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンをを行います。音楽的知識や技術・表現力修得の確認のため、中間発表(中間試験)も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。						
到達目標	知識・理解	音楽的知識を身に付けて楽譜の理解に努め、作曲家や作品についての知識も修得し、楽曲理解に繋げることができる。			○		
	思考・判断・表現	音色や響きを追求し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。			◎		
	技能	より高度な演奏技術を身に付けることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	音楽的感性を磨く努力をし、指導者と円滑なコミュニケーションを図りながら、積極的な取り組みができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	中間発表(中間試験)		-	5	5	-	10
	受講態度		15	-	-	15	30
	合計(点)		15	35	35	15	100
評価の特記事項	実技試験は任意の曲の演奏を最終試験(後期定期試験)で行います。中間発表(中間試験)はスケール・アルペジオ、バッハの演奏です。フィードバックとして、中間発表(中間試験)、実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(実技試験)の受験資格はありません。						
ICT活用							
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト	『全訳ハノンピアノ教本』全音楽譜出版社(または手持ちのもの)(1,320円)ISBN:978-4-11-104010-0 『ツェルニー30番以上の練習曲』指定なし 『J.S.バッハ:インヴェンション・シンフォニア』指定なし 前年度購入済						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ハノン、練習曲、バッハ、自由曲(1) 休暇中の課題のレッスン、譜読みの再確認 [課題(準備)] 各曲のレッスンができるように準備しておく 各曲1曲ずつ正確に譜読みの再確認をする(2~3h)						
2	ハノン、練習曲、バッハ、自由曲(2) 課題の確認、中間発表(中間試験)曲を中心にテクニック練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、テクニックを向上する(2~3h)						
3	ハノン、練習曲、バッハ、自由曲(3) 課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける(2~3h)						
4	ハノン、練習曲、バッハ、自由曲(4) 課題の確認、音楽性 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、音楽性を高める(2~3h)						
5	ハノン、練習曲、バッハ、自由曲(5) 課題の確認、暗譜 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする(2~3h)						
6	ハノン、練習曲、バッハ、自由曲(6) 課題の確認、弾き込み [課題(予習・復習)題] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める(2~3h)						
7	ハノン、練習曲、バッハ、自由曲(7) 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッソンの復習をし、中間発表(中間試験)に向けて仕上げる(2~3h)						
8	中間発表(中間試験):調号4つ以上のスケール・アルペジオ、バッハ インヴェンション・シンフォニア・平均律のいずれか1曲 ハノン、練習曲、バッハ、試験曲(1) 試験曲を中心に音の再確認 [課題(予習)] 試験曲の音の再確認をする(2~3h)						
9	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲(2) 課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、テクニックを向上する(2~3h)						
10	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲(3) 課題の確認、曲想 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽譜を熟読して曲想を付ける(2~3h)						
11	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲(4) 課題の確認、音色 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を研究する(2~3h)						
12	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲(5) 課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、表現力を高める(2~3h)						
13	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲(6) 課題の確認、暗譜 [課題(復習)] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする(2~3h)						
14	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲(7) 課題の確認、弾き込み [課題(復習)] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める(2~3h)						
15	ハノン、練習曲、バッハ、試験曲(8) 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッソンの復習をし、音楽性を高め仕上げる(2~3h)						

時間外での学修	<p>各々の課題について、授業外で細かく深く練習しましょう。また、練習時間以外にも、演奏会に積極的に出掛けて様々な音楽を聴く、作曲家や作品について調べる、西洋の風景や歴史・文化を知るなど、幅広く音楽的素養を身に付け、感性を磨きましょう。</p> <p>【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>音楽を頭で考え、心で感じて演奏しましょう。</p> <p>オフィスアワーは各レッスン室で授業前後の休み時間です。</p>

【3P1S207】副科電子オルガンⅢ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	相原 里美						
資格・制限等	Pコース必修						
授業内容	1年次に引き続き電子オルガンの演奏法を学びます。市販のデータを分析し、入力技術を学び、演奏法を研究し修得します。スコアリードに挑戦します。						
実務家教員	音楽教室講師・27年						
授業方法	毎週1回の個人レッスンです。個々のレベルにあった指導をします。質問・要望等授業時に受け付けます。						
到達目標	知識・理解	色々なジャンルの音楽を体験し理解できる。			○		
	思考・判断・表現	楽譜からアレンジャーの意図が読み取れる。			○		
	技能	データをいかした演奏力の向上。表情豊かな演奏ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	学んだ内容を復習、理解し、練習する。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	15	40	-	70
	受講態度		-	-	-	15	15
	課題に対する練習状況		-	-	-	15	15
	合計(点)		15	15	40	30	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ自由曲の演奏発表で、評価します。フィードバックとして定期試験実施後に講評を行います。						
ICT活用							
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト	個々に合わせて選択します。						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	春休みの課題発表、授業説明（今後の進め方） [課題]（復習）発表後に得られたコメントを復習する（1～2h）						
2	次の曲決め、課題の確認 [課題]（予習・復習）学んだ内容を復習し、練習にとりかかる（1～2h）						
3	【レジスト分析1】音色、課題の確認 [課題]（予習・復習）学んだ内容を復習し、入力技術を理解する（1～2h）						
4	【レジスト分析2】リズム、課題の確認 [課題]（予習・復習）学んだ内容を復習し、入力技術を理解する（1～2h）						
5	スコアリードについて、課題の確認 [課題]（予習・復習）学んだ内容を復習し、スコアリードについて理解する（1～2h）						
6	スコアリード実習1・レパートリーを増やす、課題の確認 [課題]（予習・復習）学んだ内容を復習し、レパートリーは正確に譜読みを行う（1～2h）						
7	スコアリード実習2・レパートリーを増やす、課題の確認 [課題]（予習・復習）学んだ内容を復習し、レパートリーは強弱をつけて弾けるようする（1～2h）						
8	スコアリード実習3・レパートリーを増やす、課題の確認 [課題]（予習・復習）学んだ内容を復習し、レパートリーはタッチなど奏法に気を付けて弾けるようにする（1～2h）						
9	スコアリード実習4・レパートリーを増やす、課題の確認 [課題]（予習・復習）学んだ内容を復習し、レパートリーはタッチを活かし、曲に合った弾き方ができるようにする（1～2h）						
10	スコアリード実習5・レパートリーを増やす、課題の確認 [課題]（予習・復習）学んだ内容を復習し、レパートリーは全体の流れを考えながら弾けるようにする（1～2h）						
11	試験に向けての取り組み（1）譜読みの確認、課題の確認 [課題]（予習・復習）学んだ内容を復習し、正確に譜読みを行う（1～2h）						
12	試験に向けての取り組み（2）奏法について、課題の確認 [課題]（予習・復習）学んだ内容を復習し、タッチに気を付けて弾けるようにする（1～2h）						
13	試験に向けての取り組み（3）暗譜、課題の確認 [課題]（予習・復習）学んだ内容を復習し、暗譜に取り組む（1～2h）						
14	試験に向けての取り組み（4）仕上げ、課題の確認 [課題]（予習・復習）学んだ内容を復習し、全体の流れを考えながら弾き込む（1～2h）						
15	試験に向けての取り組み（5）発表、課題の確認 [課題]（復習）得られたコメントを復習し、試験に向けて弾き込む（1～2h）						
時間外での学修	色々なジャンルの音楽をたくさん聴きましょう。 [課題]は授業の到達目標達成に必要な内容ですので( )の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15～30】時間						
受講学生へのメッセージ	空き時間を利用して、毎日練習しましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて、授業時間前後の休み時間です。						

【3P1A208】副科電子オルガンⅣ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	相原 里美						
資格・制限等	Pコース必修						
授業内容	色々なジャンルの音楽を体験します。市販曲の構成、編曲を理解しながらデータを分析、参考にして、入力技術を学び、アレンジに挑戦します。前期と同様、演奏法を研究し修得します。						
実務家教員	音楽教室講師・27年						
授業方法	毎週1回の個人レッスンです。個々に適した指導を行います。質問・要望等授業時に受け付けます。						
到達目標	知識・理解	色々なジャンルの音楽を体験し理解する。			○		
	思考・判断・表現	楽譜からアレンジャーの意図を読み取ることができる。表情豊かな演奏ができる。			○		
	技能	データをいかした演奏力の向上。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	15	40	-	70
	課題に対する練習状況		-	-	15	-	15
	授業態度		-	-	15	-	15
	合計(点)		15	15	70	-	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ自由曲の演奏発表で、評価します。フィードバックとして定期試験実施後に講評を行います。						
I C T活用							
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト	個々に合わせて選択します。						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	休暇中の宿題を発表する、選曲 [課題](復習)発表後に得られたコメントを復習する(1~2h)						
2	前期の復習、課題の確認 [課題](予習・復習)学んだ内容を復習し、次の曲の練習にとりかかる(1~2h)						
3	電子オルガンの操作、奏法など ステージアの機能について、課題の確認 [課題](予習・復習)学んだ内容を復習し、電子オルガンの操作などを理解する(1~2h)						
4	レジストについて、課題の確認 [課題](予習・復習)学んだ内容を理解し、レジストについて理解する(1~2h)						
5	レジスト分析、課題の確認 [課題](予習・復習)学んだ内容を理解し、入力技術を理解する。(1~2h)						
6	レパートリーを増やす(譜読みの確認)、課題の確認 [課題](予習・復習)学んだ内容を復習し、正確な譜読みをする(1~2h)						
7	レパートリー増やす(タッチ奏法)、課題の確認 [課題](予習・復習)学んだ内容を復習し、タッチを活かして弾けるようにする(1~2h)						
8	レパートリー増やす(全体の流れ・バランス)、課題の確認 [課題](予習・復習)学んだ内容を復習し、全体の流れ、バランスを考えながら弾けるようにする(1~2h)						
9	アレンジに向けて(説明・選曲)、課題の確認 [課題](予習・復習)学んだ内容を復習し、アレンジ方法を理解する(1~2h)						
10	アレンジに挑戦：取り組み(1) 課題の確認 [課題](予習・復習)学んだ内容を復習し、アレンジを進める(1~2h)						
11	アレンジに挑戦：取り組み(2) 課題の確認 [課題](予習・復習)学んだ内容を復習し、さらにアレンジを進める(1~2h)						
12	アレンジに挑戦：取り組み(3) 仕上げ、課題の確認 [課題](予習・復習)学んだ内容を復習し、アレンジを完成させる(1~2h)						
13	試験に向けての取り組み(1) 譜読みの確認、課題の確認 [課題](予習・復習)学んだ内容を復習し、見落としの無いように正確な譜読みを行う(1~2h)						
14	試験に向けての取り組み(2) 全体の流れとバランスの確認、課題の確認 [課題](予習・復習)学んだ内容を復習し、暗譜で全体の流れを考えながら弾けるようにする(1~2h)						
15	試験に向けての取り組み(3) 発表、仕上げ、課題の確認 [課題](復習)学んだ内容、発表後に得たコメントを復習し、試験に向けて弾き込んで仕上げる(1~2h)						
時間外での学修	色々なジャンルの音楽をたくさん聴きましょう。 [課題]は授業の到達目標達成に必要な内容ですので( )の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15~30時間】						
受講学生へのメッセージ	毎日の練習を怠らない様、空き時間を利用して、電子オルガンに向いましょう。 [オフィスアワー]当授業の教室にて、授業時間前後の休み時間です。						

【3S3A203】 P・O r アンサンブルⅡ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織・相原 里美						
資格・制限等	P・Orコース必修						
授業内容	1年次に引き続き、アンサンブルの魅力や難しさ、協調性などを学びます。アンサンブル演奏を楽しみながら、アンサンブルにおける演奏技術、表現力を共に高めていきます。						
実務家教員	横井：音楽教室講師・10年 相原：音楽教室講師・27年						
授業方法	演習を中心とした1組ずつの演奏・指導を行います。アンサンブル演奏の知識・技術修得の確認のため、発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。						
到達目標	知識・理解	各アンサンブル形態における演奏法についての知識を身に付け、理解することができる。			△		
	思考・判断・表現	楽曲についてパートナーと研究し、楽曲にふさわしい演奏表現をすることができる。			◎		
	技能	アンサンブル演奏の技術を身に付け、各パートを把握・理解しながら、バランスの良いハーモニーで息の合った演奏をすることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	パートナーと十分なコミュニケーションを図りながら積極的に取り組み、協調性・責任感を養うことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	30	30	-	60
	発表		-	5	5	-	10
	受講態度		10	-	-	20	30
	合計(点)		10	35	35	20	100
評価の特記事項	実技試験は最終試験（前期定期試験）で行います。発表はピアノコンチェルトの演奏です。フィードバックとして発表と実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。						
I C T 活用							
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス ピアノコンチェルト（1）譜読みの確認 【課題（準備）】 レッスンまでに各自正確に譜読みをしておく（1～2h）						
2	ピアノコンチェルト（2）課題の確認、少しずつテンポを上げる 【課題（予習・復習）】 レッソンの復習をし、少しずつテンポを上げて弾けるようにしておく（1～2h）						
3	ピアノコンチェルト（3）課題の確認、テクニックの向上 【課題（予習・復習）】 レッソンの復習をし、スムーズに弾けるようにする（1～2h）						
4	ピアノコンチェルト（4）課題の確認、合わせ・バランスの確認 【課題（予習・復習）】 レッソンの復習をし、自分のパートの役割を理解して、全体のバランスを考える（1～2h）						
5	ピアノコンチェルト（5）課題の確認、曲想 【課題（予習・復習）】 レッソンの復習をし、パートナーと楽曲を研究し、曲想を付ける（1～2h）						
6	ピアノコンチェルト（6）課題の確認、音楽表現 【課題（予習・復習）】 レッソンの復習をし、表現力豊かな演奏ができるように弾き込む（1～2h）						
7	ピアノコンチェルト（7）課題の確認、仕上げ 【課題（復習）】 レッソンの復習をし、バランス、呼吸、音楽表現を確認しながら仕上げる（1～2h）						
8	発表 試験曲決め（自由編成。ただしピアノ、電子オルガン両方とも演奏すること） 【課題（復習）】 レッソンの復習をし、中間発表に向けて弾き込む（1～2h）						
9	試験曲（1） 課題の確認、譜読みの確認 【課題（予習）】 各自正確な譜読みをする（1～2h）						
10	試験曲（2） 課題の確認、合わせ 【課題（予習・復習）】 レッソンの復習をし、レッスンまでにパートナーと合わせをする（1～2h）						
11	試験曲（3） 課題の確認、テクニックの向上 【課題（予習・復習）】 レッソンの復習をし、テクニック練習をして、自然に流れるような演奏を目指す（1～2h）						
12	試験曲（4） 課題の確認、バランス 【課題（予習・復習）】 レッソンの復習をし、各パートの把握・理解をしてバランスづくりをする（1～2h）						
13	試験曲（5） 課題の確認、曲想 【課題（予習・復習）】 レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい曲想を付ける（1～2h）						
14	試験曲（6） 課題の確認、音楽表現 【課題（予習・復習）】 レッソンの復習をし、弾き込んで表現力を磨く（1～2h）						
15	試験曲（7） 課題の確認、仕上げ 【課題（復習）】 レッソンの復習をし、バランス、呼吸、音楽表現を確認しながら仕上げる（1～2h）						
時間外での学修	アンサンブル演奏の前提として、個々のパートの演奏力が必要です。責任を持って授業外で個々の練習を行い、授業までにパートナーと合わせ、毎回の授業でアンサンブル演奏が成立してより質の高い音楽が求められるように準備しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15～30時間】						

受講学生への  
メッセージ

授業を欠席するとアンサンブルとしてのレッスンができませんので、欠席をしないようにしてください。  
オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。



【3P1A209】ピアノ指導法 I		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	P・Orコース必修						
授業内容	音楽教育法の一つであるリトミックを体験し、身体を使った音楽表現を通して自分自身の音楽感覚を磨きます。また子どもの発達についても学修し、各発達に沿ったリトミックの方法や子どもへの指導法について研究します。						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業方法	演習を中心として、実際に身体を動かして学修します。豊かな表現力を養うために、発表なども含めて授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。						
到達目標	知識・理解	リトミックや子どもの発達についての知識を修得し、理解することができる。			○		
	思考・判断・表現	リトミック体験を通して豊かな想像力、表現力を養うことができる。			◎		
	技能	音楽に合わせた動きをすることができる。			○		
	関心・意欲・態度	他者とコミュニケーションを図りながら、積極的に取り組むことができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		20	-	-	-	20
	レポート		-	30	-	-	30
	受講態度		-	-	20	30	50
	合計(点)		20	30	20	30	100
評価の特記事項	筆記試験・レポート提出は最終試験(前期定期試験)で行います。フィードバックとしてレポートにコメントを返します。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、筆記試験・レポートの受験資格はありません。						
ICT活用							
課題に対するフィードバック	毎回の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト							
参考書・教材	その都度提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	リトミックを知ろう、基礎リズム [課題(準備・復習)] 身体を動かすことに慣れ、基本的なリズムを体験をする(1h)						
2	拍と拍子(1)、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、音楽の流れに感じられる一定の刻みである拍を体験し、各拍子を体験する(1h)						
3	拍と拍子(2)、アクセント、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、各拍子の比較をしながら拍子感を養う。アクセントの体験をする(1h)						
4	リズムパターン、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、リズム感を養う(1h)						
5	複リズム・補足リズム、リズム即興、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、2グループ・個人による2種類のリズムの同時体験をし、様々なリズムを考える(1h)						
6	ダイナミック・テンポ・スペース(1)、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、身体を使って強弱を表現できるようにする(1h)						
7	ダイナミック・テンポ・スペース(2)、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、身体を使って強弱の比較を表現できるようにする(1h)						
8	ダイナミック・テンポ・スペース(3)、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、テンポ感を養う(1h)						
9	ダイナミック・テンポ・スペース(4)、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、ダイナミック・テンポ・スペースの関係を考える(1h)						
10	フレーズ、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、フレーズ感を養う(1h)						
11	創造的な動き、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、音楽を聴いて想像力・創造力を働かせ、身体で表現することに繋げる(1h)						
12	ピアノによるイメージ即興、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、自由な発想で自由にピアノで表現できるようにする(1h)						
13	子どもの発達とリトミック(1)、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、子どもの発達とリトミックについて考える(1h)						
14	子どもの発達とリトミック(2)、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、子どもの発達とリトミックについて考える(1h)						
15	子どもの発達とリトミック(3)、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、子どもの発達とリトミックについて考える(1h)						
時間外での学修	リトミックは豊かな人間性を育成することを目的とした音楽教育です。授業外でも学修した内容を復習するとともに、日頃から日常の小さなことにも感じる心を持ち、豊かな想像力、表現力を養うように心掛けましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	リトミックでは身体を動かしますので、運動のできる服装・履物で出席してください。オフィスアワーは研究室B206で毎週金曜日の午後です。						

【3P1A210】ピアノ指導法Ⅱ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	P・Orコース必修						
授業内容	前期に学修したリトミックで体得したことも踏まえながら、教則本を通して子どものピアノ指導法を研究します。						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業方法	演習を中心として、実践・発表なども含めて授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。						
到達目標	知識・理解	指導者としての幅広い知識を身に付け、理解することができる。			○		
	思考・判断・表現	豊かな想像力と表現力をもって指導法を考えることができる。			◎		
	技能	楽曲の理解に基づく演奏ができ、指導法に活かすことができる。			○		
	関心・意欲・態度	子ども（生徒）との関わりや指導に関心を持ち、積極的な取り組みができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		20	20	-	-	40
	実践・発表		-	20	20	-	40
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		20	40	20	20	100
評価の特記事項	筆記試験は最終試験（後期定期試験）で行います。実践・発表は授業時に行います。フィードバックとして実践・発表の講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（筆記試験）の受験資格はありません。						
ICT活用							
課題に対するフィードバック	毎回の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト							
参考書・教材	その都度提示します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	様々なピアノ教則本を知る [課題(予習)] 自分の知っているピアノ教則本を挙げておく(1h)						
2	導入・初級(1) バイエル・バーナムなどを用いて、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示された曲を弾けるようにしておく(1h)						
3	導入・初級(2) 併用曲集、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示された曲を弾けるようにしておく(1h)						
4	ソルフェージュ・おんがくドリルについて、課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、様々なドリル、ソルフェージュ教材を知る(1h)						
5	ブルクミュラー(1) 楽曲・指導研究①、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示された曲を弾けるようにしておく(1h)						
6	ブルクミュラー(2) 楽曲・指導研究②、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示された曲を弾けるようにしておく(1h)						
7	ブルクミュラー(3) 楽曲・指導研究③、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示された曲を弾けるようにしておく(1h)						
8	ブルクミュラー(4) 楽曲・指導研究④、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示された曲を弾けるようにしておく(1h)						
9	ブルクミュラー(5) 楽曲・指導研究⑤、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示された曲を弾けるようにしておく(1h)						
10	小曲集(1) 楽曲・指導研究①、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示された曲を弾けるようにしておく(1h)						
11	小曲集(2) 楽曲・指導研究②、課題の確認 [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示された曲を弾けるようにしておく(1h)						
12	エディションについて [課題(復習)] 学修した内容を復習し、各作曲家の適切な楽譜エディションを知る(1h)						
13	指導実践(1) 30分レッスンの組み立て [課題(復習)] 学修した内容を復習し、レッスン内容を考える(1h)						
14	指導実践(2) 模擬レッスン① [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示された曲を弾けるようにしておく(1h)						
15	指導実践(3) 模擬レッスン② [課題(予習・復習)] 学修した内容を復習し、提示された曲を弾けるようにしておく(1h)						
時間外での学修	提示された課題を次回の授業時に演奏できるよう練習しておいてください。また自分なりにどのように子どもに指導するか、指導者の視点でも考え練習しましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	授業で紹介する教則本はほんのわずかです。教則本全てを網羅することはできませんので、各自少しずつでも教則本を調べるなどして、指導に活かせるようにしましょう。 オフィスアワーは研究室B206で毎週金曜日の午後です。						

【3S3A204】ピアノ・電子オルガン特講		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	相原 里美・田中 康司						
資格・制限等	P・Orコース必修						
授業内容	授業前半はブライダルプレイヤーとしての心得を学び、電子オルガンにてチャペル式の流れを式次第にそって演習します。(担当:相原) 後半はピアノの歴史、構造としくみ、ピアノに関わる色々な知識を身に付け、自身の演奏、卒業後の職業などに役立ちます。(担当:田中)						
実務家教員	(相原)音楽教室講師27年・(田中)調律師・30年						
授業方法	個人レッスンです。個々のレベルにあった指導をします。質問・要望等授業時に受け付けます。(担当:相原) ピアノの構造としくみは講義を中心として、DVD鑑賞、ピアノの分解、調律の体験などを通じてピアノへの理解を深めます。また学外授業としてサラマンカホールの見学をします。						
到達目標	知識・理解	ブライダルプレイヤーの心得を知り、チャペル式の流れを理解できる。(担当:相原) ピアノの歴史、構造としくみ、ピアノに関わる色々な知識を理解することができる。			◎		
	思考・判断・表現	その場の雰囲気を先読みし、新郎・新婦の動作に合わせた演奏ができる。(担当:相原) ピアノの特性を理論立てて伝えることができる。ピアノの特性を自身の演奏に活かし表現することができる。			○		
	技能	真心を込めた丁寧な演奏、状況に対応した演奏ができる。(担当:相原)			○		
	関心・意欲・態度	授業に意欲を持って参加し、学んだ内容を必ず復習する。(担当:相原) ピアノへの理解を通じて、他の楽器や様々な音楽への興味を持ち、音楽の専門家として幅広い知識と教養を身に付けることができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	(相原)実技試験		10	10	20	-	40
	(相原)受講態度		-	-	-	5	5
	(相原)課題に対する練習状況		-	-	-	5	5
	(田中)筆記試験		30	-	-	-	30
	(田中)発表・レポート		-	10	-	-	10
	(田中)受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		40	20	20	20	100	
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。(担当:相原) 実習を終了して所定のレポートを提出することが単位の要件となります。						
ICT活用							
課題に対するフィードバック	毎週の課題については、次回の授業でコメントします。(担当:相原) フィードバックとして筆記試験後、時間内に採点、間違えた回答には正解を伝えます。(担当:田中)						
テキスト							
参考書・教材	授業内でプリントを配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1(相原)	授業説明(今後の授業の進め方)・予備知識(ブライダルプレイヤーのお仕事について) [課題(準備)]動画などでチャペル式とはどのようなものか観ておく。 ブライダルプレイヤーとしての仕事内容を理解する(1~2h)						
2(相原)	式次第にそって演習(チャペル式) (1)流れ(音楽を入れるタイミング等)、課題の確認 [課題(予習・復習)]どの場面で音楽を入れるかを理解し、流れを復習する(1~2h)						
3(相原)	式次第にそって演習(チャペル式) (2)入場曲、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、見落としのないよう正確な譜読みをする(1~2h)						
4(相原)	式次第にそって演習(チャペル式) (3)讃美歌、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、一定のテンポで弾けるようにしておく(1~2h)						
5(相原)	次第にそって演習(チャペル式) (4)指輪交換等でのBGM、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、即興で繋げられるようにする(1~2h)						
6(相原)	式次第にそって演習(チャペル式) (5)退場曲、課題の確認 [課題(予習・復習)]学んだ内容を復習し、止まらないように弾けるようにしておく(1~2h)						
7(相原)	試験に向けての取り組み、まとめ、課題の確認 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、臨機応変な対応ができるようにする(1~2h)						
8(相原)	実技試験 [課題(復習)]実技試験の際に得られたコメントを復習する(1~2h)						
9(田中)	ピアノの構造としくみ(1)鍵盤楽器の歴史(ピアノの前身楽器と、ピアノの発明・発展を学ぶ)など [課題(復習)]国内外のピアノメーカーを国別に調べる(1h)						
10(田中)	ピアノの構造としくみ(2)グランドピアノとアップライトピアノの違いを知る [課題(復習)]1つのピアノメーカーを選び、機種ごとの大きさ(間口・奥行・高さ)と重さを調べる(1h)						
11(田中)	ピアノの構造としくみ(3)グランドピアノとアップライトピアノの違いを知る [課題(復習)]古い時代のペダルを調べる(例:モーツァルトが活躍した時代のペダルの機能は今と同じか)(1h)						
12(田中)	ピアノの構造としくみ(4)調律師の仕事を知る [課題(復習)]平均律とはどんな調律方法か調べる、平均律以外にどんな調律方法があるか調べる(1h)						
13(田中)	ピアノの構造としくみ(5)ピアノに使われている材料と製造過程を学び、ピアノに適した環境を考える。 [課題(復習)]実施回10の準備と課題で選んだピアノメーカーの機種ごとの特長を調べる(1h)						
14(田中)	ピアノの構造としくみ(6)・サラマンカホールの見学 [課題(予習)]サラマンカホールに関して、案内パンフレットやホームページなどを読んで予習する(1h)						
15(田中)	ピアノの構造としくみ(7)・国際音楽コンクールに関する知識を身に着ける [課題(復習)]国内外の音楽コンクールを調べる(1h)						

<p>時間外での学修</p>	<p>どんなリクエスト曲がきても困らないように、色んなジャンルの曲をとにかく知り、弾いてみましょう。  (担当：相原)  ピアノの構造としくみは、自分自身の演奏や卒業後の仕事に生かせる知識を身につけます。ピアノまた他の楽器に関しても疑問に思ったことは積極的に調べ知るように心掛けましょう。  【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：18時間】</p>
<p>受講学生へのメッセージ</p>	<p>(相原) 空き時間を利用して必ず学んだ内容を復習しましょう。  質問等あれば遠慮なく聞いてください。  オフィスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。  (田中) 動きやすい服装・履物で出席してください。グランドピアノの鍵盤蓋や天屋根の分解などを体験してもらいます。オフィスアワーは教室で授業前後の休み時間です。</p>

【3P1S111】 楽曲研究		音楽総合学科		2年前期		
		2単位	選択	講義	30時間	
教員	柴田 恭男					
資格・制限等	Pコース必修					
授業内容	曲を分析し、研究することは、演奏、解釈に欠かせません。それは作曲家の意図を探り、隠されたメッセージを読み取ることであります。また作曲や編曲への大きな手引きにもなります。この授業では、短い易しい曲から長大な曲まで、段階を経て、いろいろな角度からのアプローチをしていきます。きっと新たな発見があることでしょう。					
実務家教員						
授業方法	講義を中心に進めますが、随時発表の機会を設け、自発的な授業展開をしていきます。					
到達目標	知識・理解	楽曲の形式、和声構造について、基本的な知識を理解できる。			◎	
	思考・判断・表現	楽曲から作曲者の意図を読み取ることができる。			○	
	技能	分析した楽曲を模範として類似したものを創作できる。			○	
	関心・意欲・態度	曲を分析・研究することに興味・関心を持ち、学んだことを演奏や創作に積極的に生かす努力をしながら学修に取り組むことができる。			○	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	試験・レポート	45	10	10	-	65
	発表	5	5	5	5	20
	学修成果の自己評価	5	-	-	-	5
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	55	15	15	15	100
評価の特記事項	試験は、定期テスト及びレポート提出で行います。受講態度は学修への取り組みや発表、提出の状況などから総合的に評価します。3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	課題のフィードバックについては次回の授業時に確認、質疑応答などの対応をします。					
テキスト	ありません。					
参考書・教材	授業内で指示します。また必要な資料は配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	楽曲研究の基礎1（音楽理論の確認） [課題（復習）] 音程・音階・和音の復習(2～4h)					
2	楽曲研究の基礎2（楽曲分析に必要な知識、和声音と非和声音、及び借用和音について） [課題（復習）]調性判定・和音記号・コードネームの確認（2～4h）					
3	一部形式について（身近な曲を教材に） [課題（復習）]一部形式の旋律の創作(2～4h)					
4	第1回～第3回オンライン授業の復習。及び二部形式について（フォスターの作品を中心に） [課題（復習）]二部形式の旋律の創作(2～4h)					
5	三部形式、複合三部形式、ロンド形式について（ソナチネアルバム、バイエルなどから） [課題（復習）]基礎形式のまとめ(2～4h)					
6	器楽的小楽曲の分析（ブルグミュラーの作品から） [課題（復習）]形式、和声などを分析し、授業で発表する(2～4h)					
7	変奏と変奏曲（さまざまな変化のパターンについて） [課題（復習）]厳格なバリエーションと自由なバリエーションの違い(2～4h)					
8	ベートーヴェンの変奏曲の分析と研究 [課題（復習）]32の変奏曲の分析(2～4h)					
9	ソナタ形式について（その成立と変遷） [課題（復習）]ソナタ形式についてまとめる(2～4h)					
10	ベートーヴェンのピアノソナタの分析と研究 [課題（復習）]第1番の分析(2～4h)					
11	多声音楽と対位法技法について [課題（復習）]二声対位法の課題の実施(2～4h)					
12	バッハのインヴェンションの分析と研究（多様性に注目して） [課題（復習）]第1番の分析(2～4h)					
13	ロマン派作品の研究 [課題（復習）]ショパンノクターンの分析(2～4h)					
14	印象派作品の分析と研究（作曲家の個性と特徴） [課題（復習）]ドビュッシーアラバスク第1番(2～4h)					
15	さまざまな楽器について 及び楽曲研究のまとめ 試験についての説明 [課題（復習）]楽器を分類しまとめる(2～4h)					
時間外での学修	[課題（復習）]としてしめた内容を（ ）の標準学修時間をめどとして取り組んで下さい。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】					
受講学生へのメッセージ	授業で取り上げた曲以外の曲も、積極的に分析してみてください。 オフィスアワー：質問等は授業前後の休み時間にB404教室で受け付けます					

【3S4S203】グレード対策A(ピアノ)Ⅲ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	上園 弥生						
資格・制限等	特になし						
授業内容	1年にひき続き、演奏グレードの即興演奏 指導グレードのコード進行方、弾き歌い、などについて学びます。変奏の方法とまとめ方を実習しながら勉強していきます。初見演奏のポイント、理解し練習します。						
実務家教員	ピアノグレード試験官27年 音楽指導者32年						
授業方法	個別指導です。						
到達目標	知識・理解	変奏の方法、課題を理解し、まとめられる。			○		
	思考・判断・表現	与えられた課題を音楽的に演奏できる。			○		
	技能	その場で思った通りに即興演奏できる力をつける。			◎		
	関心・意欲・態度	課題に積極的に取り組む。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		15	15	40	-	70
	授業態度		-	-	-	15	15
	課題に対する取り組み		-	-	-	15	15
	合計(点)		15	15	40	30	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ即興演奏の発表、課題実習で、評価します。						
I C T活用							
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、試験後に、講評を行います。						
テキスト	授業で提示します。資料を配付します。						
参考書・教材	必要に応じて紹介します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	春休みの課題発表 [課題(準備、他)]ポイントをおさえる(1~2h)						
2	1年間の復習と、確認 授業外の課題も参考にして、実習(伴奏づけ、第1変奏、第2変奏) [課題(準備、復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)						
3	バス進行について確認 課題実習 [課題(準備、復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)						
4	もりあげ方について 課題実習 [課題(準備、他)]学んだ内容を復習し、実習する(1~2h)						
5	クライマックスをどこにおくか 課題実習 [課題(復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)						
6	モチーフ即興について 課題実習 [課題(復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)						
7	形式について 課題実習 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、実習する(1~2h)						
8	和音進行について 課題実習 [課題(準備、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)						
9	モチーフの発展について 課題実習 [課題(準備、復習)]学んだ内容を復習し、実習する(1~2h)						
10	和音進行と配置について 課題実習 [課題(準備、復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)						
11	まとめ方 課題実習 [課題(復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)						
12	即興A課題実習 試験に向けて 授業外の課題も参考にする。 [課題(準備、復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)						
13	即興B課題実習 試験に向けて 授業外の課題も参考にする。 [課題(復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)						
14	初見課題実習 授業外の課題も参考にする。 [課題(準備、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)						
15	予見について 試験に向けて [課題(準備、復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)						

時間外での学修	学修した事を復習し、積極的に課題に取り組みましょう。 [課題]は授業の到達目標達成に必要となる内容ですので( )の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15~30時間]
受講学生へのメッセージ	わからない事を、放置しないようにしましょう。(いつでもよいので聞いて下さい) [オフィスアワー]当授業の教室にて、授業時間の前後5分程度

【3S4A204】グレード対策A(ピアノ)IV		音楽総合学科		2年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	上園 弥生					
資格・制限等	特になし					
授業内容	前期にひき続き、演奏グレードの即興演奏 指導グレードのコード進行などについて学びます。変奏の方法とまとめ方を実習しながら勉強していきます。初見演奏のポイントを、理解し練習します。5級、4級受験の準備					
実務家教員	ピアノグレード試験官27年 音楽指導者32年					
授業方法	個人指導です。					
到達目標	知識・理解	変奏の方法を理解し、まとめられる。グレード試験を受験できる力をつける。			○	
	思考・判断・表現	与えられた課題を音楽的に演奏できる。			○	
	技能	その場で思った通りに演奏できる力をつける。			◎	
	関心・意欲・態度	課題に積極的に取り組む			◎	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	15	15	40	-	70
	授業態度	-	-	-	15	15
	課題に対する取り組み	-	-	-	15	15
	合計(点)	15	15	40	30	100
評価の特記事項	実技試験は、授業で取り組んだ即興演奏の発表で、評価します					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、試験後に、講評を行います。					
テキスト	授業で提示します。資料を配付します。					
参考書・教材	必要に応じて紹介します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	夏休みの課題発表 形式について確認 [課題(復習、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)					
2	モチーフ即興の確認及び課題実習 [課題(準備、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)					
3	モチーフ即興の確認及び課題実習 [課題(復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)					
4	モチーフ即興の確認及び課題実習 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、実習する(1~2h)					
5	モチーフ即興の確認及び課題実習 [課題(準備、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)					
6	モチーフ即興の確認及び課題実習 [課題(準備、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)					
7	モチーフ即興の確認及び課題実習 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、実習する(1~2h)					
8	5級、4級受験に向けて、即興A課題実習 授業外の課題も参考にする。 [課題(準備、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)					
9	5級、4級、受験に向けて、即興A課題実習 [課題(復習)]学んだ内容を復習し、実習する(1~2h)					
10	5級、4級、受験に向けて、即興A課題実習 [課題(復習)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)					
11	5級、4級、受験に向けて、即興B課題実習 [課題(復習、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)					
12	5級、4級、受験に向けて、即興B課題実習 [課題(復習、他)]試験に向けて、学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)					
13	5級、4級受験に向けて、試験に向けて 即興A課題実習 即興B課題実習 [課題(復習、準備、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)					
14	初見課題実習 [課題(復習、準備、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)					
15	予見について 試験に向けて 授業外の課題も参考にする。 [課題(復習、準備、他)]学んだ内容を理解し、実習する(1~2h)					
時間外での学修	学修した事を復習し、積極的に課題に取り組みましょう。 [課題]は授業の到達目標達成に必要な内容ですので( )の標準学修時間をめどにして、授業外で確実に学修を進めましょう【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間: 20時間】					
受講学生へのメッセージ	わからない事を、放置しないようにしましょう。(いつでもよいので聞いて下さい) [オフィスアワー]当授業の教室にて、授業時間の前後5分程度					



【3S4S207】グレード対策A(電子オルガン) Ⅲ		音楽総合学科		2年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	石原 朱実					
資格・制限等	特になし					
授業内容	演奏グレード即興A Bモチーフ即興 4級程度の課題演習 基礎編(5級で学んだ事の確認と4級へ向けての応用へ)					
実務家教員						
授業方法	演習授業で、1人ずつ指導を行います。 1年次で学んだことの基礎から応用へ。 より良い即興表現力の向上の為に良質の音楽(クラシックからポピュラー)をアナリーゼし即興に応用。					
到達目標	知識・理解	1.音楽の形式、構造、和声の仕組みを理解できる 2.即興A、新曲の形式を捉え、曲想を把握できる			○	
	思考・判断・表現	与えられたテーマから曲想を読み取りリズムを感じられるようにする			○	
	技能	楽譜を指示通り弾くのみでなく、自分なりのアレンジ演奏ができる			◎	
	関心・意欲・態度	自分なりのアレンジ演奏ができるという喜びを感じるようになること			◎	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	20	20	20	10	70
	受講態度	-	-	10	20	30
	合計(点)	20	20	30	30	100
評価の特記事項	ICT活用					
課題に対するフィードバック	実技試験後に、講評を述べアドバイスをする。					
テキスト	ありません。					
参考書・教材	コピーにて渡します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	5級程度の基礎がどの程度身についているか確認。 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)					
2	コード付けについて ・コードパターン、ベース進行、固有和音、借用和音等 個別別に説明確認 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)					
3	スケール、カデンツ#b4つまでのトレーニングを個別別実施確認 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)					
4	即興A新曲演奏について [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)					
5	既成曲よりコードパターン、ベース進行のアナリーゼ [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)					
6	課題による演習 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)					
7	課題による演習 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)					
8	即興Bモチーフ即興について [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)					
9	色々なコードパターンを取り上げ、個々に作曲する [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)					
10	個人チェック [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)					
11	新曲にコード付け [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)					
12	課題による演習 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)					
13	課題による演習 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)					
14	リズムのパターン、5級で学んだものプラス、サンバ・タンゴ・ジャズワルツのトレーニング [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)					
15	基礎パターンの個人チェック [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)					
時間外での学修	数多くの音楽を注意深く聴き、多くの良質のアレンジ譜を演奏し、それを分析・アナリーゼして即興のヒントにする。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】					
受講学生へのメッセージ	ひたすらカデンツとスケール(#b4つまでの長短調)を粘り強くトレーニングする事。 オフィスアワーは非常勤講師控室で毎週金曜日12:40~12:55です。					

【3S4A208】グレード対策A(電子オルガン) IV		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	石原 朱実						
資格・制限等	特になし						
授業内容	演奏グレード即興A B 4級程度の課題実習 応用編(リズムパターン・ハーモニー付け・編曲演奏)						
実務家教員							
授業方法	演習授業で、1人ずつ指導を行います。 前期に学んだ事の確認と4・3級への応用						
到達目標	知識・理解	4級の過去問題集の実習と自己演奏表現力の向上			○		
	思考・判断・表現	電子オルガン(ステージア)の即興演奏に良い音作りができる事			○		
	技能	楽譜を指示通り弾くのみでなく、自分なりのアレンジ演奏ができる			◎		
	関心・意欲・態度	即興演奏とは何か。かたちだけにとらわれず、楽しく自己表現できる事			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		20	20	20	10	70
	受講態度		-	-	10	20	30
	合計(点)		20	20	30	30	100
評価の特記事項	ICT活用						
課題に対するフィードバック	実技試験後に、講評を述べアドバイスをする。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	コピーで渡します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	即興A、B 基礎パターン(コード付け)の確認 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
2	個人チェック [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
3	楽曲のリズムパターンのアナリゼ(既成曲より) [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
4	リズムパターンの復習、確認(マーチ・ワルツ・ジャズワルツ・サンバ・ビギン・ルンバ) [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
5	課題による演習 個人チェック [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
6	課題による演習 個人チェック [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
7	モチーフ即興 個人パターンを作り発表 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
8	課題による演習 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
9	即興Aにおけるステージアの音作り [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
10	個人チェック [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
11	即興Bにおけるステージアの音作り [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
12	個人チェック [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
13	即興A コード付け色々応用、課題にて発表 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
14	即興演奏4級の総括 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
15	即興演奏4級の総括 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1~2h)						
時間外での学修	1年次に学んだ基礎をさらに磨く事 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	即興演奏は楽しいですよ。 オフィスアワーは非常勤講師控室で毎週金曜日12:40~12:55です。						

【3S4S211】グレード対策BⅢ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	特になし						
授業内容	カワイピアノ演奏グレードの課題である伴奏付けと、カワイピアノ指導グレードの内容であるオーケストラや室内楽のスコアに関する知識に基づいたスコアリーディング、和声進行についての正しい理解に基づいたピアノ譜作成などを修得します。また初見奏も学修します。						
実務家教員							
授業方法	演習を中心として、知識の理解と技術修得に向け、小グループでの活動や発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。						
到達目標	知識・理解	スコアに用いられている記号、ジャンル、楽器などについての知識を修得することができる。 和音記号、コードネームを正しく認識し、メロディ、和音記号、コードネームから適切な和音、和音連結、内声部、伴奏形を導き出すことができる。			◎		
	思考・判断・表現	メロディから適切な和音・和音連結・伴奏形を判断し、音楽的に演奏することができる。			◎		
	技能	初見奏にて、音楽を楽譜からの確にとらえる能力、また音楽的に表現する能力を身に付けることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	-	-	-	30
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	筆記試験・実技試験は最終試験（前期定期試験）で行います。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（筆記試験・実技試験）の受験資格はありません。						
ICT活用							
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト	『はじめてのオーケストラ・スコア スコアの読み方ハンドブック』野本 由紀夫 音楽之友社(1,980円) ISBN:978-4-276-10142-5 『キーボード・アレンジ ピアノ篇』カワイ出版(2,750円) ISBN:978-4-7609-7542-6 『キーボードトレーニング集C』カワイ出版(1,980円) ISBN:978-4-7609-7481-8						
参考書・教材	必要に応じて配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス カデンツについて・伴奏スタイルについて/T-D-Tの4小節トレーニング(1)/スコアリーディング(1)オーケストラの編成/ピアノ譜作成(1)ラインと音域・和音の転回/初見奏 [課題(復習)] 1年次に学修した内容を復習し、T-D-Tの課題が演奏できるようにし、オーケストラの編成、ラインと音域、転回形について理解する(1h)						
2	T-D-Tの4小節トレーニング(2)/スコアリーディング(2)移調楽器/ピアノ譜作成(2)ベースの転回位置・コードの連結とポジション/初見奏/課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、T-D-Tの課題が演奏できるようにし、移調楽器、ベースの転回位置、コードの連結とポジションについて理解する(1h)						
3	T-S-D-Tの4小節トレーニング(1)/スコアリーディング(3)木管楽器①/ピアノ譜作成(3)連続5度・連続8度/初見奏/課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、T-S-D-Tの課題が演奏できるようにし、木管楽器、連続5度・連続8度について理解する(1h)						
4	T-S-D-Tの4小節トレーニング(2)/スコアリーディング(4)木管楽器②/ピアノ譜作成(4)解決/初見奏/課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、T-S-D-Tの課題が演奏できるようにし、木管楽器、解決について理解する(1h)						
5	Iの第2転回形を含む4小節トレーニング(1)/スコアリーディング(5)金管楽器①/ピアノ譜作成(5)分散和音の伴奏形①/初見奏/課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、Iの第2転回形を含む課題が演奏できるようにし、金管楽器、分散和音の伴奏形について理解する(1h)						
6	Iの第2転回形を含む4小節トレーニング(2)/スコアリーディング(6)金管楽器②/ピアノ譜作成(6)4和音の配置と連結/初見奏/課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、Iの第2転回形を含む課題が演奏できるようにし、金管楽器、4和音の配置と連結について理解する(1h)						
7	T-S-Tを含む4小節トレーニング(1)/スコアリーディング(7)打楽器/ピアノ譜作成(7)分散和音の伴奏形②/初見奏/課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、T-S-Tを含む課題が演奏できるようにし、打楽器、分散和音の伴奏形について理解する(1h)						
8	T-S-Tを含む4小節トレーニング(2)/スコアリーディング(8)弦楽器①/ピアノ譜作成(8)分散和音の伴奏形③/初見奏/課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、T-S-Tを含む課題が演奏できるようにし、弦楽器、分散和音の伴奏形について理解する(1h)						
9	8小節トレーニング(1)/スコアリーディング(9)弦楽器②/ピアノ譜作成(9)コードの機能とカデンツ・ドミナントモーションと限定進行/初見奏/課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、8小節の課題が演奏できるようにし、弦楽器、コードの機能とカデンツ、ドミナントモーション、限定進行について理解する(1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
10	8小節トレーニング(2) / スコアリーディング(10) その他の楽器 / ピアノ譜作成(10) ドミナントモーションの連結①・右手のメロディ+コード / 初見奏 / 課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、8小節の課題が演奏できるようにし、その他の楽器、ドミナントモーションの連結、右手のメロディ+コードについて理解する(1h)
11	8小節トレーニング(3) / スコアリーディング(11) 舞台配置とスコアの関係① / ピアノ譜作成(11) ドミナントモーションの連結②・3度、6度の重音 / 初見奏 / 課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、8小節の課題が演奏できるようにし、舞台配置とスコアの関係、ドミナントモーションの連結について理解する(1h)
12	ドッペルドミナントを含むパターン(1) / スコアリーディング(12) 舞台配置とスコアの関係② / ピアノ譜作成(12) カウンターライン / 初見奏 / 課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、ドッペルドミナントを含む課題が演奏できるようにし、舞台配置とスコアの関係、カウンターラインについて理解する(1h)
13	ドッペルドミナントを含むパターン(2) / スコアリーディング(13) 実際のスコアを読む① / ピアノ譜作成(13) 連続8度とピアノのオクターヴ奏法・単音、密集配置の伴奏形 / 初見奏 / 課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、ドッペルドミナントを含む課題が演奏できるようにし、実際のスコア、連続8度とピアノのオクターヴ奏法、単音・密集配置の伴奏形について理解する(1h)
14	ドッペルドミナントを含むパターン(3) / スコアリーディング(14) 実際のスコアを読む② / ピアノ譜作成(14) 密集伴奏形 / 初見奏 / 課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、ドッペルドミナントを含む課題が演奏できるようにし、実際のスコア、密集伴奏形について理解する(1h)
15	スコアリーディング(15) 実際のスコアを読む③ / ピアノ譜作成(15) 実例を見ながら / 初見奏 / 課題の確認 / まとめ・受験対策 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、実際のスコア、ピアノ譜について理解し、受験に向けて準備をする(1h)
時間外での学修	毎回課題を提示しますので、授業外で必ず練習を行い、授業時に演奏できるようにしましょう。学修した内容を授業外で復習し、知識修得に努めましょう。初見奏も授業外で自主的にトレーニングしましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	自己練習を怠らず、上級グレード取得に向けて取り組みましょう。分からないことは質問するなどし、必ず解決しましょう。 オフィスアワーは研究室B206で毎週金曜日の午後です。

【3S4A212】グレード対策BIV		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	特になし						
授業内容	カワイピアノ演奏グレードの課題である伴奏付けと、カワイピアノ指導グレードの内容であるピアノ曲における楽曲分析、和声進行の知識に基づいたピアノ譜作成などを修得し、修得した知識と技術を活かして更に発展していきます。また初見奏も学修します。						
実務家教員							
授業方法	演習を中心として、知識の理解と技術修得に向け、小グループでの活動や発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。						
到達目標	知識・理解	調性および関係調、カデンツ、非和声音、モチーフの使われ方、フレーズの盛り上げ方、和声の変化の仕方などの知識を理解することができる。 和音記号、コードネームを正しく認識し、メロディ、和音記号、コードネームから適切な和音、和音連結、内声部、伴奏形を導き出すことができる。			◎		
	思考・判断・表現	メロディから適切な和音・和音連結・伴奏形を判断し、音楽的に演奏することができる。			◎		
	技能	初見奏にて、音楽を楽譜からの確にとらえる能力、また音楽的に表現する能力を身に付けることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	積極的な取り組みが継続できる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	-	-	-	30
	実技試験		-	30	30	-	60
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	筆記試験・実技試験は最終試験（後期定期試験）で行います。フィードバックとして実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（筆記試験・実技試験）の受験資格はありません。						
I C T活用							
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト	『和声と楽式のアナリゼ』島岡 譲 音楽之友社(2,200円) ISBN:978-4-276-10213-2 『キーボードトレーニング集C』カワイ出版(1,980円) ISBN:978-4-7609-7481-8						
参考書・教材	必要に応じて配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	総合課題（1）／楽曲分析（1）旋律と和声・和音・和音の組み立て・和音の分析・分散和音・非和声音／ピアノ譜作成（1）課題に取り組む／初見奏 [課題(復習)] 前期に学修した内容を復習し、総合課題が演奏できるようにし、旋律と和音について理解する（1h）						
2	総合課題（2）／楽曲分析（2）カデンツの第1型・カデンツの第3型・2部形式の曲・3部形式の曲・2部形式と3部形式との違い・コード／ピアノ譜作成（2）課題に取り組む／初見奏／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、総合課題が演奏できるようにし、カデンツ、形式について理解する（1h）						
3	総合課題（3）／楽曲分析（3）カデンツの第2型・低音位・DとしてのI 2 転 - V ・ S としてのII / ピアノ譜作成（3）課題に取り組む／初見奏／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、総合課題が演奏できるようにし、カデンツ、和音の機能について理解する（1h）						
4	総合課題（4）／楽曲分析（4）主音の保続音・非和声音のつづき・近親調・同主調・転調／ピアノ譜作成（4）課題に取り組む／初見奏／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、総合課題が演奏できるようにし、保続音、非和声音、関係調について理解する（1h）						
5	よく使われるコードパターン（1）／楽曲分析（5）複合3部形式／ピアノ譜作成（5）課題に取り組む／初見奏／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、よく使われるコードパターンが演奏できるようにし、複合3部形式について理解する（1h）						
6	よく使われるコードパターン（2）／楽曲分析（6）TとしてのVI・各種のD和音・各種のS和音／ピアノ譜作成（6）課題に取り組む／初見奏／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、よく使われるコードパターンが演奏できるようにし、和音の機能について理解する（1h）						
7	よく使われるコードパターン（3）／楽曲分析（7）終止・非和声音のおぎない・ロンド形式／ピアノ譜作成（7）課題に取り組む／初見奏／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、よく使われるコードパターンが演奏できるようにし、終止、非和声音、ロンド形式について理解する（1h）						
8	伴奏付け課題（1）／楽曲分析（8）ソナタ形式・ソナタ形式分析の要領／ピアノ譜作成（8）課題に取り組む／初見奏／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにし、ソナタ形式について理解する（1h）						
9	伴奏付け課題（2）／楽曲分析（9）借用和音・Sとしてのドッペルドミナント／ピアノ譜作成（9）課題に取り組む／初見奏／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにし、借用和音、ドッペルドミナントについて理解する（1h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
10	伴奏付け課題（3）／楽曲分析（10）ドッペルドミナントの下方変位／ピアノ譜作成（10）課題に取り組む／初見奏／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにし、ドッペルドミナントの下方変位について理解する（1h）
11	伴奏付け課題（4）／楽曲分析（11）ナボリのⅡ・ドリアのⅣ・Ⅴの和音の上方変位／ピアノ譜作成（11）課題に取り組む／初見奏／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにし、ナボリのⅡ、ドリアのⅥ、Ⅴの和音の上方変位について理解する（1h）
12	伴奏付け課題（5）／楽曲分析（12）各音度の5度関連・偶成和音・主音上のⅤ・属音の保続音／ピアノ譜作成（12）課題に取り組む／初見奏／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにし、各音度の5度関連、偶成和音、主音上のⅤ、属音の保続音について理解する（1h）
13	伴奏付け課題（6）／楽曲分析（13）変奏曲／ピアノ譜作成（13）課題に取り組む／初見奏／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにし、変奏曲について理解する（1h）
14	伴奏付け課題（7）／楽曲分析（14）ソナタ形式のまとめ・楽曲としてのソナタ・各種演奏形態におけるソナタ／ピアノ譜作成（14）課題に取り組む／初見奏／課題の確認 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、提示した課題が演奏できるようにし、ソナタ形式について理解する（1h）
15	楽曲分析（15）ロンド形式のまとめ／ピアノ譜作成（15）課題に取り組む／初見奏／課題の確認／まとめ・受験対策 [課題(復習)] 学修した内容を復習し、ロンド形式について理解し、受験に向けて準備をする（1h）
時間外での学修	毎回課題を提示しますので、授業外で必ず練習を行い、授業時に演奏できるようにしましょう。学修した内容を授業外で復習し、知識修得に努めましょう。初見奏も授業外で自主的にトレーニングしましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	自己練習を怠らず、上級グレード取得に向けて取り組みましょう。分からないことは質問するなどし、必ず解決しましょう。 オフィスアワーは研究室B206で毎週金曜日の午後です。

【3S4A215】グレード対策応用 I		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	特になし						
授業内容	指導グレードに必要な和声学、音楽知識を身に付け、各自、希望するグレード取得を目指します。						
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業方法	講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。						
到達目標	知識・理解	和声と楽典の基礎的な知識を身に付け、更に、応用し、問題演習する。			◎		
	思考・判断・表現	西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようにしたい。楽典を習熟することで、演奏者としての表現力を高めたい。			○		
	技能	グレード取得により、社会的評価を得て、就職活動へと繋げていく。			○		
	関心・意欲・態度	和声と楽典の知識を、演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		50	20	20	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		50	20	20	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。						
I C T活用							
課題に対するフィードバック	毎回、宿題プリントの添削と解答の説明を、授業内で個別指導していきます。						
テキスト	『和声理論と実習 I』島岡 護 他 音楽之友社(3,024円) ISBN:978-4276102057 『ヤマハ指導グレード5,4,3級筆記試験問題一覧2013~2015年実施』ヤマハ音楽振興会 ヤマハ音楽振興会(1,430円) ISBN:を9784864617437 「グレード対策基礎 I・II」履修者は購入済						
参考書・教材	授業中に配布するプリントを、教材としますので、必ず保管して下さい。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	属7の和音 [課題(復習)]課題25,26,27を解いてみましょう。(1h) 楽典 各種音部記号に関して、理解を深めましょう。(1h)						
2	属7の和音 [課題(復習)]課題28(1~4)を解いてみましょう。(1h) 楽典 音程度数と音程名に関して、理解を深めましょう。(1h)						
3	属7の和音 [課題(復習)]課題28(5~8)を解いてみましょう。(1h) 楽典 単音程と複音程に関して、理解を深めましょう。(1h)						
4	属7の和音 [課題(復習)]課題28(9~12)を解いてみましょう。(1h) 楽典 転回音程に関して、理解を深めましょう。(1h)						
5	属7の和音 [課題(復習)]課題30(1~3)を解いてみましょう。(1h) 楽典 特殊な音程問題に関して、理解を深めましょう。(1h)						
6	属7の和音 [課題(復習)]課題30(4~6)を解いてみましょう。(1h) 楽典 音階構成音に関して、理解を深めましょう。(1h)						
7	補充課題の実習(3和音の第1転回位置) [課題(復習)]課題(6~10)を解いてみましょう。(1h) 楽典 主音と各音の音程に関して、理解を深めましょう。(1h)						
8	属7の和音の根音省略形、第2転回位置 [課題(復習)]課題31,32,33を解いてみましょう。(1h) 楽典 教会旋法、民族音階に関して、理解を深めましょう。(1h)						
9	属7の和音の根音省略形、第2転回位置 [課題(復習)]課題34(1~3)を解いてみましょう。(1h) 楽典 原型和音と構成音の名称に関して、理解を深めましょう。(1h)						
10	属7の和音の根音省略形、第2転回位置 [課題(復習)]課題34(4~6)を解いてみましょう。(1h) 楽典 和音の種類に関して、理解を深めましょう。(1h)						
11	補充課題の実習 属7の和音の根音省略形、第2転回位置 [課題(復習)]課題(1~3)を解いてみましょう。(1h) 楽典 和音の所属調に関して、理解を深めましょう。(1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
12	補充課題の実習 属7の和音の根音省略形、第2転回位置 [課題(復習)]課題(4~6)を解いてみましょう。(1h) 楽典 和音の転回指数に関して、理解を深めましょう。(1h)
13	指導グレードの過去問題を使用し、実践力を身に付ける。 [課題(復習)]課題(1~3)を解いてみましょう。(1h) 楽典 異名同音による和音の書き換えに関して、理解を深めましょう。(1h)
14	指導グレードの過去問題を使用し、実践力を身に付ける。 [課題(復習)]課題(4~6)を解いてみましょう。(1h) 楽典 期末テスト予想問題に関して、理解を深めましょう。(1h)
15	期末テストに向けて質疑応答 [課題(復習)]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。(1h) 楽典も、同様です。(1h)
時間外での学修	理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	和声学は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。



【3S4A216】グレード対策応用Ⅱ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	三輪 泰子						
資格・制限等	特になし						
授業内容	指導グレードに必要な和声学、音楽知識を身に付け、各自、希望するグレード取得を目指します。						
実務家教員	音楽教室講師・17年						
授業方法	講義形式ですが、課題理解のための個人指導にも力を入れていきます。						
到達目標	知識・理解	和声と楽典の基礎的な知識を身に付け、更に、応用し、問題演習する。			◎		
	思考・判断・表現	西洋音楽の土台となっている和声感を感じられるようにしたい。楽典を習熟することで、演奏者としての表現力を高めたい。			○		
	技能	グレード取得により、社会的評価を得て、就職活動へと繋げていく。			○		
	関心・意欲・態度	和声と楽典の知識を、演奏、創作、音楽指導活動に活かせるようにする。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		50	20	20	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		50	20	20	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。						
I C T活用							
課題に対するフィードバック	毎回、宿題プリントの添削と解答の説明を、授業内で個別指導していきます。						
テキスト	『和声理論と実習Ⅰ』島岡 護 他 音楽之友社(3,024円) ISBN:978-4276102057 『ヤマハ指導グレード5,4,3級筆記試験問題一覧20130~2015年実施』ヤマハ音楽振興会 ヤマハ音楽振興会(1,430円) ISBN:9784864617437 「グレード対策応用Ⅰ」履修者は購入済						
参考書・教材	授業中に配布するプリントを、教材としますので、必ず保管して下さい。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	属9の和音(長調) [課題(復習)]課題35,36,37,38,39を解いてみましょう。(1h) 楽典 調性判定 構成音と臨時音に関して、理解を深めましょう。(1h)						
2	属9の和音(長調) [課題(復習)]課題40(1~6)を解いてみましょう。(1h) 楽典 調性判定 臨時音と調号に関して、理解を深めましょう。(1h)						
3	属9の和音(長調) [課題(復習)]課題40(7~12)を解いてみましょう。(1h) 楽典 調性判定 音程による調性判定に関して、理解を深めましょう。(1h)						
4	属9の和音(短調) [課題(復習)]課題41,42を解いてみましょう。(1h) 楽典 調性判定 調性判定を決定する音群に関して、理解を深めましょう。(1h)						
5	属9の和音(短調) [課題(復習)]課題43(1~4)を解いてみましょう。(1h) 楽典 調性判定 調性判定の手順に関して、理解を深めましょう。(1h)						
6	属9の和音(短調) [課題(復習)]課題43(5~8)を解いてみましょう。(1h) 楽典 調性判定 和音連結による判定に関して、理解を深めましょう。(1h)						
7	属9の和音(短調) [課題(復習)]課題43(9~12)を解いてみましょう。(1h) 楽典 調性判定 音群と調性に関して、理解を深めましょう。(1h)						
8	D諸和音の総括 [課題(復習)]課題44(1~3)を解いてみましょう。(1h) 楽典 移調問題演習 移調の手順に関して、理解を深めましょう。(1h)						
9	D諸和音の総括 [課題(復習)]課題44(4~6)を解いてみましょう。(1h) 楽典 移調問題演習 最高音、最低音を基にした移調に関して、理解を深めましょう。(1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
10	D諸和音の総括 [課題（復習）]課題44（7～8）を解いてみましょう。（1h） 楽典 移調問題演習 移調楽器に関して、理解を深めましょう。（1h）
11	補充課題の実習 [課題（復習）]属9の和音（長調）課題を解いてみましょう。（1h） 楽典 移調問題演習 移調楽譜の記譜に関して、理解を深めましょう。（1h）
12	補充課題の実習 [課題（復習）]属9の和音（短調）課題を解いてみましょう。（1h） 楽典 楽語アルファベット順Ⅰに関して、理解を深めましょう。（1h）
13	補充課題の実習 [課題（復習）]D諸和音の総括（長調）課題を解いてみましょう。（1h） 楽典 楽語アルファベット順Ⅱに関して、理解を深めましょう。（1h）
14	補充課題の実習 [課題（復習）]D諸和音の総括（短調）課題を解いてみましょう。（1h） 楽典 期末テスト予想問題に関して、理解を深めましょう。（1h）
15	期末テストに向けて質疑応答 [課題（復習）]わからない所を質問できるようにまとめておきましょう。（1h） 楽典も同様です。（1h）
時間外での学修	理解のためには、授業内の演習だけでなく、予習復習が必要不可欠です。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	和声学は、西洋音楽の基本です。演奏力、アレンジ力向上のためにも、積極的に受講してください。 オフィスアワーは、教室で授業前後です。

【3S9A102】音楽総合特講Ⅱ		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	鈴木 孝育・猿井 久美子						
資格・制限等	特になし						
授業内容	音楽の学びを深めていくために基礎的な教養の涵養を図るとともに、音楽に関して学んだ成果を公務として直接生かしていける職業（音楽活動によって職務を果たす自衛隊音楽隊・警察音楽隊・消防音楽隊などの公務員）に求められる基本的な教養についての理解を図ります。また音楽隊の隊員もしくは人事担当者、公務員対策の外部講師をゲスト・スピーカーとして招き、活動や求められる資質等の基本について理解を図ります。音楽隊以外の公務員希望者や一般企業就職希望者にとってもきわめて有意義な学修内容です。						
実務家教員							
授業方法	高校までの国語・社会・数学の基礎的な内容について復習を行い、教養として必要な基本的事項の理解と定着を図ります。そのための教材として、実際の採用試験の問題等を活用しながら、学修を進めていきます。また、論作文試験についての説明・対策も行います。						
到達目標	知識・理解	音楽を学ぶ基盤となる国語、社会、数学についての基礎的な知識と社会人に教養として求められる知識を身につける。			◎		
	思考・判断・表現	復習した基礎的な知識を、音楽活動に必要な思考力や判断力、表現力を培うために活用させようと努力できる。			○		
	技能	音楽を学ぶために必要な教養の一つとして、知的操作や論作文の技法を身につける。			△		
	関心・意欲・態度	音楽を学ぶために必要となる豊かな教養を一層高められるよう、積極的に継続した学びの態度を身につけることができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		40	10	-	-	50
	学修記録表		10	10	5	-	25
	学修成果の自己評価		-	-	5	10	15
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		50	20	10	20	100	
評価の特記事項	受講態度は、学修姿勢や提出物などの状況で評価します。						
I C T活用							
課題に対するフィードバック	フィードバックとして課題やレポートにコメントを、論作文は添削をして返します。テキストの事前学修課題については確認テストを実施します。また、ゲスト・スピーカーとのやりとりを補助します。						
テキスト	『短大生・専門学校生の就職筆記試験対策 一般常識チェック&マスター 改訂版』山野晴雄 他著 実教出版(857円)ISBN:978-4-407-32160-9						
参考書・教材	授業で指示もしくは配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス。公務員講座① 論作文の書き方① 終了後、個別に質疑応答。 [課題(準備・復習)]シラバスを熟読する。課題プリント、学修ノートを記入する。論作文の書き方について復習する。(3~5h)						
2	公務員講座② 公務員試験対策；論作文の書き方② 終了後、個別に質疑応答。 [課題(復習・準備)]公務員作文の練習・復習を課題プリントにて行う。自衛隊音楽隊、自衛隊の採用や活動内容について調べる。(3~5h)						
3	公務員講座③ 自衛隊音楽隊講話；隊の活動状況、自衛隊における音楽隊の役割 [課題(復習)]自衛隊音楽隊・自衛隊採用について復習し、理解する。岐阜県警察音楽隊、岐阜県警察の採用や活動内容について調べる。(3~5h)						
4	公務員講座④ 岐阜県警察音楽隊講話；隊の活動状況、警察における兼務音楽隊の役割 [課題(復習・予習)]岐阜県警察音楽隊、岐阜県警察の採用について理解する。論作文③の課題に取り組む。(3~5h)						
5	公務員講座⑤ 公務員試験対策；論作文の書き方③ 終了後、個別に質疑応答。 [課題(復習・準備)]公務員作文の練習・復習を課題プリントにて行う。5回のおまとめ。(3~5h)						
6	学修ガイダンス(教養について、学修の進め方や教材について、基礎確認テスト、他) [課題(復習)]基礎確認テストの復習を確実に進行。(3~5h)						
7	世界史・思想文化史と難読漢字の定着と発展 [課題(復習・予習)]世界史・思想文化史と難読漢字の復習と次時内容の予習を確実に進行。(3~5h)						
8	方程式・同音異義語の定着と発展 [課題(復習・予習)]方程式・同音異義語の復習と次時内容の予習を確実に進行。(3~5h)						
9	政治と憲法・同訓異義語の定着と発展 [課題(復習・予習)]政治と憲法・同訓異義語の復習と次時内容の予習を確実に進行。(3~5h)						
10	文章題1・同義語と対義語の定着と発展 [課題(復習・予習)]文章題1・同義語と対義語の復習と次時内容の予習を確実に進行。(3~5h)						
11	経済と福祉・ことわざと故事成語の定着と発展 [課題(復習・予習)]経済と福祉・ことわざと故事成語の復習と次時内容の予習を確実に進行。(3~5h)						
12	文章題2・四字熟語1の定着と発展 [課題(復習・予習)]文章題2・四字熟語1の復習と次時内容の予習を確実に進行。(3~5h)						
13	社会生活・四字熟語2の定着と発展 [課題(復習・予習)]社会生活・四字熟語2の復習と次時内容の予習を確実に進行。(3~5h)						
14	図形・慣用表現と敬語表現の定着と発展 [課題(復習・予習)]図形・慣用表現と敬語表現の復習とこれまで学んだ内容の全体について復習を行う。(4~6h)						
15	まとめ(第6回~14回までの学修の確認と定着) [課題(復習)]学んだ内容の総合的な復習を行う。(2~6h)						

時間外での学修	学修した問題や課題とされた問題を確実に自主学習し、内容の定着を図ってください。授業以外での学修の取組が希望の実現を確実に左右します。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間]
受講学生へのメッセージ	音楽を活用する公務員への就職をめざして、採用試験を想定した論作文の学修や音楽隊の活動内容を学びます。音楽隊以外の公務員をめざす学生や一般企業就職希望者にとっても活用可能な内容です。積極的に学ぼうとする意識をもって受講してください。*授業の順序や内容は、進捗等の都合で変更されることがあります。 オフィスアワー：水曜日5限終了後（1回目～5回目B204、6回目～15回目A301、他の日時も応相談）

【3S8S203】 ヴォーカルⅢ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	五島 由美子						
資格・制限等	P・Orコース必修						
授業内容	ヴォーカルⅠ、Ⅱで学修した声楽の基礎応用し、音楽に必要な音楽表現を身に付けて行く授業です。						
実務家教員	声楽家45年、声楽指導42年、合唱指導28年						
授業方法	実技演習が中心ですが、曲の仕上げと共に小グループに分かれて、各自の問題点を指摘しながら演習成果を発表し、授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	ヴォーカルⅠ・Ⅱで学んだ技術が応用できる。			○		
	思考・判断・表現	曲に応じた表現が出来る。			◎		
	技能	ピアノに合わせた的確に自分の音楽を伝達できる。			◎		
	関心・意欲・態度	声楽の幅広いジャンルに進んで、研究・探索が出来る。			△		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		10	20	15	5	50
	学修態度		10	20	15	5	50
	合計(点)		20	40	30	10	100
評価の特記事項							
I C T活用							
課題に対するフィードバック	童謡・唱歌がもたらす意義を説明する。後半においては世界各地の民謡、ミュージカルに及び、全体的に歌唱の重要性を説明する。						
テキスト	『女子音楽 カンターレ』音楽之友社 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	明治に始まった日本の歌唱・童謡を学ぶ。 1 おぼろ月夜 [課題(復習)]おぼろ月夜の歌詞朗読とパート練習。(1h)						
2	明治に始まった日本の歌唱・童謡を学ぶ。 2 われは海の子 [課題(復習)]われは海の子の歌詞朗読とパート練習。(1h)						
3	明治に始まった日本の歌唱・童謡を学ぶ。 3 もみじ [課題(復習)]もみじの歌詞朗読とパート練習。(1h)						
4	明治に始まった日本の歌唱・童謡を学ぶ。 4 冬景色 [課題(復習)]冬景色の歌詞朗読とパート練習。(1h)						
5	唱歌・童謡のまとめ [課題(復習)]四季を通しての唱歌の歌詞朗読とパート練習。(1h)						
6	世界の様々な曲を学ぶ。 1 アメリカ民謡 夢路より [課題(復習)]夢路よりの歌詞朗読とパート練習。(1h)						
7	世界の様々な曲を学ぶ。 2 スコットランド民謡 アニー・ローリー [課題(復習)]アニー・ローリーの歌詞朗読とパート練習。(1h)						
8	世界の様々な曲を学ぶ。 3 イングランド民謡 グリースリヴス [課題(復習)]グリースリヴスの歌詞朗読とパート練習。(1h)						
9	世界の様々な曲を学ぶ。 4 ロシア民謡 カチューシャ [課題(復習)]カチューシャの歌詞朗読とパート練習。(1h)						
10	世界の様々な曲を学ぶ。 5 チェコスロバキア民謡 モルダウ [課題(復習)]モルダウの歌詞朗読とパート練習。(1h)						
11	映画、ミュージカル音楽を学ぶ。 1 エーデルワイス [課題(復習)]エーデルワイスの歌詞朗読とパート練習。(1h)						
12	映画、ミュージカル音楽を学ぶ。 2 美女と野獣 [課題(復習)]美女と野獣の歌詞朗読とパート練習。(1h)						
13	映画、ミュージカル音楽を学ぶ。 3 A Whole New World. [課題(復習)]A Whole New World.の歌詞朗読とパート練習。(1h)						
14	映画、ミュージカル音楽を学ぶ。 4 When You Wish upon a star. [課題(復習)]試験曲を決定し、ピアノ合わせをする。(1h)						
15	前期試験曲試演会 [課題(準備)]ソプラノ、アルトの声部とピアノ合わせをする。(1h)						
時間外での学修	日常から言葉の表現力を身につけましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	身体表現ですので体調には十分気を付けましょう。 オフィスアワーは授業後教室にて 金曜日12:10～12:20						

【3S8A204】 ヴォーカルIV		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	五島 由美子						
資格・制限等	P・Orコース必修						
授業内容	ミュージカルという声楽のジャンルを通し、音楽の表現力を高めます。						
実務家教員	声楽家45年、声楽指導42年、合唱指導28年						
授業方法	個人レッスン・グループレッスンの中で、他学生の演奏を聴き合いながら言葉と音楽、身体表現と共に総合的に音楽を理解していきます。						
到達目標	知識・理解	ヴォーカル I II IIIで学んだ技術が応用できる。			○		
	思考・判断・表現	曲に応じた表現ができる。			◎		
	技能	異なる声部、ピアノに合わせて自己表現ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	声楽を通して幅広いジャンルに進んで研究・探求が出来る。			△		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験		10	20	15	5	50
	学修態度		10	20	15	5	50
	合計(点)		20	40	30	10	100
評価の特記事項							
ICT活用							
課題に対するフィードバック	楽譜の読み方と、曲に込められた内容を理解するまで解説します。						
テキスト	『11ぴきのネコ 合唱版』音楽之友社 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 手持ち可						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業ガイダンス。ミュージカル[11ぴきのねこ]についての説明。 [課題(復習)]11ぴきのねこの楽譜を予め目を通しておく。(1h)						
2	1. オーケストラ・ソングの譜読み。発声練習 [課題(復習)]歌詞の朗読(オーケストラ・ソング) (1h)						
3	1. オーケストラ・ソングの音楽練習。 [課題(復習)]言葉と音楽の表現の仕方について研究してくる。(1h)						
4	2. にゃあごろソングの譜読み。発声練習 [課題(復習)]歌詞の朗読(にゃあごろソング) (1h)						
5	2. にゃあごろソングの音楽練習。 [課題(復習)]タッカのリズム表現の仕方について調べてくる。(1h)						
6	3. 魚の子守歌の譜読み。発声練習 [課題(復習)]歌詞の朗読(魚の子守唄) (1h)						
7	3. 魚の子守歌の音楽練習。 [課題(復習)]二重唱部分をパート別に歌唱する。(1h)						
8	4. のんだくったマーチA③の譜読み。発声練習 [課題(復習)]歌詞の朗読(のんだくったマーチ) (1h)						
9	4. のんだくったマーチB④の譜読み。発声練習 [課題(復習)]歌詞の朗読(のんだくったマーチ) (1h)						
10	4. のんだくったマーチA③B④の音楽練習。 [課題(復習)]上声部・下声部それぞれの声部の練習。(1h)						
11	5. ノラネコ天国ソングA③B④の譜読み。発声練習 [課題(復習)]歌詞の朗読(ノラネコ天国ソング) (1h)						
12	5. ノラネコ天国ソングD⑤E⑥の譜読み。発声練習 [課題(復習)]歌唱部分と会話部分の違いに注意し歌唱練習。(1h)						
13	5. ノラネコ天国ソングA③B④D⑤E⑥の音楽練習。 [課題(復習)]通し練習を声部毎にて行う。(1h)						
14	11ぴきのねこ 仕上げ [課題(復習)]全曲を通し朗読。(1h)						
15	11ぴきのねこ 発表・試演会 [課題(準備)]全曲を通し音楽練習・発声練習を行う。(1h)						
時間外での学修	11ぴきのネコの気持ちになってみて下さい。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	身体表現の授業です。健康には留意してください。 オフィスアワーは授業後教室にて 金曜日12:10～12:20						

【3S8A207】 ソルフェージュⅢ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	五島 由美子						
資格・制限等	P・Orコース必修						
授業内容	1年で学んだソルフェージュを更に展開させ、重唱を取り入れます。						
実務家教員	声楽家45年、声楽指導42年、合唱指導28年						
授業方法	実技、実践を中心として基礎的な音楽知識の習得をしていきます。						
到達目標	知識・理解	音感、リズム感、和音感を身に着けフレーズを理解し音楽活動の基礎を養う。			◎		
	思考・判断・表現	得られた知識を、実際の音楽の現場に対応できるものにする。			○		
	技能	音楽の専門家としての知識・理解の上に、音楽を通してコミュニケーションの能力がある。			○		
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、積極的に音楽を通して人とコミュニケーションを取ろうとする意欲がある。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	発表(グループ発表を含む)		20	10	20	5	55
	筆記試験		30	10	-	-	40
	受講態度		-	-	-	5	5
	合計(点)		50	20	20	10	100
評価の特記事項	I C T活用						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして項目別確認テストの後、各人に個別に指示をします。						
テキスト	『コールユーブンゲン』大阪開成館 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『新曲視唱(1)』エー・ティー・エヌ 手持ち可						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業ガイダンス ソルフェージュⅠⅡを理解し臨む。さらに高度な技術を学ぶ。 コンコーネNo.13 コールユーブンゲンNo.46 新曲視唱 第3章 No.21-30 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲンNo.48の予習とNo.46の復習 (1h)						
2	コンコーネNo.13 コールユーブンゲンNo.48 新曲視唱 第3章 No.31-40 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲンNo.49の予習とNo.48の復習 (1h)						
3	コンコーネNo.14 コールユーブンゲンNo.49 新曲視唱 第3章 No.61-70 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲンNo.50の予習とNo.49の復習 (1h)						
4	コンコーネNo.14 コールユーブンゲンNo.50 新曲視唱 第3章 No.71-80 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲンNo.51の予習とNo.50の復習 (1h)						
5	コンコーネNo.15 コールユーブンゲンNo.51 新曲視唱 第3章 No.81-90 聴音到達度確認テスト [課題(予習/復習)]コールユーブンゲンNo.52の予習とNo.51の復習 (1h)						
6	コンコーネNo.16 コールユーブンゲンNo.52 新曲視唱 第4章 No.1-10 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲンNo.53の予習とNo.52の復習 (1h)						
7	コンコーネNo.16 コールユーブンゲンNo.53 新曲視唱 第4章 No.11-20 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲンNo.54の予習とNo.53の復習 (1h)						
8	コンコーネNo.17 コールユーブンゲンNo.54 新曲視唱 第4章 No.21-30 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲンNo.55の予習とNo.54の復習 (1h)						
9	コンコーネNo.17 コールユーブンゲンNo.55 新曲視唱 第4章 No.31-40 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲンNo.56の予習とNo.55の復習 (1h)						
10	コンコーネNo.18 コールユーブンゲンNo.56 新曲視唱 第4章 No.41-50 聴音到達度確認テスト [課題(予習/復習)]コールユーブンゲンNo.57の予習とNo.56の復習 (1h)						
11	コンコーネNo.18 コールユーブンゲンNo.57 新曲視唱 第4章 No.51-60 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲンNo.58の予習とNo.57の復習 (1h)						
12	コンコーネNo.19 コールユーブンゲンNo.58 新曲視唱 第4章 No.61-70 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲンNo.59の予習とNo.58の復習 (1h)						
13	コンコーネNo.19 コールユーブンゲンNo.59 新曲視唱 第4章 No.111-120 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲンNo.59の復習 (1h)						
14	コンコーネNo.20 コールユーブンゲンまとめ 新曲視唱 第4章 No.121-130 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲン2年前期の課題復習 (1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
15	<p>コンコーネNo. 21            コールユーブンゲンまとめ 新曲視唱 第4章 NO. 131-140 聴音到達度確認テスト            [課題(復習)]コールユーブンゲン2年前期の課題復習 (1h)</p>
時間外での学修	<p>学修した課題を確実に理解すべく、毎日読譜練習をする事。  <b>【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】</b></p>
受講学生へのメッセージ	<p>演奏をするうえで、必要で大切な課目です。日々の訓練を怠らないように。            オフィスアワーは授業後教室にて 金曜日14:30～14:40</p>



【3S8A208】 ソルフェージュⅣ		音楽総合学科		2年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	五島 由美子					
資格・制限等	P・Orコース必修					
授業内容	2年次前期で学んだソルフェージュを更に展開させ、重唱を取り入れます。					
実務家教員	声楽家45年、声楽指導42年、合唱指導28年					
授業方法	実技、実践を中心として、基礎的な音楽知識の習得・応用をしていきます。					
到達目標	知識・理解	調性を理解し、楽譜の基礎的な読み書きができる。			◎	
	思考・判断・表現	音楽を楽譜からの確にとらえ、音楽的に表現する能力を身に着けることができる。			△	
	技能	音感、リズム感、和音感を身に着けることができる。			◎	
	関心・意欲・態度	常に自己資質の向上を目指し、自身の音楽活動に活かす努力が出来る。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	20	10	20	-	50
	筆記試験	20	-	20	-	40
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	40	10	40	10	100
評価の特記事項						
I C T活用						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして項目別確認テストの後、各人に個別に指示します。					
テキスト	『コールユーブンゲン』大阪開成館 『コンコーネ50番(中声用)』全音楽譜出版社 『新曲視唱(1)』エー・ティー・エヌ 手持ち可					
参考書・教材						
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	コンコーネNo. 22 コールユーブンゲン No. 60・61 新曲視唱 第4章No. 141～150 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲン No. 62・63の予習と No. 60・61の復習 (1h)					
2	コンコーネNo. 23 コールユーブンゲン No. 62・63 新曲視唱 第4章No. 151～160 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲン No. 64・65の予習と No. 62・63の復習 (1h)					
3	コンコーネNo. 24 コールユーブンゲン No. 64・65 新曲視唱 第4章No. 161～170 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲン No. 66・67の予習と No. 64・65の復習 (1h)					
4	コンコーネNo. 25 コールユーブンゲン No. 66・67 新曲視唱 第4章No. 171～180 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲン No. 68・69の予習と No. 66・67の復習 (1h)					
5	コンコーネNo. 26 コールユーブンゲン No. 68・69 新曲視唱 第5章No. 1～10 聴音到達度確認テスト [課題(予習/復習)]コールユーブンゲン No. 70・71の予習と No. 68・69の復習 (1h)					
6	コンコーネNo. 27 コールユーブンゲン No. 70・71 新曲視唱 第5章No. 11～20 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲン No. 72・73の予習と No. 70・71の復習 (1h)					
7	コンコーネNo. 28 コールユーブンゲン No. 72・73 新曲視唱 第5章No. 21～30 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲン No. 74・75の予習と No. 72・73の復習 (1h)					
8	コンコーネNo. 29 コールユーブンゲン No. 74・75 新曲視唱 第5章No. 31～40 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲン No. 76・77の予習と No. 74・75の復習 (1h)					
9	コンコーネNo. 30 コールユーブンゲン No. 76・77 新曲視唱 第5章No. 41～50 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲン No. 78・79の予習と No. 76・77の復習 (1h)					
10	コンコーネNo. 31 コールユーブンゲン No. 78・79 新曲視唱 第5章No. 61～70 聴音到達度確認テスト [課題(予習/復習)]コールユーブンゲン No. 80・81の予習と No. 78・79の復習 (1h)					
11	コンコーネNo. 32 コールユーブンゲン No. 80・81 新曲視唱 第5章No. 71～80 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲン No. 82・83の予習と No. 80・81の復習 (1h)					
12	コンコーネNo. 33 コールユーブンゲン No. 82・83 新曲視唱 総復習 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲン No. 84・85の予習と No. 82・83の復習 (1h)					
13	コンコーネNo. 34 コールユーブンゲン No. 84・85 新曲視唱 総復習 聴音 [課題(予習/復習)]コールユーブンゲン No. 86・87の予習と No. 84・85の復習 (1h)					
14	コンコーネNo. 35 コールユーブンゲン No. 86・87 新曲視唱 総復習 聴音 [課題(復習)]コールユーブンゲン 2年間の復習 (1h)					
15	コンコーネNo. 22 コールユーブンゲン 2年間のまとめ 新曲視唱 総復習 聴音到達度確認テスト [課題(復習)]コールユーブンゲン 2年間の復習 (1h)					

時間外での学修	毎回授業で学んだ課題の復習、予習をしっかりと行うことがソルフェージュ上達を確実なものにします。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	短大での学修の集大成です。日々の努力が大切です。 オフィスアワーは授業後教室にて 金曜日14:30～14:40

【3S8S213】ポピュラー音楽史		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	特になし						
授業内容	ポピュラー音楽の成り立ち、日本への伝播を経たポピュラー音楽の現状を学ぶ。 この授業では英国、米国、韓国、日本のポピュラー音楽についての歴史と関連について知識を得る。 楽曲分析の方法を学び、様々な音楽スタイルについて知る。						
実務家教員	菅田：音楽療法関連施設職員・5年、作編曲経験・25年						
授業方法	演習を交えた講義形式						
到達目標	知識・理解	ポピュラー音楽の歴史と各国の関連について知識を得る。			○		
	思考・判断・表現	各国のポピュラー音楽の歴史と特徴について述べるができる。			○		
	技能	楽曲分析ができるようになる。			○		
	関心・意欲・態度	テーマに沿った楽曲を探し、分析したうえで発表することができる。			◎		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	課題提出		20	20	20	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	発表（グループ発表も含む）		-	-	-	20	20
	合計(点)		20	20	20	40	100
評価の特記事項	授業の1/3欠席した者、課題の提出、発表がないものは期末試験の受験資格がありません。						
ICT活用	資料の検索にインターネットを活用します。課題をGoogle Formで提出してもらいます。						
課題に対するフィードバック	授業内でコメントします。						
テキスト							
参考書・教材	授業内でプリントを配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ポピュラー音楽の歴史①ジャズの歴史と他ジャンルに与えた影響について [課題（復習）]授業で紹介したジャズの曲を1曲選び、作曲者、演奏者についてまとめる（2H）						
2	ポピュラー音楽の歴史②エルビス・プレスリーとビートルズ [課題（復習）]授業で紹介したビートルズの曲を1曲選び、曲の背景や歌詞の内容についてまとめる（2H）						
3	ポピュラー音楽の歴史③英国ロック、クイーンズ、ローリングストーンズ他 [課題（復習）]授業で紹介した曲の中から1曲選び、曲の背景や歌詞の内容についてまとめる（2H）						
4	ポピュラー音楽の歴史④米国、フォークミュージック、ポップディラン他 [課題（復習）]授業で紹介した曲の中から1曲選び、曲の背景や歌詞の内容についてまとめる（2H）						
5	ポピュラー音楽の歴史⑤米国、ブルースとR&B、ヒップホップ [課題（復習）]授業で紹介した曲の中から1曲選び、曲の背景や歌詞の内容についてまとめる（2H）						
6	ポピュラー音楽の歴史⑥現在のアメリカヒットチャートの傾向 [課題（復習）]授業で紹介した曲の中から1曲選び、曲の背景や歌詞の内容についてまとめる（2H）						
7	ポピュラー音楽の歴史⑦日本、第二次世界大戦まで [課題（復習）]授業で紹介した曲の中から1曲選び、曲の背景や歌詞の内容についてまとめる（2H）						
8	ポピュラー音楽の歴史⑧日本、第二次世界大戦後～1980年代まで [課題（復習）]授業で紹介した曲の中から1曲選び、曲の背景や歌詞の内容についてまとめる（2H）						
9	ポピュラー音楽の歴史⑨日本、1980年～現代 [課題（復習）]授業で紹介した曲の中から1曲選び、曲の背景や歌詞の内容についてまとめる（2H）						
10	ポピュラー音楽の歴史⑩韓国、KPOPの誕生 [課題（復習）]授業で紹介した曲の中から1曲選び、曲の背景や歌詞の内容についてまとめる（2H）						
11	ポピュラー音楽の歴史⑪韓国、KPOPの現在 [課題（復習）]授業で紹介した曲の中から1曲選び、曲の背景や歌詞の内容についてまとめる（2H）						
12	楽曲分析演習①コード進行 [課題（復習）]自分が分析する曲を選び、Cメロ譜を作成する（2H）						
13	楽曲分析演習②音楽スタイル [課題（復習）]自分が選んだ曲のスタイルについて類似の曲など傾向をまとめる（2H）						
14	楽曲分析演習③和声の分析 [課題（復習）]自分が選んだ曲の和声分析を行い、まとめる（2H）						
15	まとめ、発表 [課題（復習）]レポート課題を仕上げる（2H）						
時間外での学修	各自が授業時間外で資料を検索、まとめるなどの作業が必要です。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						
受講学生へのメッセージ	自分が好きな曲以外も系統立てて聴くことで自分の音楽の幅が広がります。積極的に聴取してください。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。						

【3S3S207】鍵盤楽器Ⅲ		音楽総合学科		2年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	野口 歩					
資格・制限等	特になし					
授業内容	1年次で基礎的な演奏技術や知識を修得したことをより深く追求し、演奏することを通して自己の内面や感性を磨き表現力豊かな音楽を作り出せるように、そして、各々の専門分野に結び付け役立てていけるようにします。					
実務家教員						
授業方法	各々の進度に合った曲を選曲し、演習を中心とした個人レッスンをを行います。					
到達目標	知識・理解	音楽の知識を幅広く習得することで、ピアノ演奏に理解を深めることができる。			○	
	思考・判断・表現	演奏する曲にふさわしい奏法や表現力を、自ら考え培うことができる。			◎	
	技能	演奏技術を向上させることができる。			◎	
	関心・意欲・態度	曲に対する関心を持ち理解を深め意欲的に取り組むことで、人との関わりを大切にしていくことができる。			○	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	-	30	30	-	60
	受講態度	25	-	-	15	40
	合計(点)	25	30	30	15	100
評価の特記事項	受講態度は課題等の取り組み状況を含みます。					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	課題の学修成果に対するコメントを、課題終了後に伝えます。					
テキスト						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス・課題の確認、次回からの練習曲を個々に選択 [課題(準備)] 次回からの曲の譜読みをする(1h)					
2	練習曲(1) 指使い [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、指のポジションや指使いを確認する(1h)					
3	練習曲(2) 部分練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、片手奏や部分練習をする(1h)					
4	練習曲(3) 音楽表現 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、音の強弱やフレーズを考えて演奏する(1h)					
5	練習曲(4) 曲想 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、曲想を、自ら考えて演奏する(1h)					
6	練習曲(5) 弾き込み [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、曲の流れをとらえて弾き込む(1h)					
7	練習曲(6) 仕上げ [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、練習を積み重ねて曲をまとめる(1h)					
8	試験曲の選曲 [課題(準備)] 試験曲の譜読みをする(1h)					
9	試験曲(1) 指使い [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、指使いの工夫やポジションを再確認する(1h)					
10	試験曲(2) フレージング・バランス [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、曲にふさわしいテンポや音のバランスを考える(1h)					
11	試験曲(3) 曲想 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、音楽の流れやバランスを考える(1h)					
12	試験曲(4) 暗譜 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、曲の理解を深めるために必要不可欠な暗譜を丁寧にする(1h)					
13	試験曲(5) 弾き込み [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、曲の流れをとらえて、止まらないで演奏できるように弾き込む(1h)					
14	試験曲(6) 仕上げ [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、何度も繰り返し練習を積み重ねる(1h)					
15	試験曲(7) 前期のまとめ [課題(準備)] 自信を持って演奏できるように練習する(1h) 休暇中の課題曲を決める					
時間外での学修	レッスンで習得したことを改善できるように日々の積み重ねが大切であるとともに、様々な音楽に興味を持ち知識を得られるようにしましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					
受講学生へのメッセージ	ピアノの演奏を通し、各々の専門分野に結び付け役立てていけるよう取り組みましょう。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。					

【3S3A208】鍵盤楽器IV		音楽総合学科		2年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	野口 歩					
資格・制限等	特になし					
授業内容	1年次で基礎的な演奏技術や知識を修得したことをより深く追求し、演奏することを通して自己の内面や感性を磨き表現力豊かな音楽を作り出せるように、そして、各々の専門分野に結び付け役立てていけるようにします。					
実務家教員						
授業方法	各々の進度に合った曲を選曲し、演習を中心とした個人レッスンをを行います。					
到達目標	知識・理解	音楽の知識を幅広く習得することで、ピアノ演奏に理解を深めることができる。			○	
	思考・判断・表現	演奏する曲にふさわしい奏法や表現力を、自ら考え培うことができる。			◎	
	技能	演奏技術を向上させることができる			◎	
	関心・意欲・態度	曲に対する関心を持ち理解を深め意欲的に取り組むことで、人との関わりを大切にしていけることができる。			○	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	-	30	30	-	60
	受講態度	25	-	-	15	40
	合計(点)	25	30	30	15	100
評価の特記事項	受講態度は課題等の取り組み状況を含みます。					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	課題の学修成果に対するコメントを、課題終了時に伝えます。					
テキスト						
参考書・教材	個々に合わせて選択します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	休暇中の課題の発表・見直し [課題(準備)]課題の見直しと、次回からの練習曲を選択する(1h)					
2	練習曲(1)譜読み [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、練習曲の譜読みをする(1h)					
3	練習曲(2)フィンガートレーニング [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、指使いに注意して、滑らかな指の動きができるように練習する(1h)					
4	練習曲(3)部分練習 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、片手奏や部分練習を行う(1h)					
5	練習曲(4)音楽表現 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、音楽の強弱やフレーズを考えて演奏する(1h)					
6	練習曲(5)曲想 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、曲にふさわしい音色やハーモニーをつくる(1h)					
7	練習曲(6)弾き込む [課題(復習)]レッスンの復習をし、曲の流れをつかむために何度も繰り返し練習する(1h)					
8	練習曲(7)仕上げ [課題(復習)]レッスンの復習をし、止まらずに演奏でき、さらに美しい音色が出るように自分の演奏をよく聞く(1h)					
9	試験曲を各々で選曲 [課題(準備)]試験曲の譜読み、指使いやポジションの確認(1h)					
10	試験曲(1)部分練習 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、片手奏や部分的に弾けない箇所をなくす(1h)					
11	試験曲(2)曲想 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、曲にふさわしい音色を探究する(1h)					
12	試験曲(3)音楽表現 [課題(予習・復習)]レッスンの復習をし、豊かなハーモニーを奏できるようにイメージして演奏する(1h)					
13	試験曲(4)暗譜 [課題(復習)]レッスンの復習をし、楽譜に書かれていることを再確認する(1h)					
14	試験曲(5)弾き込み [課題(復習)]レッスンの復習をし、弾けていない箇所等をなくせるように、反復練習を繰り返す(1h)					
15	試験曲(6)総まとめ [課題(復習)]これまでに習得した演奏技術や音楽表現を活かした演奏ができるように練習する(1h)					
時間外での学修	レッスンで習得したことを改善できるように日々の積み重ねが大切であるとともに、様々な音楽に興味を持ち知識を得られるようにしましょう。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					
受講学生へのメッセージ	レッスンで習得したことを改善できるように、日々の積み重ねが大切です。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。					

【3S8F214】和太鼓 I		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	藤井 久美子						
資格・制限等	MTコース必修						
授業内容	まず和太鼓を打つことで、日本の伝統音楽の響きに慣れ豊かなリズム感や拍子感を養い、楽しい遊びや豊かな身体表現ができるようになり、和楽器のアンサンブルを楽しみ即興演奏や即興伴奏ができるまでの音楽的能力を養いたい。						
実務家教員	高等学校音楽非常勤講師(28年)						
授業方法	ペアを組みお互い向かい合っ一つ太鼓を打ち合い指導教員の打ち方を見ながら打法等を身につける。						
到達目標	知識・理解	和太鼓の歴史や太鼓の種類、打法についての必要な知識を身につけることができる。			△		
	思考・判断・表現	その曲に適した打法や躍動感のある表現能力を身につけることができる。			○		
	技能	和太鼓をしっかりと打ち込み、正しいリズム感や拍子感を身につけることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	意欲的に練習して、仲間とアンサンブルを楽しむことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		5	5	50	-	60
	ステージ発表		-	5	10	5	20
	創作(作曲)		-	5	5	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		5	15	65	15	100
評価の特記事項	受講態度は、学修への取組状況、ステージ発表等から総合的に評価します。フィードバックとして演奏発表後に演奏内容についてコメントします。						
ICT活用							
課題に対するフィードバック	フィードバックとして演奏発表後、演奏内容についてコメントします。授業時間外課題については、次回以降の授業で紹介しコメントします。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	必要な楽譜は配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	日本太鼓の歴史と鼓動・種類・知識 ムチャクチャ乱打、握りが決めて パチに慣れよう [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
2	日本太鼓の打法・太鼓の楽譜に慣れよう 唱歌演奏 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
3	基礎練習 基本リズムに慣れよう [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
4	基礎練習 やさしい・楽しい・美しいわらべ歌で遊ぼう [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
5	基礎練習 やさしい・楽しい・美しいわらべ歌で遊ぼう [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
6	和楽器のアンサンブル練習 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
7	和楽器のアンサンブル練習 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
8	和楽器による即興演奏への導入 和楽器のアンサンブルと即興演奏・和太鼓作曲 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
9	オリジナル曲(I)練習 セット打ち 唱歌演奏 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
10	オリジナル曲(I)練習 リズム練習 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
11	オリジナル曲(I)練習 構え・打ち込み [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
12	オリジナル曲(I)練習 パチさばき・打ち込み [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
13	オリジナル曲(I)練習 音の表現・打ち込み [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
14	オリジナル曲(I)練習 身体表現・打ち込み [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
15	オリジナル曲(I)まとめ 発表会 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
時間外での学修	毎日のストレッチと授業で行ったオリジナル曲の見直し練習。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	誰でも叩けば音が出る和太鼓。でも打ち方は千差万別。自分がイメージした音を自由に出せる楽器です。とにかく力を抜いてリラックスして自分の音を追及してみてください。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で実施。						

【3S8F215】和太鼓Ⅱ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	藤井 久美子						
資格・制限等	MTコース必修						
授業内容	まず和太鼓を打つことで、日本の伝統音楽の響きに慣れ豊かなリズム感や拍子感を養い、楽しい遊びや豊かな身体表現ができるようになり、和楽器のアンサンブルを楽しみ即興演奏や即興伴奏ができるまでの音楽的能力を養いたい。						
実務家教員	高等学校音楽非常勤講師（28年）						
授業方法	ペアを組みお互い向かい合って一つの太鼓を打ち合い指導教員の打ち方を見ながら打法等を身につける。						
到達目標	知識・理解	和太鼓の歴史や太鼓の種類、打法についての必要な知識を身につけることができる。			△		
	思考・判断・表現	その曲に適した打法や躍動感のある表現能力を身につけることができる。			○		
	技能	和太鼓をしっかりと打ち込み、正しいリズム感や拍子感を身につけることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	意欲的に練習して、仲間とアンサンブルを楽しむことができる。			○		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		5	5	50	-	60
	ステージ発表		-	5	10	5	20
	創作(作曲)		-	5	5	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		5	15	65	15	100
評価の特記事項	受講態度は、学修への取組状況、ステージ発表等から総合的に評価します。フィードバックとして演奏発表後に演奏内容についてコメントします。						
I C T活用							
課題に対するフィードバック	フィードバックとして演奏発表後、演奏内容についてコメントします。授業時間外課題については、次回以降の授業で紹介しコメントします。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	必要な楽譜は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	基礎練習 基本リズムをこなそう [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
2	和楽器のアンサンブルと即興演奏 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
3	和楽器のアンサンブルと和太鼓譜作曲 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
4	オリジナル曲(Ⅱ)練習 ペアのアンサンブル曲『風の舞』 第一部リズム練習 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
5	オリジナル曲(Ⅱ)練習 第二部リズム練習 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
6	オリジナル曲(Ⅱ)練習 第三部リズム練習 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
7	オリジナル曲(Ⅱ)練習 全体通しリズム練習 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
8	オリジナル曲(Ⅱ)練習 構え・打ち込み [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
9	オリジナル曲(Ⅱ)練習 バチさばき・打ち込み [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
10	オリジナル曲(Ⅱ)練習 音の表現・打ち込み [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
11	オリジナル曲(Ⅱ)練習 身体表現・打ち込み [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
12	オリジナル曲(Ⅲ)練習 三宅打ち リズム練習 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
13	オリジナル曲(Ⅲ)練習 構え・打ち込み [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
14	オリジナル曲(Ⅲ)練習 バチさばき・打ち込み [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
15	オリジナル曲(Ⅱ・Ⅲ)まとめ 発表会 [課題(復習)]学んだ内容を復習する(1h)						
時間外での学修	毎日のストレッチと授業で行ったオリジナル曲の見直し練習。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:15時間】						
受講学生へのメッセージ	誰でも叩けば音が出る和太鼓。でも打ち方は千差万別。自分がイメージした音を自由に出せる楽器です。とにかく力を抜いてリラックスして自分の音を追究してみてください。オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で実施。						

【3S8S216】作譜		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	長尾 洪基						
資格・制限等	特になし						
授業内容	ピアノ、吹奏楽における楽譜は現在では殆どが楽譜製作ソフトによって作成されています。この授業では、自ら作編曲した楽譜、または録音から起した楽譜が、第三者から見てもわかりやすくなるように作成できるよう学修します。 D T Mソフトのシステムを理解し、ピアノ譜、吹奏楽等のスコアといった基本的な楽譜の製作をコンピュータによって行います。 学修する主なソフトはFinale 2014を使用します。						
実務家教員	作編曲家、吹奏楽指導者（含 高等学校教員）としてコンピュータ浄書履歴・25年						
授業方法	D T Mソフトのシステムの概要を理解した上で、コンピュータによる楽譜の打ち込みを学修していきます。質疑応答の時間を設け、問題点を解決しながら進めていきます。						
到達目標	知識・理解	D T Mソフトのシステムを理解し、基本的な操作ができ演奏者が使用できるスコア、パート譜の製作ができる。			◎		
	思考・判断・表現	見た目の美しい楽譜のレイアウトを構築できる。			◎		
	技能	各ジャンルの譜表の様式を理解し作譜ができる。			△		
	関心・意欲・態度	手書き譜の浄書など演奏者がより使用しやすい美しい楽譜の作成ができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	試験(技能試験)		20	20	10	-	50
	課題提出		20	20	-	-	40
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		40	40	10	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は最終試験(技能試験)の受験資格はありません。						
I C T活用							
課題に対するフィードバック	課題やレポートの内容に対して口頭にてコメントを返します。						
テキスト	作成データ保存のためUSBメモリが必要です。						
参考書・教材	その都度配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方、授業の内容等 [課題(予習)]D T Mについて調べる(1h)						
2	基礎知識1 D T Mソフトの概要 [課題(予習)]D T Mソフトについて調べる(1h)						
3	基礎知識2 各種ソフト 小テスト [課題(予習)]フィナーレについて調べる(1h)						
4	使用機械の説明 周辺機器の基本的な操作方法 [課題(予習)]フィナーレを使用するPC環境について調べる(1h)						
5	フィナーレの概要 [課題(予習)]フィナーレの操作方法について調べる(1h)						
6	基本的な入力方法 貼り付け [課題(復習)]本時学修内容(基本的な音符入力)の復習(2h)						
7	基本的な入力方法 貼り付け 課題制作1 ピアノ譜の作成 [課題(復習)]本時学修内容(基本的な音符入力)の復習(2h)						
8	基本的な入力方法 課題制作2 ピアノ譜の作成 仕上げ [課題(復習)]本時学修内容(アーテュキレーション入力)の復習(2h)						
9	ステップ入力 ショートカットなど [課題(復習)]本時学修内容(ステップ入力に伴うキーボードショートカット)の確認復習(2h)						
10	ステップ入力 課題制作1 総譜の作成 [課題(復習)]本時学修内容(スコアセット作成・レイヤー入力)の復習(2h)						
11	ステップ入力 課題制作2 総譜の作成 [課題(復習)]本時学修内容(発想標語・ディナーミック入力)の復習(2h)						
12	ステップ入力 課題制作3 総譜の作成 仕上げ [課題(復習)]本時学修内容(特殊記譜:符頭変更・連符変更・トレモロ・楽譜レイアウト変更など)の復習(2h)						
13	応用編 その他の入力方法 リアルタイム入力 歌詞入力 等 [課題(予習)]試験内容の予習(2h)						
14	試験対策1 [課題(予習)]試験内容の予習(2h)						
15	試験対策2 [課題(予習)]試験内容の予習(2h)						
時間外での学修	授業内で課題が完成できない場合は各々で時間を作って仕上げてください。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:25時間]						
受講学生へのメッセージ	短時間に修得するためには、経験が重要になります。そのためかなりの作業量となりますので、本当に覚えたという気持ちがある人のみ受講してください。 オフイスアワーは授業教室で授業前後の休み時間です。						



【3T7F203】生涯スポーツ I		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	日比 千穂						
資格・制限等	特になし						
授業内容	社会環境や生活環境も目まぐるしく変化し、「新しい生活様式」が根付いてきています。その中で、どの世代においても、健康に対する意識や関心がより一層高まっているといえるでしょう。心の健康・身体の健康のために生涯にわたって気軽に運動や活動ができるレクリエーションの役割が大きくなってきています。レクリエーション活動を通じ、対象者が自主的・主体的に行える心の仕組み、技術の支援方法を理解し、アプローチできる力を身につけていきます。						
実務家教員	NPO法人岐阜県レクリエーション県協会理事 8年（2013年～） NPO法人大垣市レクリエーション協会理事長 6年（2015年～） 岐阜県公立小学校教諭6年						
授業方法	内容に合わせて、教室を使った講義形式と、体育館を利用したレクリエーション実技・演習を行います。講義・実技共に、指導者としての役割を学ぶために「ロールプレイ」「グループ討議」「発表」の形式を交えます。授業内容によっては、ICTを活用した遠隔授業や課題や自己評価提出、質問等も受付、学習状況を確認、フィードバックを行っていきます。						
到達目標	知識・理解	レクリエーション活動の理論に裏付けられた支援技術を理解する。			◎		
	思考・判断・表現	場面や個々の特性に応じたレクリエーション活動を創作できる。			○		
	技能	支援技術の方法を効果的に利用し、レクリエーション活動が提供できる。			○		
	関心・意欲・態度	レクリエーション活動を通じ、様々な場面で誰とでも笑顔でふれあうコミュニケーションを意識できる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記小テスト		20	10	-	-	30
	実技試験		10	-	10	-	20
	発表(グループ1回)		-	-	-	5	5
	小レポート(3回)		-	10	-	5	15
	自己評価(毎回)		-	-	5	10	15
	受講態度		-	-	5	10	15
合計(点)		30	20	20	30	100	
評価の特記事項	フィードバックとして小テストやレポート提出後、解答の解説やコメントを行います。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（ポータルサイトなど） 状況に応じてICTを活用した双方向型授業						
課題に対するフィードバック	授業時間外課題は、次回以降の授業で紹介しコメントする。						
テキスト	『楽しさをとおした心の元気づくり/レクリエーション支援の理論と方法』（公財）日本レクリエーション協会(1,800円)ISBN:978-4-931180-95-6 2年次「スポーツ・レクリエーション」受講者は購入済み						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	「生涯スポーツ」オリエンテーション。「レクリエーション・インストラクター」資格取得理解 ・生涯にわたるスポーツ習慣の重要性がわかり、「新型コロナ感染予防に留意した運動の在り方」と「レクリエーション概論」を振り返る。 [課題(復習)]スポーツ庁がと定める「するスポーツ」「みるスポーツ」「支えるスポーツ」の視点で自分の生活や地域の活動についてまとめる(1h)						
2	コミュニケーションと信頼関係づくりの理論 ・レクリエーション支援におけるコミュニケーションの方法や信頼関係づくりの方法を学ぶ。 [課題(復習)](1h)レクリエーション支援におけるホスピタリティをどのように表していくと良いかまとめる。						
3	良好な集団作りの理論 ・レクリエーションを通じた良好な集団作りを目指し、集団内のコミュニケーションが段階的にすすめられることを理解する。 [課題(予習)](1h)これまでの生活の中で「居心地の良い集団」「居心地のよかったのはなぜ？」また、「居心地のよくない集団」「居心地のよくなかったのはなぜ？」を振り返ってみる。						
4	自主的・主体的に楽しむ力を高める展開方法(実技)① アイスブレイキングゲームを中心の展開を実施。						
5	自主的・主体的に楽しむ力を育む(理論) 前時のプログラムを振り返り、自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開法における支援技術やCSSプロセスの活用方法を学ぶ。 [課題(復習)]CSSプロセスの場面を意識した保育実習活動を実践する。(1h)						
6	自主的・主体的に楽しむ力を育む展開方法(実技)② ・60秒チャレンジゲームを通じて、目標設定と言葉や表情の活用方法の一体的な実践方法を学ぶ。 [課題(復習)](1h)60秒チャレンジゲーム創作し、提出。						
7	レクリエーション活動の習得(理論) ・前時の60秒チャレンジゲームを振り返り、目標設定のポイントがわかり、自作の60秒チャレンジについての目標設定をすることができる。 [課題(復習)]次回の発表にむけて、60秒チャレンジゲームの目標設定を意識した指導ができる(1h)						
8	レクリエーション活動の習得(実技)① ・各自創作した60秒チャレンジを発表・体験する。 [課題(課題)]「60秒チャレンジ」発表を終えて振り返りや、発表者へのフィードバック(1h)						
9	レクリエーション活動の習得(実技)② ・「タスポニー」のルールを理解し、練習・ゲーム・審判を体験する。 [課題(復習)]「タスポニー」のルールを振り返る(1h)						
10	レクリエーション活動の習得(実技)③ ・「チャレンジ・ザ・ゲーム」のルールを理解し体験する。 [課題(復習)]「チャレンジ・ザ・ゲーム」のルールを振り返る(1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
11	レクリエーション活動の習得④ ・既習のゲームや、60秒チャレンジゲーム、チャレンジ・ザ・ゲームを支援技術や目標設定を意識した支援を考える。 [課題（復習）]選択したアクティビティにおいて支援技術や目標設定を意識した支援ができる。(1h)
12	安全管理 ・安全に楽しい場づくりを提供できるレクリエーション支援者のためには、リスクマネジメントの観点を持つことができ、企画、事故や急病者への的確な応急手当や、事後処理を学ぶ。 [課題（復習）]安全管理義務を振り返る(1h)
13	小テスト（レクリエーション・インストラクター資格者として知っておきたいことを確認） レクリエーション活動の習得⑤支援実技試験Ⅰ ・生涯スポーツⅠで学んだことを支援実技に活かすことができる。 [課題（復習）]演習発表できるように準備をすすめる(1h)
14	レクリエーション活動の習得⑤支援実技試験Ⅱ ・生涯スポーツⅠで学んだことを支援実技に活かすことができる。 [課題（復習）]自己評価と発表者への評価(1h)
15	レクリエーション活動の習得⑤支援実技試験Ⅲ ・生涯スポーツⅠで学んだことを支援実技に活かすことができる。 [課題（復習）]自己評価と発表者への評価(1h)
時間外での学修	【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：18時間】 毎時間の課題（15h） 地域での活動への参加（3h）－(特非)岐阜県レクリエーション協会(特非)大垣市レクリエーション協会など市町村レクリエーション協会や体育連盟やスポーツ協会など地域主催事業に積極的に参加。市民活動事業の現場でスタッフや参加者として関わり、社会貢献の実践を体験する(事前に参加手続きを各自で行なう)。参加報告を提出する。
受講学生へのメッセージ	服装はTPOに合わせる事が大切です。学修内容に合わせたふさわしい服装を心がけてください。現場での実践につながるよう明るい表情やわかりやすい表現方法を学んでいきます。 授業内容が会場・物品の都合で前後することもあります。 オフィスアワーは、授業後10分間とします。

【3T7F204】生涯スポーツⅡ		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	日比 千穂						
資格・制限等	特になし						
授業内容	健康への関心は、高まっています。適度な運動は、心の開放、体力維持・増進につながります。レクリエーションを学び、理論的に技術的にコミュニケーション力を高め、対象者に合わせた自主的主体的なやる気を引き出せる企画・プログラムを実践できる力としていきます。目的に合わせたゲームやニューススポーツを中心に実践し、アクティビティーに関する知的理解と指導法の修得について学び、実践できる指導者をめざします。						
実務家教員	NPO法人岐阜県レクリエーション県協会理事8年（2012年～） NPO法人大垣市レクリエーション協会理事長5年（2015年～） 岐阜県公立小学校教諭6年						
授業方法	内容に合わせて、教室を使った実技・演習、体育館・屋外を利用したレクリエーション実技・演習を行います。講義・実技共に、指導者としてのやくわりを学ぶため、「ロールプレイ」「グループ討議」「発表」の形式を交えます。授業内容によっては、ICTを活用した遠隔授業や自己評価提出、質問等も受付、学修状況を確認し、フィードバックを行います。						
到達目標	知識・理解	年齢や体力・技能を考慮した活動を理解する。			○		
	思考・判断・表現	発達の特徴を生かした指導計画を作成できる。			○		
	技能	ゲームの特徴を理解し、楽しいの伝達ができる。			○		
	関心・意欲・態度	積極的に関わり合いを持ち、社会に貢献する姿となることができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		5	-	5	10	20
	自己評価(毎回)		10	-	10	-	20
	受講態度		-	10	-	20	30
	レポート(2回)		-	10	-	-	10
	発表(グループ発表含む)		5	-	5	10	20
合計(点)		20	20	20	40	100	
評価の特記事項	フィードバックとして、小テストやレポート提出後、解答の解説やコメントを行います。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(ポータルサイトなど) 状況に応じてICTを活用した双方向型授業						
課題に対するフィードバック	授業時間外課題は、次回以降の授業で紹介しコメントする						
テキスト	『楽しさをおとした心の元気づくり』(公財)日本レクリエーション協会(1,800円)ISBN:978-4-931180-95-6 2年次「スポーツ・レクリエーション」受講者は購入済み						
参考書・教材							
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	資格取得にむけたガイダンス、レクリエーション活動の習得(テーブル実技) ・家族で楽しむレクリエーション「家庭教育活動推進事業」について理解する。 [課題(予習)] 知らなかったトランプのゲームについて調べ紹介。(1h)						
2	レクリエーション活動の習得(理論) ・レクリエーションの活動のアレンジやコミュニケーション技術の活用方法を学ぶ [課題(復習)] 段階的なアレンジがどのようなことに気を付けておこなうとよいかまとめる(1h)						
3	対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技術を活用 ・ねんりんピックふれあいレク種目「マグダーツ」を取り上げ学習する。(実技) [課題(復習)] 対象者のやる気につながる言葉がけをまとめる(1h)						
4	ねんりんピック事業理解と役割 ・ねんりんピック2021の事業を理解し、活動の役割がわかり、活動の理解ができる。参加者に楽しんでいただけるための各自の支援者像を設定する。 [課題(復習)] すでに学習した支援技術を、「ねんりんピック」でどのように役立てるか具体的にまとめる(1h)						
5	(現場実習) 事業参加10月30日(土) [岐阜メモリアルセンター] ねんりんピック2021① ・全国大会を支える県民による活動の実際を知る。 [課題(復習)] 軽スポーツについて振り返る。(1h)						
6	(現場実習) 事業参加10月30日(土) [岐阜メモリアルセンター] ねんりんピック2021② ・全国大会の県民による活動支援を体感する。 [課題(復習)] 参加者の方々の様子や、それにかかわる一般ボランティアの方々の様子で気づいたことをまとめる。(1h)						
7	(現場実習) スタッフ参加10月30日(土) [岐阜メモリアリセンター] ねんりんピック2021③ ・全国大会の県民による活動支援の打ち合わせにおいて、参加者が気持ちよく参加でき、また、参加者・スタッフ共に安全配慮に十分注意した準備をすることができる。 [課題(予習)] 担当コーナーの準備確認・リスクマネジメントの視点を持って配布物確認(時間・トイレ・手洗い場所・休憩場所・飲食場所・救護場所など)(1h)						
8	(現場実習) スタッフ参加10月30日(土) [岐阜メモリアリセンター] ねんりんピック2021④ ・打ち合わせや準備を活かして、参加者に楽しんでいただける全国大会支援者を目指す。 [課題(復習)] [ねんりんピック2021] 報告書作成次回提出(1h)						
9	モデルプログラムの実施①(キンボール) ・キンボールを体験しながら、導入から展開まとめまでの一連の流れの中で、自主的主体的にレクリエーション活動を進める、技法や理論を振りえる。 [課題(復習)] 本時での実技と技法・理論について振り返り、今後の活用方法をまとめる。(1h)						
10	モデルプログラムの実施②(ラダーゲッター) ・レクリエーション活動を自主的主体的にすすめる展開方法を総合的に実践する。 [課題(復習)] 自主的・主体的にすすめる展開方法で一番大切にしたいことをまとめる(1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
11	モデル・プログラムの実施③（ネイチャーゲーム） ・「生きる」を学ぶ目的としたゲームの中で、虫や植物たちの自然の中で生きる力を感じるプログラムを体験する。 [課題（復習）] インターネットで、シェアリングネイチャーについて調べ、どう利用できそうかまとめる。
12	プログラム立案④（実技演習の立案・評価・改善） ・生涯スポーツⅠ・Ⅱを通じて学んだコミュニケーション技術や支援技術、アレンジ法を一体的に実施できる実技演習のプログラムを立案する。 [課題（復習）] プログラムで担当となった部分を技法や理論を盛り込んで発表できるようにする。（1h）
13	科目終了判定（コミュニケーション・ゲームの評価・改善）実技演習Aグループ ・学生を参加者にみだてて、実際のプログラムを展開する。 [課題（復習）] コミュニケーション・ゲームについて振り返りをする。（1h）
14	科目終了判定（コミュニケーション・ゲームの評価・改善）実技演習Bグループ ・学生を参加者にみだてて、実際のプログラムを展開する。 [課題（復習）] コミュニケーション・ゲームについて振り返りをする。（1h）
15	科目終了判定（コミュニケーション・ゲームの評価・改善）実技演習Cグループ ・学生を参加者にみだてて、実際のプログラムを展開する。 [課題（予習）] 担当するコミュニケーション・ゲームを十分に理解し発表する準備を行う。（1h）
時間外での学修	【この科目で求められる望ましい授業外での総学修時間：18時間】 （特非）岐阜県レクリエーション協会（特非）大垣市レクリエーション協会など地域レクリエーション協会主催事業に積極的に参加。市民活動事業の現場でスタッフや参加者として関わり、社会貢献の実践を体験する（事前に参加手続きを各自で行なう）。参加報告提出すること（3h）
受講学生へのメッセージ	スポーツ要素を多く含む激しい動きもあります。活動しやすい服装（体育館シューズ・スカート不可）で積極的に参加し、現場での実践につながるよう明るい表情やわかりやすい表現方法を学んでいきます。体育館の利用状況や種目道具の使用状況で授業内容の入れ替えがあります。オフィスアワーは、授業後10分間とします。

【3T7S107】特別支援教育		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	松村 齋						
資格・制限等	特になし						
授業内容	教育の現場では、特別な教育的ニーズを有する子どもや大人に対して、適正な支援が求められています。本科目では、特別支援（教育）の意義、対象となる障害に関する基礎的な知識、理解、教育の現状について解説し演習を通じて学びます。主体的・対話的で深い学びを促進する状態での学修活動を積極的に行い、ICTを活用した双方向型授業や自主学習支援なども必要に応じて実施する。						
実務家教員	学校教員20年						
授業方法	講義形式 授業のテーマに沿った小課題を毎時行います。一部「グループディスカッション」「ビデオ視聴」なども取り入れる予定です。フィードバックとして理解度確認レポートを回収後、必要に応じて解説致します。						
到達目標	知識・理解	特別支援教育の理念と概念を理解し、高度な知識と技能を身につけることができる。			◎		
	思考・判断・表現	支援者としての考え方や役割を理解し、自分なりの保育者観を持って、問題や課題に向き合うことができる。			○		
	技能	支援が必要な一人ひとりの考え方・学び方などの多様性を理解し、支援方法を具体的に示すことができる。			◎		
	関心・意欲・態度	連携・ネットワークの視点・方法を知り、様々なケースに対応できる柔軟さとコミュニケーション能力を身につけることができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	10	20	-	60
	発表・レポート		-	5	10	5	20
	自己評価		5	-	5	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		35	15	35	15	100	
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生には定期テスト受験資格がありません。						
ICT活用							
課題に対するフィードバック	活動後のレポート及び振り返りにより、個別に返答、もしくは全体の場でのフィードバックを行なう。						
テキスト	『子どもと保護者のココロに寄り添う！エピソードで学ぶ！特別支援教育AtoZ 幼児編』松村 齋 明治図書(1,860円)ISBN:ISBN-10: 4181226107 ありません。						
参考書・教材	授業時にプリント配付します。 授業時に適宜紹介します。 特別支援学校 幼稚園教育要領 小学部・中学部学習指導要領（文部科学省）						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	特別支援教育の現状 特別支援教育の意義、学校教育法一部改正による特別支援学校・特別支援学級への転換、校内委員会・特別支援教育コーディネーターの設置、個別の教育支援計画の作成、学習指導要領の改訂等を解説する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)						
2	視覚障害児の理解 視覚障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)						
3	聴覚障害児の理解 聴覚障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)						
4	知的障害児の理解 知的障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)						
5	肢体不自由児の理解 肢体不自由の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)						
6	病弱児の理解 病弱・身体虚弱の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。 討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出 [課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。(3～6h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
7	<p>重複障害児の理解            重複障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。            討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）</p>
8	<p>LD児の理解            学習障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。            討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出            情報機器を活用して資料を読み取り、客観的な視点を養う</p> <p>[課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）</p>
9	<p>ADHD児の理解            ADHDの児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。            討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）</p>
10	<p>自閉症児の理解            自閉症の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。            討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）</p>
11	<p>情緒障害児の理解            情緒障害の児童生徒の指導を進めるうえで必要な知識（定義、状態像、診断基準等）、理解、教育的対応（教育内容、教育方法、留意事項）等について解説する。また、教育の実際について紹介する。            討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）</p>
12	<p>特別支援学校の教育の実際            特別支援学校の教育課程、指導方法、特別支援学校のセンター的機能の実際等を紹介する。            討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）</p>
13	<p>特別支援学級の教育の実際            特別支援学級の現状、教育課程の編成、指導の実際等について紹介する。            討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）</p>
14	<p>通級による指導の実際            通級による指導の位置づけ、教育課程、指導の実際等について紹介する。            討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）</p>
15	<p>小学校・中学校等に於ける特別支援教育の実際            通常の学級と通級指導教室の連携、通常の学級における指導体制の整備、校内委員会、研修等について実際を紹介する。            討論、発表を通じて問題解決型の学修を目指す 課題に対して小レポートの提出</p> <p>[課題（準備）]配付された資料を当日中に必ず復習し、必ず関連する文献に触れること。（3～6h）</p>
時間外での学修	<p>特別支援教育に関する当事者の著書を数冊熟読し、当事者の思いが理解できる保育者となれるように常に心がけておいてください。            特別支援教育に関する学会やシンポジウム等に積極的に参加するようにしてください。  <b>【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】</b></p>
受講学生へのメッセージ	<p>成人施設の支援と並行して、幼稚園、小学校等では、現在、特別な教育的ニーズを有する園児児童生徒等の支援は大きな柱のひとつとなっています。積極的な機会を見つけて、学校園等に出向くように心がけてください。            オフィスアワーは、H号館H207号室 水曜日16時10分からです。</p>

【3T7S109】社会福祉		音楽総合学科		2年後期		
		2単位	必修	講義	30時間	
教員	堀江 法夫					
資格・制限等	MTコース必修					
授業内容	少子高齢化の社会にあって社会福祉は全ての人にとって大切なテーマです。限られたマンパワーや財源という社会資源の中で高齢者や子どもたちの命がまもられていくにはどうしたらいいのか。社会福祉のこれまでと現在の課題を学んでいきます。					
実務家教員						
授業方法	講義を中心として基礎的知識を学び、その上で出来る限りみなどで考えを深めていきます。最終の2回程度の講義では、一人4分程度発表してもらいます。					
到達目標	知識・理解	社会福祉の歴史と実践について基本的な知識と理解を深めるようになる。			◎	
	思考・判断・表現	社会が激変していく中で生活のしづらさを思考、判断、表現できるようになる。			◎	
	技能	福祉の実践の場でアプローチしていく専門的な技能を深めるようになる。			△	
	関心・意欲・態度	共通の福祉課題に積極的に関心を持ち取り組むことができるようになる。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	40	30	-	-	70
	発表・レポート	-	5	5	5	15
	受講態度	-	-	-	15	15
	合計(点)	40	35	5	20	100
評価の特記事項	方法:筆記試験1回・レポート発表1回・自己評価毎回 その他:3分の1以上欠席した者には単位を与えない。					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	毎回授業の最後に振り返りをしてもらい、次回の授業に役立てていきます。					
テキスト	テキストはありません					
参考書・教材	必要な教材資料は配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	社会福祉を学ぶにあたって：これまでの社会の変遷と現代の生活課題について考えよう。 〔課題(準備)〕社会福祉は私たちの生活の中でどのような関係があるのかを考えておこう。(3h)					
2	社会福祉の考え方と役割：保育を含む社会福祉の視点と目的を考えよう。 〔課題(準備)〕社会福祉の考えはどのようにして生まれてきたのかを考えておこう。(3h)					
3	社会福祉の歴史：欧米と日本の福祉についてこれまでのあゆみを理解しておこう。 〔課題(準備)〕特に資本主義社会の発展との関係で考えておこう。(3~6h)					
4	社会保障とは何か：社会保険や生活保護について理解しておこう。 〔課題(準備)〕社会保険の種類と生活保護の考えを調べておこう。(3h)					
5	社会福祉のしくみ：高齢者福祉と障害者福祉のしくみと法制度について理解しておこう。 〔課題(準備)〕介護保険法と障害者総合福祉法について調べておこう。(3h)					
6	社会福祉の実施機関と行財政：福祉事務所と社会福祉法人について理解しておこう。 〔課題(準備)〕児童相談所、福祉事務所、社会福祉協議会、社会福祉法人について調べておこう。(3h)					
7	社会福祉施設：社会福祉施設の種類や運営の基準について理解しておこう。 〔課題(準備)〕社会福祉施設の種類や利用方法について調べておこう。(3h)					
8	子どもの福祉：子どもの人権と児童家庭福祉について考えよう。 〔課題(準備)〕子供の福祉と向き合うにはどのような視点が必要か考えてみよう。(3h)					
9	社会福祉の専門職：社会福祉専門職の専門性と倫理について考えよう。 〔課題(準備)〕社会福祉の専門職としての資格はなぜ必要か考えてみよう。(3h)					
10	相談援助の意味と方法：ソーシャルワークの視点と展開過程について考えよう。 〔課題(準備)〕保育士等のソーシャルワークの実際はどのようにして行くのか考えてみよう。(3~6h)					
11	福祉サービスの利用支援：契約制度と適切な利用支援について理解しておこう。 〔課題(準備)〕その人にマッチした支援とは何かを考えてみよう。(3h)					
12	権利擁護と苦情解決：権利擁護の意味と苦情解決のしくみについて理解しておこう。 〔課題(準備)〕権利擁護と苦情解決はなぜ必要になってきたのかを考えてみよう。(3h)					
13	地域福祉の推進：地域福祉の理念と推進の方法について考えよう。 〔課題(準備)〕地域福祉が必要になってきた過程について考えてみよう。(3h)					
14	これまで学んできた中で大切だと思ったことを一人3~4分発表してもらいます。 〔課題(準備)〕事前に要点をまとめ提出する。(3~6h)					
15	これまで学んできた中で大切だと思ったことを一人3~4分発表してもらいます。 〔課題(準備)〕事前に要点をまとめ提出する。(3~6h)					
時間外での学修	社会福祉の専門職は保育士や介護福祉士等があります。共通点と相違点を考えてみよう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:45時間】					
受講学生へのメッセージ	子育て環境は変化し、専門職として社会福祉の基礎的理解が不可欠です。一緒に考えていきましょう。オフィスアワーは毎週火曜日、12:10から12:30です。非常勤講師控室です。					

【3T7A212】臨床における即興技法 I		音楽総合学科		2年前期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	菅田 文子					
資格・制限等	特になし					
授業内容	音楽療法の実践場面で対象者の心身の状態や行動、音楽の好みなどに合わせ臨機応変に音楽を提供することができるよう、鍵盤楽器演奏の技術向上および基本的な即興技法を身につけることを目的とします。					
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年					
授業方法	1人1台の電子ピアノに向かい、毎週呈示される課題をその場で練習、発表します。シラバスに明示した課題の他、ほぼ毎回さぐり弾き（譜面を見ずに演奏）か、コード付けの課題が出されます。					
到達目標	知識・理解	知っている曲は譜面がなくても簡単なメロディーとコードをつけて演奏することができる。			◎	
	思考・判断・表現	演歌風、民謡風、軍歌風など、曲調にあったアレンジで伴奏をつけることができる。			◎	
	技能	知らない曲のメロディーに簡単なコードをつけて伴奏することができる。			◎	
	関心・意欲・態度	対象者に合わせたテンポ、リズムパターン、音量に合わせた即興演奏ができる。			△	
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実技試験	10	10	20	-	40
	発表（グループ発表含む）	20	20	10	-	50
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	30	30	30	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生、課題の発表がない学生は期末試験の受験資格がありません。					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	授業内で個別にコメントします。					
テキスト						
参考書・教材	授業内で配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	対象者に合わせるための練習1 テンポの変わるメトロノームに合わせて演奏する練習、さぐり弾き課題 [課題(復習)]学んだ内容の復習(歌いながら合図を出す)、さぐり弾き課題(p11)のコード付け(1H)					
2	さぐり弾きと移調 短調のさぐり弾き課題 p21~22の3和音課題を7つの調で演奏する [課題(復習)]学んだ内容の復習、さぐり弾き課題(p13)のコード付け(1H)					
3	さぐり弾きと移調 p24の3和音課題を7つの調で演奏する [課題(復習)]学んだ内容の復習(1H)					
4	ペンタトニック：自由に即興演奏をするための練習、F#ペンタトニックを使った作曲 [課題(復習)]学んだ内容の復習(ペンタトニックで即興演奏する)、さぐり弾き課題(p16)のコード付け(1H)					
5	黒鍵を用いたI-IV-V [課題(復習)]学んだ内容の復習(ペンタトニックの伴奏)、さぐり弾き課題のコード付け(1H)					
6	さまざまなペンタトニック：ペンタトニックの曲に和音をつける [課題(復習)]学んだ内容の復習(音階に含まれる音のみで伴奏する)、さぐり弾き課題(p20)のコード付け(1H)					
7	基本拍を促す演奏1：既成曲の基本拍 [課題(復習)]既成曲に基本拍をつけ伴奏する練習、さぐり弾き課題(p34)のコード付け(1H)					
8	基本拍を促す演奏2：太鼓とピアノの即興、基礎 [課題(復習)]太鼓にピアノで即興の伴奏をつける練習、コード付け課題(p37)(1H)					
9	基本拍を促す演奏3：太鼓とピアノの即興、応用 [課題(復習)]伴奏に変化をつける即興の伴奏の練習、コード付け課題(p43)(1H)					
10	基本拍を促す演奏4：太鼓とピアノのテンポ変化 [課題(復習)]テンポに変化をつける即興の伴奏の練習、コード付け課題(p46)(1H)					
11	基本拍を促す演奏5：太鼓、シンバルとピアノの即興課題 [課題(復習)]学んだ内容の復習、さぐり弾き課題のコード付け(1H)					
12	さまざまな伴奏パターンを学ぶ①民謡 [課題(復習)]民謡に特有のパターンで伴奏をつける練習、さぐり弾き課題(p49)のコード付け(1H)					
13	さまざまな伴奏パターンを学ぶ②軍歌 [課題(復習)]軍歌に特有のパターンで伴奏をつける練習、さぐり弾き課題(p52)のコード付け(1H)					
14	さまざまな伴奏パターンを学ぶ③演歌 [課題(復習)]軍歌に特有のパターンで伴奏をつける練習、さぐり弾き課題のコード付け(1H)					
15	テスト対策 [課題(復習)]テスト課題の練習、さぐり弾き課題のコード付け(1H)					
時間外での学修	授業で呈示された課題が身につくまで、各自が練習してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					
受講学生へのメッセージ	即興演奏はその場で演奏するものですが、蓄積が必要です。授業内で行った課題で不得手なものがあれば克服にむけて自主練習してください。 オフィスアワーは研究室(B403:B号館4階)で毎週木曜日の13:00~14:30です。					



【3T7A213】臨床における即興技法Ⅱ		音楽総合学科		2年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	菅田 文子					
資格・制限等	特になし					
授業内容	音楽療法の実践場面で対象者の心身の状態や行動、音楽の好みなどに合わせ臨機応変に音楽を提供することができるよう、鍵盤楽器演奏の技術向上および基本的な即興技法を身につけることを目的とします。幅広いジャンルの曲に親しみ、旋律や和声の構造を分析します。音楽療法の目的に沿った作曲も学びます。					
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年					
授業方法	1人1台の電子ピアノに向かい、毎週提示される課題をその場で練習、発表します。シラバスに明示した課題の他、ほぼ毎回さぐり弾きかコード付けの課題があります。					
到達目標	知識・理解	既成曲を音楽療法の目的に合わせて編曲することができる。			◎	
	思考・判断・表現	音楽療法セッションで用いる体操や動きに即興で伴奏をつけることができる。			○	
	技能	セッションの目的に沿った簡単な曲を即興で作ることができる。相手に合わせた即興演奏の伴奏ができる。			◎	
	関心・意欲・態度	障がいを持つ人がつくる詞に曲をつけることができる。対象者に合わせた演奏ができる。			△	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	20	10	10	-	40
	課題提出	20	10	-	10	40
	受講態度	-	-	10	-	10
	発表(グループ発表含む)	-	-	10	-	10
	合計(点)	40	20	30	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生、課題の発表を行わなかった学生は期末試験の受験資格がありません。					
ICT活用						
課題に対するフィードバック	授業内で個別にコメントします。					
テキスト						
参考書・教材	授業内で配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	目的に合わせて作曲する1：リラックス体操の伴奏 [課題(復習)]コード進行とリズムがあまり動かない伴奏を練習する、さぐり弾き課題(p58)のコード付け(1H)					
2	目的に合わせて作曲する2：タオル体操の伴奏 [課題(復習)]音階と動きがマッチする伴奏を練習する、コード付け課題(p60)(1H)					
3	目的に合わせて作曲する3：嚙下体操の伴奏 [課題(復習)]動きに合わせて伴奏をつける、さぐり弾き課題(p66)のコード付け(1H)					
4	目的に合わせて作曲する4：「待つ」ための曲を作る、ミュージックベルのアレンジ①曲の決定、移調 [課題(復習)]ベル譜面(移調したメロディー)の清書、コード付け課題(p69)(1H)					
5	目的に合わせて作曲する5：動きを促す音楽の作曲、ミュージックベルのアレンジ②和音づけ [課題(復習)]ベル譜面(和音づけ)の清書、学んだ内容の復習、さぐり弾き課題(p71)のコード付け(1H)					
6	目的に合わせて作曲する6：気持ちを表す音楽の作曲、ミュージックベルのアレンジ③パート分け[課題(復習)]パート分けしたベル譜面にマーカーで色分けしてくる、さぐり弾き課題(p75)のコード付け(1H)					
7	目的に合わせて作曲する7：言葉や詩に曲をつける、ミュージックベルのアレンジ④、発表 [課題(復習)]作ったメロディー譜の清書、残りのメロディーを考える(1H)					
8	目的に合わせて作曲する8：作った曲をCメロ譜にする [課題(復習)]作曲した曲の清書、さぐり弾き課題のコード付け(1H)					
9	1音のためのアレンジ、1音のための作曲 [課題(復習)]作った曲の清書、さぐり弾き課題のコード付け(1H)					
10	モード(旋法)と慣用的な表現1：ドリアンのスケール [課題(復習)]繰り返し練習しモードに慣れる、さぐり弾き課題(p88)のコード付け(1H)					
11	モード(旋法)と慣用的な表現2：リディアン、中近東のスケール [課題(復習)]繰り返し練習しモードに慣れる、さぐり弾き課題(p92)のコード付け(1H)					
12	モード(旋法)と慣用的な表現3：スペイン風音階 [課題(復習)]繰り返し練習しモードに慣れる、さぐり弾き課題(p94)のコード付け(1H)					
13	モード(旋法)と慣用的な表現4：民謡音階の即興 [課題(復習)]学んだ内容の復習、さぐり弾き課題(p97)のコード付け(1H)					
14	臨床における応用① [課題(復習)]学んだ内容の復習、試験の準備(1H)					
15	臨床における応用② [課題(復習)]学んだ内容の復習 [課題(準備)]試験の準備(1H)					
時間外での学修	作曲や編曲の課題が宿題として出ますので、積極的に取り組んでください。 課題が時間内に終了しなかった学生には補講を行います。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】					
受講学生へのメッセージ	臨床実習や、音楽療法士として働くにあたって一番役に立ったといわれている授業です。面倒な課題も多いですが将来の自分のために取り組んでください。 オフィスアワーは研究室(B403:B号館4階)で毎週木曜日の13:00~14:30です。					

【3T7S115】音楽療法・臨床		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	特になし						
授業内容	この授業では後期から始まる臨床実習に向けて、基礎となる力をつけることを目的とします。授業内容は大きくわけて2つに分かれます。ひとつめは音楽療法全般に関する理論と音楽療法を受ける対象となる人の病気、障害、心理特性などについての知識を学ぶことです。ふたつめはそれぞれの対象に向けた実践の内容について学びます。						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業方法	講義形式ですが演習も含まれます。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。						
到達目標	知識・理解	音楽療法の臨床分野（児童・成人・高齢）それぞれについて、主要な目的と活動について理解、説明ができる。			◎		
	思考・判断・表現	音楽の治療的用法について説明ができる。 音楽療法に関連のある心理療法の概略について理解、説明ができる。			◎		
	技能	目標に沿った音楽活動を発表できる。			△		
	関心・意欲・態度	対象者に即した課題を相手にわかりやすく工夫した形で発表することができる。			△		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	30	-	-	60
	レポート		10	10	-	-	20
	発表（グループ発表含む）		-	-	10	-	10
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		40	40	10	10	100	
評価の特記事項	授業回数の1/3以上欠席した学生は定期試験の受験資格がありません。 課題発表、提出物のない学生は定期試験の受験資格がありません。						
I C T活用	課題や感想をGoogle Formで提出してもらいます。						
課題に対するフィードバック	よいレポートは授業内で取り上げます。						
テキスト							
参考書・教材	授業内でプリントを配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション 心理学の理論、心理学の歴史概論 [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、心理学理論の歴史について理解する（4H）						
2	理論1：精神分析 無意識、防衛機能について 精神分析理論を用いた音楽療法について 教材視聴 [課題（復習）]Googleフォームにて復習テストを受ける。学んだ内容を復習し、精神分析と音楽療法の関連について理解する（4H）						
3	自己防衛メカニズムについて [課題（復習）]指定する書式に沿ってレポート課題を提出する（4H）						
4	理論2-1：行動療法 学習と強化について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、行動療法の理論的背景とアプローチについて理解する（4H）						
5	理論2-2：行動療法を用いた音楽療法 目標設定と般化について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、行動療法的音楽療法の目標設定について理解する（4H）						
6	理論3-1：人間主義 クライエント中心療法、カウンセリングについて 受容と共感 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、人間主義的関わりとこれまでの理論の違いを理解する（4H）						
7	理論3-2：人間主義的音楽療法 創造的音楽療法について 教材視聴 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、即興を用いる音楽療法の目的を理解する（4H）						
8	聴覚障害と音楽療法1 聴こえの仕組み、耳の構造、難聴の定義 教材視聴 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、聴こえの仕組みについて理解する（4H）						
9	聴覚障害と音楽療法2 人工内耳と聴覚リハビリテーション、手話とろう文化 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、聴覚障害の治療についての問題を理解する（4H）						
10	重度重複障害者に対する音楽療法1 ゲストスピーカーを招いて学ぶ。対象者理解と適切な目標設定、音楽活動について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、対象者の特性と目標、活動について理解する（4H）						
11	不登校とカウンセリング 不登校の歴史、カウンセリングで重視すること 不登校児童と音楽療法 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、対象者の特性と目標、活動について理解する（4H）						
12	意識障害と音楽療法 昏睡患者に対する音楽療法、NICUにおける音楽療法 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、対象者の特性と目標、活動について理解する（4H）						
13	医療現場における音楽療法の役割 疼痛緩和、ストレスの軽減、チーム医療としての音楽療法士の役割について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、対象者の特性と目標、活動について理解する（4H）						
14	レポート課題について説明、文献の調べ方、書き方について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、レポート作成（4H）						
15	他職種との連携と音楽療法活動 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、レポート作成（4H）						
時間外での学修	毎回宿題が出ますので準備をしてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						

受講学生への  
メッセージ

課題のレポート、練習問題の成績比率が成績評価に関係してきます。  
オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。

【3T7A116】音楽療法・技法		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	選択	講義	30時間		
教員	菅田 文子						
資格・制限等	特になし						
授業内容	音楽療法士として必要な音楽技法や心理的援助方法、集団をまとめる方法についての知識を学びます。臨床の現場で発生する問題や課題について解決方法をクラス内で討議し、問題解決能力の向上をはかります。						
実務家教員	音楽療法関連施設職員・5年						
授業方法	講義形式ですが演習も含まれます。小グループでの討論、検討結果の発表も行います。						
到達目標	知識・理解	音楽療法の技法について基本的な知識を得ておりそれぞれの理解ができてい			◎		
	思考・判断・表現	音楽療法に関連する分野についての基本的な知識を持ち、どの分野にどの技法が適しているか判断できる。			◎		
	技能	対象者の立場を考えた計画ができる。			△		
	関心・意欲・態度	人前で意欲的に発表できる。			△		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	20	-	-	50
	レポート		20	10	10	-	40
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		50	30	10	10	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。課題の発表を行わない学生は期末試験の受験資格がありません。						
ICT活用	学生ポータルやGoogle Formで提出してもらいます。						
課題に対するフィードバック	良いレポートは授業内でとりあげます。						
テキスト							
参考書・教材	授業中にプリントを配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	認知機能を測る標準化されたテストについて：かなひろいテスト、MMSE、長谷川式について [課題（復習）]学んだ内容を復習し、自分でテストを実施する練習をする（4H）						
2	新版長谷川式テストを一人ずつ行い点数計算ができるようになる。それぞれの待ち時間には移調課題を行う。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、回想法課題の準備を行う（4H）						
3	回想法について：手順と方法について学ぶ。各自持参した回想法に使う道具を発表する。学習療法について：手順と方法について学ぶ。簡単なクイズの作成、発表を行う。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、回想法と学習療法について理解する（4H）						
4	Anglia Ruskin University作成のDVD "Music Therapy for Children on the Autistic Spectrum" "Timothy: Music Therapy with a Little Boy who has Asperger Syndrome"を視聴、海外の音楽療法のアプローチと日本のアプローチの違いについて学ぶ。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、自閉症スペクトラム児童の特徴と音楽療法について理解する（4H）						
5	倫理について：音楽療法士の職業倫理について事例から学ぶ。グループ討論 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、音楽療法士の倫理について理解する（4H）						
6	回想法と音楽療法の組み合わせ：対象者にとって重要な出来事や時期に合致する選曲を行い、どのように声かけを行うか発表する。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、高齢者が懐かしく感じる曲についてまとめる（4H）						
7	学習療法と音楽療法の組み合わせ：歌唱や楽器演奏を取り入れることで言葉を記憶しやすくしたり、複数の活動を一度に行う方法について発表する。曲名を連想するクイズを作成する。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、使用する曲を練習する（4H）						
8	矯正施設における音楽療法：音楽を用いたカウンセリングの目的や方法について学ぶ。 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、矯正施設の特性と音楽活動の目的の関連についてまとめる（4H）						
9	NICUにおける音楽療法：実際のセッションの様子をビデオを見て学ぶ。 [課題（復習）]学んだ内容を復習（4H）						
10	介護予防と音楽療法：障害や病気をもつ人だけでなく、高齢者社会が急速に進む日本において介護予防は喫緊の課題である。音楽療法士が勤務することの多い高齢者施設でも地域の人を対象とした介護予防に関する音楽活動に携わる機会がある。実際にゲストスピーカーを招き、介護予防と音楽療法の実際について学ぶ。 [課題（復習）]話を聴いて学んだことをレポートにまとめる（4H）						
11	緩和ケアにおける音楽療法：ホスピス、緩和ケアにおいて音楽療法士が働いている現場はまだ少ないが、対象者本人だけでなく家族も含めた働きかけが重要となる。日本と海外のビデオを見て学ぶ。教材視聴 [課題（復習）]学んだ内容を復習し、自分の死生観について理解し、終末期ケアのニーズとの関連を考える（4H）						
12	地域における音楽療法：従来の、対象者の問題に対する治療目的が明確な伝統的な音楽療法に加えて近年コミュニティ音楽療法という概念が出てきている。地域を対象とした音楽活動について、実際に地域で活動している音楽療法士をゲストに招いて学ぶ。 [課題（復習）]話を聴いて学んだことをレポートにまとめる（4H）						
13	日本で発達した音楽療法1：欧米だけでなく、日本の実情に合わせて発達してきた音楽療法の手法について基本的な概念を学ぶ。ミュージックケア、ミュージックボランティアなど [課題（復習）]学んだ内容を復習しまとめる（4H）						
14	日本で発達した音楽療法2：音楽運動療法、現在の音楽療法の課題など [課題（復習）]学んだ内容を復習しまとめる（4H）						
15	音楽療法を現場で実践するにあたっての業務、予算、計画申請などについて。これまでの授業の振り返り [課題（復習）]学んだ内容を復習（4H）						

時間外での学修	毎週課題が出されます。宿題として評価の対象になります。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	知識と、自分で考える能力の両方が現場では必要とされます。自分ならどうするのか、常に考えながら授業に臨んでください。オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。

【3T7S219】音楽療法実践Ⅲ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	日比 あけみ						
資格・制限等	特になし						
授業内容	高齢者施設での実践を通して対象者への理解をより深めるとともに、好ましい接し方や適切な働きかけ方を身につけます。						
実務家教員	福祉・医療現場における音楽療法実践17年						
授業方法	学内での演習および学外での実践。						
到達目標	知識・理解	目標に沿って適切な活動の組み立てを考えることができる。			◎		
	思考・判断・表現	全体の活動の流れを見通しながら、自分の役割に責任を持つことができる。			○		
	技能	「高齢者から学ぶ」という謙虚な態度で実践に臨むことができる。			○		
	関心・意欲・態度	活動を振り返ることで、どのような働きかけが望ましいのか考えることができる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実践発表		20	20	20	-	60
	受講態度		-	-	-	10	10
	レポート		-	-	-	20	20
	期末試験		10	-	-	-	10
	合計(点)		30	20	20	30	100
評価の特記事項	ICT活用						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題やレポートにコメントを返します。						
テキスト	『歌の宝宝箱 手あそび歌付』ドレミ楽譜出版社(2,160円)ISBN:978-4285142761						
参考書・教材	資料を配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション(年間計画・課題の確認) [課題(予習/復習)]課題における目標設定(1h)						
2	アセスメントを目的とした施設訪問 [課題(復習)]施設訪問における目標設定と振り返り(1h)						
3	高齢者施設での音楽活動①「高齢者理解」準備 [課題(予習)]実践に向けての事前調査・個人練習(1h)						
4	高齢者施設での音楽活動①「高齢者理解」リハーサル [課題(予習/復習)]活動についての意見交換・見直し(1h)						
5	高齢者施設での音楽活動①「高齢者理解」実践 [課題(復習)]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1h)						
6	活動①の振り返り [課題(復習)]実践記録のまとめ(1h)						
7	高齢者施設での音楽活動②「目標設定」準備 [課題(復習)]実践に向けての事前調査・個人練習(1h)						
8	高齢者施設での音楽活動②「目標設定」リハーサル [課題(復習)]活動についての意見交換・見直し(1h)						
9	高齢者施設での音楽活動②「目標設定」実践 [課題(復習)]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1h)						
10	活動②の振り返り [課題(復習)]実践記録のまとめ(1h)						
11	高齢者施設での音楽活動③「働きかけ」準備 [課題(復習)]実践に向けての事前調査・個人練習(1h)						
12	高齢者施設での音楽活動③「働きかけ」リハーサル [課題(復習)]活動についての意見交換・見直し(1h)						
13	高齢者施設での音楽活動③「働きかけ」実践 [課題(復習)]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1h)						
14	活動③の振り返り [課題(復習)]実践記録のまとめ(1h)						
15	援助的人間関係について [課題(復習)]対象者の心情を汲みとる(1h)						
時間外での学修	自分の担当になった活動は責任をもって準備してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						
受講学生へのメッセージ	人前に立つには、心身ともに良好であることが大事です。いつも健康管理に気を配って実践現場に臨んでください。 オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。						

【3T7A220】音楽療法実践IV		音楽総合学科		2年後期		
		1単位	選択	演習	30時間	
教員	日比 あけみ					
資格・制限等	特になし					
授業内容	対象者のポジティブな部分を大切に音楽活動を計画します。また、分野別・形態別に学ぶことで多様性のある働きかけ方を身につけます。					
実務家教員	福祉・医療現場における音楽療法実践17年					
授業方法	学内での演習。実践形式で行います。					
到達目標	知識・理解	対象者のニーズに合った目標と活動の組み立てを考慮することができる。			◎	
	思考・判断・表現	対象者の好みの歌を知り、弾き歌いができるようにする。			○	
	技能	対象者の心情を汲みとりながら、活動を進めることができる。			○	
	関心・意欲・態度	活動を振り返ることで、どのような働きかけ方が望ましいのか考えることができる。			◎	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実践発表	20	20	20	-	60
	受講態度	-	-	-	10	10
	レポート	-	-	-	20	20
	期末試験	10	-	-	-	10
	合計(点)	30	20	20	30	100
評価の特記事項	I C T活用					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題やレポートにコメントを返します。					
テキスト	『弾き語りキーボード・セッション(1) 音楽療法の必須100曲 高齢者編』あおぞら音楽社(2,484円)ISBN: 978-4904437032 『弾き語りキーボード・セッション(2) 音楽療法の必須100曲 子ども編』あおぞら音楽社(2,484円)ISBN: 978-4904437049 『弾き語りキーボード・セッション(3) 音楽療法の必須100曲 おとな編』あおぞら音楽社(2,646円)ISBN: 978-4904437056 「音楽療法演習」履修者は購入済					
参考書・教材	資料を配付します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	オリエンテーション(年間計画の確認) 個人セッション(高齢者)の活動準備 [課題(予習、復習)]事前調査、計画(1~3h)					
2	個人セッション(高齢者)の練習 [課題(復習)]練習、見直し(1~3h)					
3	個人セッション(高齢者)の発表 [課題(復習)]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1~3h)					
4	活動の振り返り [課題(復習)]意見交換、実践記録のまとめ(1~3h)					
5	個人セッション(成人)の活動準備 [課題(予習、復習)]事前調査、計画(1~3h)					
6	個人セッション(成人)の練習 [課題(復習)]練習、見直し(1~3h)					
7	個人セッション(成人)の発表 [課題(復習)]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1~3h)					
8	活動の振り返り [課題(復習)]意見交換、実践記録のまとめ(1~3h)					
9	個人セッション(児童)の活動準備 [課題(予習、復習)]事前調査、計画(1~3h)					
10	個人セッション(児童)の練習 [課題(復習)]練習、見直し(1~3h)					
11	個人セッション(児童)の発表 [課題(復習)]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1~3h)					
12	活動の振り返り [課題(復習)]意見交換、実践記録のまとめ(1~3h)					
13	少人数グループセッションの活動準備および練習 [課題(予習、復習)]事前調査、計画、練習、見直し(1~3h)					
14	少人数グループセッションの発表 [課題(復習)]イメージトレーニング、活動の確認、反省(1~3h)					
15	活動の振り返り [課題(復習)]意見交換、実践記録のまとめ(1~3h)					
時間外での学修	様々なボランティア活動に参加し、人と多く関わることで柔軟性を身につけてください。					
受講学生へのメッセージ	いろいろな立場になって活動を進めます。お互いに気付いたことを伝え合える関係づくりに努めてください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。 【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：15~45時間】					

【3T7A421】臨床実習(事前・事後指導を含む)		音楽総合学科		2年後期			
		3単位	選択	実習	135時間		
教員	菅田 文子・日比 あけみ						
資格・制限等	既修得科目による制限有り						
授業内容	音楽療法士資格取得のための臨床実習に向けた事前準備および実習後の資格申請手続きまでをこの時間内に行います。 実習前はセッション記録の取り方の復習、実践計画と準備を行います。実習終了後は実習期間中の振り返りや実習中に起きた問題をクラス内で共有するなど。1年生の授業において実習成果を発表するので、その準備もこの時間で行います。						
実務家教員	菅田：音楽療法関連施設職員・5年 日比：医療、福祉施設における音楽療法実践・17年						
授業方法	講義形式、実習グループに分かれた計画の立案、練習、他グループの前での発表練習などを含みます。						
到達目標	知識・理解	対象者のアセスメントを行い目標を設定することができる。			◎		
	思考・判断・表現	自分の行った活動について目的や内容を説明することができる。			△		
	技能	目標に沿って計画したグループセッションと個人セッションを実施して記録を取ることができる。			△		
	関心・意欲・態度	施設実習において関連職種やスタッフと十分に連携を取り実践活動が行える。			◎		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	課題提出		30	10	-	-	40
	受講態度		-	-	-	50	50
	発表(グループ発表含む)		-	-	10	-	10
	合計(点)		30	10	10	50	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。 実習を終了して所定のレポートを提出することが単位の要件となります。						
ICT活用							
課題に対するフィードバック	授業内の課題については次の授業でコメントを返します。						
テキスト							
参考書・教材	授業内でプリントを配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	オリエンテーション、各実習施設の説明、希望施設の調査 [課題(予習、復習)]学んだ内容の復習、実習計画の作成(2H)						
2	実習記録の配布、記入方法の説明、実習生個人目標の設定 [課題(予習、復習)]学んだ内容の復習、実習計画の作成(2H)						
3	音楽療法セッションの準備1 グループセッションのため予備も含めて10曲×3セッションを目標に準備を行う。 [課題(復習)]セッションの準備、曲の練習(3H)						
4	音楽療法セッションの準備2 セッション計画を記入、担当教員と内容、治療目標との検討を個別に行う。 [課題(復習)]セッションの準備、曲の練習(3H)						
5	音楽療法セッションの準備3 譜面、楽器、歌詞幕なども準備を行う。 [課題(復習)]セッションの準備、曲の練習(3H)						
6	音楽療法セッションの準備4 先週に引き続きグループセッション3つ分の準備を行う。 個人セッションのアセスメントについて復習し、確認を行う。 [課題(復習)]セッションの準備、曲の練習(3H)						
7	実習前の心構え：倫理、服装、態度について 実習直前の準備を行う。 [課題(復習)]セッションの準備、曲の練習(3H)						
8	音楽療法コース臨床実習1週目 各施設に分かれて実習を行う。2週間でグループセッションと個人セッションをそれぞれ行う。 [課題(復習)]実習記録の記入(20H)						
9	音楽療法コース臨床実習2週目 各施設に分かれて実習を行う。2週間でグループセッションと個人セッションをそれぞれ行う。 [課題(復習)]実習記録の記入(20H)						
10	実習を終えて：振り返りと施設に向けてお礼状を作成する 実習記録ノートの整理 [課題(復習)]学んだ内容の復習(2H)						
11	個人セッション報告書の作成 担当した個人セッションの報告書を作成し、提出する。 [課題(復習)]学んだ内容の復習(2H)						
12	音楽療法士資格申請準備 これまでに取得した単位を計算して所定の用紙に下書きし、提出する。清書は担当教員が行う。 [課題(復習)]学んだ内容の復習(2H)						
13	1年生に向けた発表準備と計画 実習施設と音楽活動について1年生の授業にて発表するための準備を行う。 [課題(復習)]学んだ内容の復習(2H)						
14	実習のまとめ、振り返り [課題(復習)]学んだ内容の復習(2H)						
15	レポート課題の作成、提出 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1H)						



時間外での学修	実習に向けて時間外も含めて準備を進めてください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	各自課題を設定し、苦手なところを克服できるようにがんばりましょう。 オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。

【3W5S205】 ウィンドアンサンブルⅡA		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	選択	演習	60時間		
教員	鈴木 孝育・服部 篤典・野々垣 行恵・長尾 洪基						
資格・制限等	Wコース必修						
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ジャズ&ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、それぞれの様式や特徴、演奏方法を理解し、演奏表現力の向上を目指します。授業以外に、地域での依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、前後期2回ずつの小長谷宗一客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の強化練習を実施する予定です。						
実務家教員							
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。時に、課題による発表や筆記試験も実施します。楽曲に対する個々の解釈や意見については、学修ノートや授業での発信・発言に応えます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、オリジナル、クラシック、ジャズ&ポップス等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。	△				
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏する上での多角的な視野と判断能力を身につけることができる。	○				
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。また、パートや合奏隊の一員としてお互いのコミュニケーションを取ることができる。	◎				
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し、円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、地域の音楽活動に貢献できる演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。	○				
	備考	◎・○・△の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	10	50	-	60
	受講態度		-	-	-	10	10
	小テスト・提出物		10	10	-	10	30
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修記録ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(実技試験)の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(Googleフォーム、学生ポータル)						
課題に対するフィードバック	学修記録ノートは、毎時間集め、個々の課題や取り組み、成果と学びを確認し、質問にはコメントを返します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます。						
テキスト	その都度配布						
参考書・教材	楽譜等その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方、注意事項、授業の目標や学ぶ内容の概要を理解する。及び音楽鑑賞用(学外演奏用)楽曲配布、全体で譜読み、合奏。 [課題(準備・予習)]シラバスの熟読、音楽鑑賞用楽曲の譜読み、各自、楽器、衣装・譜面台・ファイル等配布物の整理。(2h~4h)						
2	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用(学外演奏用)楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題(復習・予習)]初見演奏省察。音楽鑑賞用(学外演奏用)楽曲の個人練習(特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
3	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用(学外演奏用)楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。 [課題(復習・予習)]初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
4	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用(学外演奏用)楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題(復習・予習)]初見演奏省察。音楽鑑賞用(学外演奏用)楽曲の個人練習(特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
5	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用(学外演奏用)楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。 [課題(復習・予習)]初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
6	初見演奏力養成合奏及び音楽鑑賞用(学外演奏用)楽曲仕上げ 定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 [課題(復習・予習)]初見演奏省察。音楽鑑賞用楽曲(学外演奏用)のまとめ。定期演奏会用楽曲の個人練習。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
7	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。リズム・テンポを中心に学修。 [課題(復習・予習)]初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように)。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
8	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲の個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
9	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・パート別演習、討議。 リズム・テンポを中心に学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
10	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・パート別演習、討議。ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題（復習・予習）] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
11	定期演奏会用楽曲配布・パート別演習、討議。リズム・テンポを中心に学修。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
12	定期演奏会用楽曲配布・パート別演習、討議。ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲の個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
13	定期演奏会用楽曲配布・全体で仕上げ、合奏。リズム・テンポを中心に学修。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習（特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
14	定期演奏会用楽曲配布・全体で仕上げ、合奏。ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題（復習・予習）] 定期演奏会用楽曲の個人練習（特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように）。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。（2h～4h）
15	前期実技試験指定曲の合奏及び、筆記試験、学修記録ノートの記入。 [課題（復習）] 試験指定曲の個人練習。筆記試験の確認、復習。（2h～4h）
時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前によく練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～60時間]
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。欠席や遅刻は、全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑がかかります。従って、出席に関しては合奏を目的とした授業の性格上厳しく取り扱います。オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【3W5S206】 ウィンドアンサンブルⅡB		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	選択	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育・服部 篤典						
資格・制限等	Wコース必修						
授業内容	ウィンドアンサンブルⅡAで学修した内容を発展させていきます。特に定期演奏会用の各楽曲について、作曲者、その他の代表的作品、ジャンルの特色、構成や特徴、時代背景、音楽用語等について調べ、発表します。また、基礎合奏にて長音階スケールや音程の取り方等を学修します。授業以外に、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、前後期に2回ずつの小長谷宗一客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の強化練習を実施する予定です。						
実務家教員							
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。楽曲に対する個々の解釈や意見については、学修ノートや授業での発信・発言に応えます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、オリジナル、クラシック、ジャズ&ポップス等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。	△				
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏する上での多角的な視野と判断能力を身につけることができる。	○				
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。長音階のスケールや正しい音程感覚をはじめとする演奏技術を身につける。	◎				
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。	○				
	備考	◎・○・△の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	10	50	-	60
	受講態度		-	-	-	10	10
	小テスト・提出物		10	10	-	10	30
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修記録ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(実技試験)の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援 (Googleフォーム、学生ポータル)						
課題に対するフィードバック	学修記録ノートは、毎時間集め、個々の課題や取り組み、成果と学びを確認し、質問にはコメントを返します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます。						
テキスト	その都度配布						
参考書・教材	楽譜等その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	パート内集団活動。パート練習の打ち合わせ、配布した音楽鑑賞(学外演奏)用楽曲をパートで譜読み。[課題(復習・発展)]音楽鑑賞(学外演奏)用楽曲の楽曲研究・調査及びできなかったところの復習、個人練習。学修記録ノートの記入。各個人の基礎力調査。(3h~5h)						
2	基礎力養成合奏 音楽鑑賞(学外演奏)用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題(復習・予習)]音楽鑑賞(学外演奏)用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。[特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように]基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。(2h~4h)						
3	音楽鑑賞(学外演奏)用楽曲の合奏 音楽鑑賞(学外演奏)用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)]音楽鑑賞(学外演奏)用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。[特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように]学修記録ノートの記入。(2h~4h)						
4	基礎力養成合奏 音楽鑑賞(学外演奏)用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題(復習・予習)]音楽鑑賞(学外演奏)用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。[特にテンポ、表現記号等に注意して楽譜通り吹けるように]基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。(2h~4h)						
5	音楽鑑賞(学外演奏)用楽曲の合奏 音楽鑑賞(学外演奏)用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)]音楽鑑賞(学外演奏)用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。[特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように]学修記録ノートの記入。(2h~4h)						
6	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題(復習・予習)]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。[特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように]基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。(2h~4h)						
7	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。[特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように]学修記録ノートの記入。(2h~4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
8	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。 〔特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように〕基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
9	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。 〔特にテンポ、表現記号等に注意して楽譜通り吹けるように〕学修記録ノートの記入。（2h～4h）
10	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。 〔特にテンポ、表現記号等に注意して楽譜通り吹けるように〕基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
11	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。 〔特にテンポ、表現記号等に注意して楽譜通り吹けるように〕学修記録ノートの記入。（2h～4h）
12	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。 〔特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように〕基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
13	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。 〔特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように〕学修記録ノートの記入。（2h～4h）
14	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、個人練習。 〔特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように〕基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
15	前期実技試験指定曲の合奏、学修記録ノートの記入。 [課題（復習）]試験指定の個人練習（2h～4h）
時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前にしっかりと練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。〔この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45～75時間〕
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。音楽の多角的なとらえ方を学ぶために「答えはひとつだけではない」という柔軟な発想を持ってください。出席に関しては合奏を目的とした授業の性格上厳しく取り扱います。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【3W5A207】 ウインドアンサンブルⅡC		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	選択	演習	60時間		
教員	鈴木 孝育・服部 篤典・長尾 洪基・野々垣 行恵						
資格・制限等	Wコース必修						
授業内容	吹奏楽オリジナル作品の他、クラシックアレンジ作品、ジャズ&ポップスに至るまで、様々なジャンルの曲を取り上げ、それぞれの様式や特徴、演奏方法を理解し、演奏表現力の向上を目指します。授業以外に、地域での依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、後期2回の小長谷宗一客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の強化練習を実施する予定です。						
実務家教員							
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。時に、課題による発表や筆記試験も実施します。楽曲に対する個々の解釈や意見については、学修ノートや授業での発信・発言に応えます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、オリジナル、クラシック、ジャズ&ポップス等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。	△				
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏する上での多角的な視野と判断能力を身につけることができる。	○				
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。また、パートや合奏隊の一員としてお互いのコミュニケーションを取ることができる。	◎				
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、地域の音楽活動に貢献できる演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。	○				
	備考	◎・○・△の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	10	50	-	60
	受講態度		-	-	-	10	10
	小テスト・提出物		10	10	-	10	30
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修記録ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(実技試験)の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援(Googleフォーム、学生ポータル)						
課題に対するフィードバック	学修記録ノートは、毎時間集め、個々の課題や取り組み、成果と学びを確認し、質問にはコメントを返します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次の授業で発表し、全員で共有し取り組みます。						
テキスト	その都度配布						
参考書・教材	楽譜等その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題(復習・予習)] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲の個人練習(特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように)。 指摘のあった箇所を反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
2	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。 [課題(復習・予習)] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように)。 指摘のあった箇所を反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
3	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題(復習・予習)] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲の個人練習(特にハーモニー・音程の取り方の理解を深めるように)。 指摘のあった箇所を反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
4	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。 [課題(復習・予習)] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように)。 指摘のあった箇所を反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
5	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲仕上げ [課題(復習・予習)] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のまとめ、苦手箇所の個人練習。指摘のあった箇所の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
6	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。 [課題(復習・予習)] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特にテンポの変化にも対応できるように)。 指摘のあった箇所を反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						
7	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題(復習・予習)] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲の個人練習(特に他のパートとの調和を考えながら)。 指摘のあった箇所を反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
8	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲についてパート別演習・討議。 楽譜通り正確に演奏できるよう、リズム・テンポを中心に学修。 [課題(復習・予習)] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のパート別演習の復習、個人練習(特にテンポの変化にも対応できるように)。 指摘のあった箇所(箇所)の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)
9	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲配布・全体で譜読み、合奏。 ハーモニー・音程の取り方を中心に学修。 [課題(復習・予習)] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲の個人練習(特に他のパートとの調和を考えながら)。 指摘のあった箇所(箇所)の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)
10	初見演奏力養成合奏及び定期演奏会用楽曲仕上げ [課題(復習・予習)] 初見演奏省察。定期演奏会用楽曲のまとめ、苦手箇所(箇所)の個人練習。指摘のあった箇所(箇所)の反復練習及び、個々の課題に取り組む。(2h~4h)
11	定期演奏会用楽曲(全曲)の合奏。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲(全曲)について、特にハーモニーや音程の正確性を高めながら、個人の譜読みを完成させる。指摘のあった箇所(箇所)の反復練習。(2h~4h)
12	定期演奏会用楽曲(全曲)の合奏。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲(全曲)について、特に表現記号、ダイナミクスの変化に注意しながら、個人の譜読みを完成させる。指摘のあった箇所(箇所)の反復練習。(2h~4h)
13	定期演奏会用楽曲(全曲)の合奏。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲(全曲)について、特に旋律部分、伴奏部分の音楽の違いに注意しながら、個人の譜読みを完成させる。指摘のあった箇所(箇所)の反復練習。(2h~4h)
14	定期演奏会用楽曲(全曲)の合奏。 [課題(復習・予習)] 定期演奏会用楽曲(全曲)について、特に時代背景や表現記号を反映させ、自分なりの音楽を考えながら、個人の譜読みを完成させる。指摘のあった箇所(箇所)の反復練習。(2h~4h)
15	後期実技試験指定曲の合奏及び、筆記試験、学修記録ノートの記入。 [課題(復習)] 試験指定曲の個人練習。筆記試験の確認、復習。(2h~4h)
時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前にしっかりと練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30~60時間]
受講学生へのメッセージ	音楽の多角的なとらえ方を学ぶために、「一つだけの答えではない」柔軟な発想を持つようにしましょう。授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組んでください。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【3W5A208】 ウィンドアンサンブルⅡD		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	選択	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育・服部 篤典						
資格・制限等	Wコース必修						
授業内容	ウィンドアンサンブルⅡCで学修した内容を発展させていきます。特に定期演奏会用の各楽曲について、作曲家、その他の代表的作品、ジャンルの特色、構成や特徴、時代背景、音楽用語等について調べ、発表します。また、基礎合奏にて短音階スケールや音程の取り方等を学修します。授業以外に、依頼演奏や定期演奏会で実践力を磨きます。なお、依頼演奏の関係で授業内容は、変更になることがあります。また、後期に2回の小長谷宗一客員教授による特別講義や定期演奏会前に数日間の強化練習を実施する予定です。						
実務家教員							
授業方法	吹奏楽の合奏が中心で、そのほかにセクション別演習やパート別演習などの集団活動を行います。楽曲に対する個々の解釈や意見については、学修ノートや授業での発信・発言に応えます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽合奏に必要な楽語・用語を学び、クラシック、ジャズ、ポピュラー等、それぞれのジャンルの様式や特徴、歴史や背景を理解し、聞く人に伝わる演奏ができる。			△		
	思考・判断・表現	吹奏楽という多様な楽器編成や、様々なジャンルの楽曲に取り組むことで、楽器を演奏する上での多角的な視野と判断能力を身につけることができる。			○		
	技能	楽譜通りに演奏できることはもちろん指揮者の音楽性を理解し、要求に合った演奏ができる。短音階のスケールや正しい音程感覚をはじめとする演奏技術を身につける。			◎		
	関心・意欲・態度	個人練習のみならず、パート練習、セクション練習等を積極的に学生同士で練習方法等を研究し円滑に練習を進めることができる。豊かな感性と表現力を養い、理想の演奏者にむかって、研鑽に努める事ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	10	50	-	60
	受講態度		-	-	-	10	10
	小テスト・提出物		10	10	-	10	30
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	受講態度は、学修記録ノートを中心に受講姿勢を含めて総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験(実技試験)の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援 (Googleフォーム、学生ポータル)						
課題に対するフィードバック	学修記録ノートは、毎時間集め、個々の課題や取り組み、成果と学びを確認し、質問にはコメントを返します。また、全員に共通の課題と判断されるものについては、次回の授業で発表し、全員で共有し取り組みます。						
テキスト	その都度配布						
参考書・教材	楽譜等その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題(復習・予習)]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように個人練習。基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。(2h~4h)						
2	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように個人練習。学修記録ノートの記入。(2h~4h)						
3	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題(復習・予習)]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように個人練習。基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。(2h~4h)						
4	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように個人練習。学修記録ノートの記入。(2h~4h)						
5	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題(復習・予習)]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように個人練習。基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。(2h~4h)						
6	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題(復習・予習)]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特に音や、リズムを正確に楽譜通り吹けるように個人練習。学修記録ノートの記入。(2h~4h)						
7	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題(復習・予習)]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特にテンポ、表現記号等に注意して楽譜通り吹けるように個人練習。基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。(2h~4h)						



内容	
実施回	授業内容・目標
8	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特にテンポ、表現記号等に注意して楽譜通り吹けるように個人練習。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
9	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特にテンポ、表現記号等に注意して楽譜通り吹けるように個人練習。基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
10	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特にテンポ、表現記号等に注意して楽譜通り吹けるように個人練習。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
11	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように個人練習。基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
12	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように個人練習。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
13	基礎力養成合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習・討議。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように個人練習。基礎演奏力について個々の課題に取り組む。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
14	定期演奏会用楽曲の合奏 定期演奏会用楽曲の研究・調査・発表。またはパート別、セクション別演習。 [課題（復習・予習）]定期演奏会用楽曲の楽曲研究・調査及び出来なかったところの復習、特にダイナミクス、曲想等に注意して楽譜通り吹けるように個人練習。学修記録ノートの記入。（2h～4h）
15	後期実技試験指定曲の合奏、学修記録ノートの記入。 [課題（復習）]試験指定の個人練習（2h～4h）
時間外での学修	各自に与えられた楽譜を事前にしっかりと練習して授業に臨んでください。必要に応じて、パート練習、セクション練習等を行ってください。また、楽曲についての研究・調査を図書館やインターネットを利用して行って下さい。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：45～75時間]
受講学生へのメッセージ	まずは、個々が譜面に正確な演奏を心掛けてください。パート内で精密な合わせをし、その上で他パートの動きなどを理解し、合奏力の向上を目指してください。音楽の多角的なとらえ方を学ぶために「答えはひとつだけではない」という柔軟な発想を持ってください。出席に関しては合奏を目的とした授業の性格上厳しく取り扱います。 オフィスアワーは、授業前後の休み時間に教室で行います。

【3W5S211】吹奏楽指導法 I		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育						
資格・制限等	Wコース必修						
授業内容	木管楽器、金管楽器の特性や指導法、吹奏楽における歴史や楽器編成の変遷について学び、卒業後、生涯教育としての吹奏楽の指導に携われるように準備します。まず、木管楽器、金管楽器の特性について学修した後、それぞれの楽器の指導法について調査研究し、ディスカッションを行います。次に、吹奏楽の歴史については、管楽器の歴史と管楽器の発展に影響を与えた作曲家を中心に音楽史全般と絡めながら学んでいきます。						
実務家教員	吹奏楽指導者（含 高等学校教員）35年						
授業方法	吹奏楽指導における必要な総合的な知識を講義によって学びます。木管楽器、金管楽器の特性について講義をし、指導法について調査・研究発表の後、互いに討議をします。また、吹奏楽の歴史や、楽器編成の変遷、基礎練習の方法については、視聴覚教材を使ったり、実際の演奏で体験したりして学びます。						
到達目標	知識・理解	吹奏楽の編成や成り立ちや、管楽器を指導するための基本的な知識が理解できる。			◎		
	思考・判断・表現	吹奏楽の楽器編成や各楽器の練習法を理解し、そのバンドにふさわしい指導法を選択できる。自分の考えや、音楽性を相手に伝えることができる。			◎		
	技能	木管楽器、金管楽器の特性や練習方法を学び、小・中・高という学校教育や、職場や一般の社会教育の場でそれぞれの環境やレベルに合わせて指導ができる。			○		
	関心・意欲・態度	学修内容において自発的な問題提起、実践、改善、解決ができ、地域の音楽文化をリードする人材となるよう努力することができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	20	10	-	60
	指導発表・課題提出・受講態度		10	10	10	10	40
	合計(点)		40	30	20	10	100
評価の特記事項	指導発表・課題提出・受講態度においては、発表状況や取り組み姿勢なども考慮し、総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（筆記試験）の受験資格はありません。						
ICT活用	学生ポータル等でICTを活用した自主学習支援を行います。						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、毎回授業の冒頭に復習小テスト及び解説を行います。						
テキスト	なし						
参考書・教材	その都度指示または配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方、授業内容、一年間の流れ。指導者としての心構え。 〔課題（復習・準備）〕指導者としての心構えについて復習する。自分と吹奏楽の関わりについて作文を書き、発表の準備をする。（1～2h）						
2	課題「吹奏楽と私」について発表及び討議。考察と指導。 「木管楽器、金管楽器の指導法」についての調査・研究対象の割り振り。 〔課題（復習）〕他者の吹奏楽との関わりについて復習する。各担当楽器の指導法を調査・研究し、プレゼンテーションするための資料を作成し、発表の準備をする。（1～2h）						
3	木管楽器と金管楽器、打楽器の響き 〔課題（復習）〕各楽器の音色的特徴と運動性や表現力の違いについて理解する。各担当楽器の指導法を調査・研究し、プレゼンテーションするための資料を作成し、発表の準備をする。（1～2h）						
4	管楽器の指導法プレゼンテーション① 発表及びディスカッション。 〔課題（復習）〕各発表を振り返り、自分が担当した以外の楽器についての指導法をまとめ、自分の専攻楽器の指導法確立に活かす。（1～2h）						
5	管楽器の指導法プレゼンテーション② 発表及びディスカッション。 〔課題（復習）〕各発表を振り返り、自分が担当した以外の楽器についての指導法をまとめ、自分の専攻楽器の指導法確立に活かす。（1～2h）						
6	管楽器まとめ：各楽器の響き、音域、役割。特殊奏法や弱音器。 〔課題（復習）〕各楽器特有の音色や技巧の違いについて理解する。代表的な特殊奏法や弱音器の種類について理解する。（1～2h）						
7	クラシックパーカッション、マーチングパーカッション、ポップスパーカッション 〔課題（復習）〕各打楽器の一般的な知識や音色の違いについて理解する。（1～2h）						
8	吹奏楽の歴史、楽器編成の変遷、種類と形態 〔課題（復習）〕吹奏楽の歴史、楽器編成の変遷、基礎理論や、種類・形態について復習し、大編成、中編成、小編成について個々に理想の編成を組んでみる（課題）。（1～2h）						
9	課題（理想の編成）の発表・考察。 吹奏楽の歴史と影響を与えた作曲家たち① 中世・ルネッサンス音楽、バロック音楽 〔課題（復習・準備）〕各作曲家が、吹奏楽の発展や、管楽器の使用についてどのような貢献・寄与があったのか復習し考察する。（1～2h）						
10	吹奏楽の歴史と影響を与えた作曲家たち② 古典派音楽、ロマン派音楽 〔課題（復習・準備）〕各作曲家が、吹奏楽の発展や、管楽器の使用についてどのような貢献・寄与があったのか復習し考察する。（1～2h）						
11	吹奏楽の歴史と影響を与えた作曲家たち③ 近代音楽、印象派音楽 〔課題（復習・準備）〕各作曲家が、吹奏楽の発展や、管楽器の使用についてどのような貢献・寄与があったのか復習し考察する。（1～2h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
12	吹奏楽の歴史と影響を与えた作曲家たち④ 国民学派音楽、原始主義音楽、表現主義音楽 [課題(復習・準備)] 各作曲家が、吹奏楽の発展や、管楽器の使用についてどのような貢献・寄与があったのか復習し考察する。(1~2h)
13	吹奏楽の歴史と影響を与えた作曲家たち⑤ 新古典主義音楽、民族的新古典主義 [課題(復習・準備)] 各作曲家が、吹奏楽の発展や、管楽器の使用についてどのような貢献・寄与があったのか復習し考察する。(1~2h)
14	吹奏楽の歴史と影響を与えた作曲家たち⑥ 近代その他、現代の音楽 [課題(復習・準備)] 各作曲家が、吹奏楽の発展や、管楽器の使用についてどのような貢献・寄与があったのか復習し考察する。(1~2h)
15	前期の総まとめ、夏休みに向けての課題指示。 [課題(復習)] 前期を振り返り、吹奏楽の歴史と楽器編成の変遷、管楽器の歴史と影響を与えた作曲家たちについてまとめる。夏休み課題:「吹奏楽における基礎練習(個人・パート・合奏)」についての研究(1~2h)
時間外での学修	管楽器の歴史や発展と作曲家の関係や、吹奏楽の歴史・楽器編成の変遷等を学び、吹奏楽の概要を理解しましょう。また、指導対象を具体的にシミュレーションすることによって、指導の幅が広がります。想像力を豊かにしましょう。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:23時間]
受講学生へのメッセージ	日頃から、吹奏楽だけでなく、音楽全般について注意を向けることによって、吹奏楽に対する深い理解と、愛着を養い、それが指導に大きく役立ちます。ジャンルにとらわれることなく、貪欲に学修していきましょう。オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【3W5A212】吹奏楽指導法Ⅱ		音楽総合学科		2年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	鈴木 孝育					
資格・制限等	Wコース必修					
授業内容	後期は、最初に呼吸法や基礎練習について学びます。次の合奏の基礎では、音符やフレーズの捉え方、スコアの読み方や、メモの取り方、指揮法などを身につけます。最後の合奏指導の実践では、それらの知識や技術を元に、マーチから、オリジナル曲、ジャズ&ポップスの演奏法を学修します。卒業後、様々な場面において、生涯教育としての吹奏楽の指導に携われるように準備します。					
実務家教員	吹奏楽指導者（含 高等学校教員）35年					
授業方法	吹奏楽指導における必要な総合的な知識を講義によって学びます。合奏指導法、指揮法、楽曲指導法や楽曲分析方法などについて、視聴覚教材を使ったり、個人の課題研究発表をなどを通じて学びます。					
到達目標	知識・理解	吹奏楽指導の現場において、吹奏楽譜を演奏するための総合的な知識やテクニックを身につけ、理解することができる。			◎	
	思考・判断・表現	様々なジャンルの楽曲の特性や様式を理解し、その楽曲にふさわしい指導法を選択できる。自分の考え方、音楽性を相手に伝えることができる。			◎	
	技能	合奏、分奏、パート練習、個人練習における練習方法を学び、小・中・高という学校教育や、職場や一般の社会教育の場でそれぞれの環境やレベルに合わせて指導ができる。			○	
	関心・意欲・態度	学修内容に自発的な問題提起、実践、改善、解決ができ、地域の音楽文化をリードする人材となるよう努力することができる。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	40	30	-	-	70
	課題提出・受講態度	-	-	20	10	30
	合計(点)	40	30	20	10	100
評価の特記事項	課題提出・受講態度においては、課題や授業の取り組み姿勢なども考慮し、総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（筆記試験）の受験資格はありません。					
ICT活用	学生ポータル等でICTを活用した自主学習支援を行います。					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、毎回授業の冒頭に復習小テスト及び解説を行います。					
テキスト	なし					
参考書・教材	その都度指示または配布					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	後期ガイダンス、指揮台に立つ前の準備。 吹奏楽における基礎練習① 個人の基礎練習 【課題（準備・復習）】シラバスの熟読。学修した奏法チェックを確認。ロングトーンの実践。タンギングの確認。メトロノーム・チューナーの使い方の確認。フィンガリングの有効な練習法の実践。（1～2h）					
2	吹奏楽における基礎練習② 呼吸法 【課題（復習）】プレスロードを確認し、プレストレーニングの復習。タンギングと縦の響きを復習し、NaNoNuNoNaを歌って口腔内のフォームを確認する。（1～2h）					
3	吹奏楽における基礎練習③ 合奏基礎講座。チューニング方法、実践プレステクニック。 【課題（復習・発展）】課題プリントの整理、復習。チューニング方法、プレステクニックの実践と考察。（1～2h）					
4	合奏指導の基礎① 音符の扱い方や音楽の進め方、音符の性格、音楽用語の正しい把握。 【課題（復習・発展）】課題プリントの整理、復習。音符の扱い方、音符の性格、フレージングのとらえ方について考察、協議する。（1～2h）					
5	合奏指導の基礎② フレーズとグルーピングについて、フレーズに求められる必然性。 【課題（復習・発展）】課題プリントの整理、復習。スコアと音源から、フレーズとグルーピングについて考察・協議する。（1～2h）					
6	合奏指導の基礎③ 重心になり得る音符の要因、グループを見分けるための音符群の特徴 【課題（復習・発展）】課題プリントの整理、復習。重心やグループについて楽曲から指摘する練習をする。（1～2h）					
7	合奏指導の基礎④ スコアリーディング 【課題（復習）】講義内容について、十分に理解できるまで、参考資料を読み込む。（1～2h）					
8	合奏指導の基礎⑤ スコアのメモの取り方 【課題（復習・発展）】講義で取り扱ったスコアの整理、復習。課題スコアでの実践練習。（1～2h）					
9	合奏指導の基礎⑥ 指揮法（1） 指揮法の基本（基本知識、基本動作） 【課題（復習）】指揮の基本技術について、講義内容、参考資料をもとに理解できるまで鏡を見て反復復習をする。（1～2h）					
10	合奏指導の基礎⑦ 指揮法（2） わかりやすい指揮法Ⅰ ～基礎と実践～ 【課題（復習）】講義内容をもとに、十分に理解できるまで、参考資料を読み込む。（1～2h）					
11	合奏指導の実践① マーチ「世界のマーチ」、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス 【課題（復習）】マーチの演奏法について復習し、各国のマーチのスタイルや演奏法を比較し理解する。（課題プリント配布）。（1～2h）					
12	合奏指導の実践② オリジナル「ホルスト 吹奏楽のための組曲」 【課題（復習）】オリジナル楽曲の演奏法について復習し、その特徴や様式を理解する。（課題プリント配布）。（1～2h）					
13	合奏指導の実践③ ジャズ&ポップス（1）メロディーの味つけ、独特な奏法 【課題（復習）】ジャズやポップスのメロディーの吹き方について、各リズムによる演奏の違いや、独特の演奏方法を理解する。（1～2h）					

内容	
実施回	授業内容・目標
14	合奏指導の実践④ ジャズ&ポップス(2) ジャズ系のリズム、ラテン系のリズム [課題(復習)] リズムの種類による使用楽器の違いや、各リズムのパターンについて学修内容を復習する。(1~2h)
15	一年間の総まとめ、実際の合奏指導にむけての心構え。 [課題(復習・発展)] 一年間の学修内容の総括。吹奏楽における指導全般についてまとめる。(1~2h)
時間外での学修	楽曲を指導するにあたり、スコアについては、吹奏楽に関する基礎的な知識をもとにした詳細な読み取りが必要です。1年次に学修した「吹奏楽理論Ⅰ・Ⅱ」の内容をしっかり復習しておきましょう。また、ここで学んだ内容を定期演奏会につなげるにより、より学修内容が定着し、知識は深まり、実際の演奏会における達成感を味わうことができます。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：23時間]
受講学生へのメッセージ	日頃から、音楽の仕組みや合奏隊やアンサンブルの音のブレンドや各楽器個々の音色や特徴に注意を向けることによって、吹奏楽に対する深い理解と、愛着を養い、それが指導に大きく役立ちます。オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【3R6S307】リペア応用(木管Ⅰ)A		音楽総合学科		2年前期		
		1単位	必修	実技	45時間	
教員	河本 幾乃					
資格・制限等	Rコース必修					
授業内容	1年次に学修した基礎技術を発展させ、より高度な技能を身に付ける事で、効率の良い作業方法を考える。また、完成度についても精度アップを図る。					
実務家教員	河本：楽器店販売修理職・10年					
授業方法	実技が主になりますが、個々の改善点をクリア化してスキルアップを行って行きます。場合によっては、グループ化して手法等についてのディスカッションの場を設ける事もあります。主要メーカーによる特別講義を数回実施しますので、幅広い商品知識、メーカー独自のリペア技術や使用工具について学修します。					
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組みや構造を理解し、的確なリペアが出来る。			△	
	思考・判断・表現	各木管楽器管楽器の状態把握後、リペアが必要箇所を見つけ解決方法を判断できる。			○	
	技能	各木管楽器管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技術で問題解決できる。			◎	
	関心・意欲・態度	楽器に関する興味や関心を持ち、自らが率先して学修することが出来る。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP/到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	筆記試験	10	-	-	-	10
	実技試験	-	20	50	-	70
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	10	20	50	20	100
評価の特記事項	全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。					
ICT活用	学生ポータル等で、ICTを活用した自主学習支援を行います。					
課題に対するフィードバック	授業毎に、学生から挙手を仰ぎ、完成度についてや分からないで悩んでいる作業についてフィードバックをします。					
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下』 1年次に購入したものを使用します。					
参考書・教材	必要資料等は、授業毎に配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
第1回	クラリネット応用実習 タンポ交換・合わせ 【課題・(復習・他)】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容について復習する。(3h)					
第2回	クラリネット応用実習 全体バランス調整・軟物交換 【課題・(復習・他)】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容について復習する。(3h)					
第3回	クラリネット応用実習 管体割れ修正 【課題・(復習・他)】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容について復習する。(3h)					
第4回	クラリネット応用実習 セリ・ガタの修正方法について 【課題・(復習・他)】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容について復習する。(3h~5h)					
第5回	フルート応用実習 タンポ交換・合わせ 【課題・(復習・他)】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容について復習する。(3h~5h)					
第6回	フルート応用実習 全体バランス調整・軟物交換 【課題・(復習・他)】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容について復習する。(3h~5h)					
第7回	フルート応用実習 全体調整(アソビの取り方、開き等) 【課題・(復習・他)】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容について復習する。(3h~5h)					
第8回	サクソフォン応用実習 タンポ交換・合わせ 【課題・(復習・他)】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容について復習する。(3h~5h)					
第9回	サクソフォン応用実習 ベル=1番管脱着 【課題・(復習・他)】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容について復習する。(3h~5h)					
第10回	サクソフォン応用実習 ベル=1番管組み立て、キイバランス調整(タンポ合わせ) 【課題・(復習・他)】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容について復習する。(3h~5h)					
第11回	サクソフォン応用実習 ネックコルク交換調整 【課題・(復習・他)】1年次に学んだ技術を復習しながら、今日学修した内容について復習する。(3h~5h)					
第12回	主要メーカー特別講義 課題・(復習・他)】商品知識や、メーカー独自のリペア手法について復習する(3h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
第13回	木管楽器総合実習① スワブ詰まり除去等 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）
第14回	木管楽器総合実習② フルートノックピン抜き 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）
第15回	木管楽器総合実習③ フルートジョイント部嵌合調整 【課題（復習・他）】
時間外での学修	技能の反復練習は重要です。繰り返し行うことで、新しい発見もありますので、意欲を持って臨んでください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】
受講学生へのメッセージ	自分の将来を見据えて、今やるべきことを十分に理解し、更なるレベルアップを目指してください。 オフィスアワーは、毎週月曜日授業終了後にF101で行います。

【3R6A308】リペア応用(木管Ⅰ)B		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	必修	実技	45時間		
教員	渡辺 博夫						
資格・制限等	Rコース必修						
授業内容	前期で学修した技能を更に発展させ、より高度な技術力を身に付け、作業時間短縮の効率化を図るために、手法の見直しや改善を考える。また、経験値の無い状態に接する場合、躊躇せず、学修したことを思い出して、どうしたら良いかを考え実践する。(失敗を恐れない様に)						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年						
授業方法	実技中心で進めますが、廃棄楽器等の日常的に楽器店等で対応している楽器のリペアも取り入れていきます。また、特別講義として、メーカーによる商品研修及び、メーカー独自のリペア技術を学びます。						
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組みや構造を理解し、的確なリペアが出来る。			△		
	思考・判断・表現	各木管楽器の状態を把握し、必要と思われるリペア箇所を見つけ解決方法を判断する。			○		
	技能	各木管楽器の状態を把握し、必要と思われるリペア箇所を自らの技能で問題解決が出来る。			◎		
	関心・意欲・態度	楽器に関する興味や関心を日頃から持ち続け、自らが率先して学修する事が出来る。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。						
ICT活用	学生ポータル等でICTを活用した自主学習支援を行います。						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、理解度確認は授業内で挙手をさせ、一人一人に状態を説明し、作業で悪化してしまったものについては、講師が変わって手直しをし、どうしてこうなったのかを説明し、同じミスを繰り返さないよう説明する。						
テキスト							
参考書・教材	1年次に購入した「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」(上・下) 各社カタログ、必要資料は授業毎に配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
第1回	木管楽器応用実習① レジスターチューブ脱着、拇指音孔脱着 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第2回	木管楽器応用実習② レジスターチューブ脱着、拇指音孔脱着 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第3回	木管楽器応用実習③ ガタ修正でスウェーピングが出来ない箇所の修正方法 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第4回	木管楽器応用実習④ ガタ修正でスウェーピングが出来ない箇所の修正方法 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第5回	木管楽器応用実習④ ガタ修正でスウェーピングが出来ない箇所の修正方法 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第6回	木管楽器応用実習⑤ 音孔修正について 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第7回	木管楽器応用実習⑤ 音孔修正について 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h) h)						
第8回	木管楽器応用実習⑥ 板バネ曲げについて 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第9回	木管楽器応用実習⑥ 板バネ曲げについて 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第10回	木管楽器応用実習⑦ キイ(カップ)の位置修正 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第11回	木管楽器応用実習⑦ キイ(カップ)の位置修正 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第12回	木管楽器応用実習⑧ 音孔内部汚れ等除去方法 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)						
第13回	木管楽器応用実習⑧ 老朽化した木管楽器の全体調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)						



内容	
実施回	授業内容・目標
第14回	木管楽器応用実習⑧ 老朽化した木管楽器の全体調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）
第15回	木管楽器応用実習⑧ 老朽化した木管楽器の全体調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）
時間外での学修	苦手意識を無くし、確実性を目指してください。多くの技術者の作業方法や使用工具を理解することで、自分のスタイルを確立してください。 【この科目で求める望ましい総学修時間：30時間】
受講学生へのメッセージ	リペア技術以外で、セールスエンジニアとしての知識やマナー等を身に付けて、人間性を向上させて下さい。オフィスアワーは、毎週金曜日10：40～12：10 それ以外の空時間でも構いませんがB304（B号館3F）に気軽に来てください。

【3R6S309】リペア応用(木管Ⅱ)A		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	実技	90時間		
教員	渡辺 博夫・河本 幾乃						
資格・制限等	Rコース必修						
授業内容	1年次に学修した基礎技術を発展させ、より高度な技能を身に付け、効率の良い作業方法を確立する。また、完成品について更なる精度アップを図る。卒業後の実践的な技能習得を目指します。木管楽器全般の知識向上も図ります。						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年 河本：楽器店修理販売職・10年						
授業方法	実技が主になりますが、個々の苦手意識克服を行い、実践的に老朽化した楽器の状態を理解し、自らが対処できる技能を身に付けます。また、各メーカーによる特別講義を行い、商品知識や、メーカー独自のリペア方法や使用工具についても学修します。						
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組みや構造を理解し、的確なリペア技術が出来る。			△		
	思考・判断・表現	各木管楽器の状態把握後、リペア箇所を見つけ解決方法を判断できる。			○		
	技能	各木管楽器の状態把握後、リペア箇所を見つけ自らの技術で解決できる。			◎		
	関心・意欲・態度	楽器に関する興味や関心を持ち、自らが率先して学修することが出来る。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。						
ICT活用	学生ポータル等で、ICTを活用した自主学習支援を行います。						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、理解度確認は授業内で挙手をさせ、一人一人に状態を説明し、作業で悪化してしまったものについては、講師が変わって手直しをし、どうしてこうなったのかを説明し、同じミスを繰り返さないよう説明する。						
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下』 1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	必要資料は、授業毎に配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
第1回	木管楽器（クラリネット）：タンポ交換時のラック量の適正化。 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）						
第2回	木管楽器（クラリネット）：タンポ交換時のラック量の適正化。 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第3回	木管楽器（クラリネット）：カップの皿ズレ 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第4回	木管楽器（フルート）：タンポ合わせについて（復習） 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第5回	木管楽器（フルート）：タンポ合わせに、連絡バランス、軟物交換 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第6回	木管楽器（フルート）：タンポ合わせ、連絡バランス、軟物交換 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第7回	木管楽器（サクソフォン）：タンポ合わせ（復習） 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第8回	木管楽器（サクソフォン）：タンポ合わせ、連絡バランス、軟物交換 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第9回	木管楽器（サクソフォン）：ベル=1番管脱着、組み立て調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第10回	メーカーによる特別講義 商品研修、メーカー独自のリペア方法や使用工具について解説 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第11回	木管楽器応用実習：日頃起こりやすいトラブル、対処法 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第12回	木管楽器応用実習：日頃起こりやすいトラブル、対処法 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第13回	木管楽器応用実習：日頃起こりやすいトラブル、対処法 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第14回	木管楽器応用実習：日頃起こりやすいトラブル、対処法 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第15回	木管楽器応用実習：日頃起こりやすいトラブル、対処法 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
時間外での学修	苦手意識を無くし、確実性を目指してください。多くの技術者の作業方法や使用工具を理解することで、自分のスタイルを確立してください。 【この科目で求める望ましい総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	リペア技術を軸としたセールスエンジニアを目指しますが、人間性も重要ですので、日頃から意識付けを行ってください。オフィスアワーは、毎週金曜日10：40～12：10、それ以外の時間でも、B304（B号館3階）に気軽に来てください。						

【3R6A310】リペア応用(木管Ⅱ)B		音楽総合学科		2年後期		
		2単位	必修	実技	90時間	
教員	渡辺 博夫・河本 幾乃					
資格・制限等	Rコース必修					
授業内容	前期で学修した技能を更に発展させ、より高度な技術力を身に付け、作業時間短縮の効率化を図るために、手法の見直しや改善を考える。また、経験値の無い状態に接する場合、躊躇せず、学修したことを思い出して、どうしたら良いかを考え実践する。(失敗を恐れない様に)					
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年 河本：楽器店修理販売職・10年					
授業方法	実技中心で進めますが、廃棄楽器等の日常的に楽器店等では対応している楽器のリペアも取り入れていきます。また、特別講義として、メーカーによる商品研修及び、メーカー独自のリペア技術を学びます。					
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組みや構造を理解し、的確なリペアが出来る。			△	
	思考・判断・表現	各木管楽器の状態を把握し、必要と思われるリペア箇所を見つけ解決方法を判断する。			○	
	技能	各木管楽器の状態を把握し、必要と思われるリペア箇所を自らの技術力で問題解決が出来る。			◎	
	関心・意欲・態度	楽器に関する興味や関心を日頃から持ち続け、自らが率先して学修することが出来る。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	10	-	-	-	10
	実技試験	-	20	50	-	70
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	10	20	50	20	100
評価の特記事項	全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。					
ICT活用	学生ポータル等で、ICTを活用した自主学習支援を行います。					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、理解度確認は授業内で挙手をさせ、一人一人に状態を説明し、作業で悪化してしまったものについては、講師が変わって手直しをし、どうしてこうなったのかを説明し、同じミスを繰り返さないよう説明する。					
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下』 1年次に購入したものを使用します					
参考書・教材	必要資料は授業毎に配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
第1回	木管楽器CL：音孔処理について 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）					
第2回	木管楽器CL：音孔処理について 欠けの修正法について 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）					
第3回	木管楽器全般：錆付いた芯金への対応① 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）					
第4回	木管楽器全般：錆付いた芯金への対応① 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）					
第5回	メーカーによる特別講義 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）					
第6回	木管楽器（サクソフォン）：指貝の交換方法 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）					
第7回	木管楽器（フルート）：管体の反り修正 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）					
第8回	木管楽器全般：老朽化した木管楽器の修正方法について 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）					
第9回	木管楽器全般：老朽化した木管楽器の修正方法について 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）					
第10回	木管楽器全般：老朽化した木管楽器の修正方法について 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）					
第11回	木管楽器全般：老朽化した木管楽器の修正方法について 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）					
第12回	木管楽器全般：老朽化した木管楽器の修正方法について 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）					
第13回	木管楽器全般：老朽化した木管楽器の修正方法について 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）					
第14回	木管楽器全般：老朽化した木管楽器の修正方法について 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）					
第15回	木管楽器全般：老朽化した木管楽器の修正方法について 【課題・（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）					
時間外での学修	苦手意識を無くし、確実性を目指してください。多くの技術者の作業方法や使用工具を理解することで、自分のスタイルを確立してください。 【この科目で求める望ましい総学修時間：30時間】					
受講学生へのメッセージ	リペア技術を軸としたセールスエンジニアを目指しますが、人間性も重要ですので、日頃から意識付けを行って下さい。オフィスアワーは、毎週金曜日10：40～12：10、それ以外の時間でも、B304（B号館3階）に気軽に来てください。					

【3R6S311】リペア応用(金管Ⅰ)A		音楽総合学科		2年前期			
		3単位	必修	実技	120時間		
教員	河本 幾乃						
資格・制限等	Rコース必修						
授業内容	1年次に学修した基礎技術を発展させ、より高度なりペア技能を身に付け、作業時間短縮に向けて、効率の良い作業方法を考え問題解決できる様授業を進めていきます。 また、卒業後を見据えたより実践的なリペア技能の習得、金管楽器全般についての知識向上を図る。						
実務家教員	河本：楽器店販売修理職・10年						
授業方法	全体での実技を中心とし、講座、DVD、小テストを盛り込みながら、より専門性の高い知識や技能を身に付ける授業を進めます。						
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組みや構造を理解し、的確なりペア技能対応が出来る。			△		
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を見つけ解決方法が判断できる。			○		
	技能	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技能で問題解決ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味や関心を持ち、自らが率先して学修が出来る。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。						
ICT活用	学生ポータル等で、ICTを活用した自主学習支援を行います。						
課題に対するフィードバック	授業毎に、分からない事や完成品のチェック希望は挙手をし、そのフィードバックなども双方で行います。						
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下』 1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	授業毎に必要な資料は配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
第1回	溶接応用実習 1年次に学修した内容の復習 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第2回	溶接応用実習 1年次に学修した内容の復習 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第3回	金管楽器(トランペット)応用実習 ピストン調整、抜差し管調整(ウオーターキー位置修正) 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第4回	金管楽器応用実習 ベル変形(凹み)、ベル胴変形(凹み)修正、スライド調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第5回	金管楽器応用実習 ベル変形(凹み)、ベル胴変形(凹み)修正、スライド調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第6回	金管楽器応用実習 ベル変形(凹み)、ベル胴変形(凹み)修正、スライド調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第7回	金管楽器(ホルン)応用実習 ローター調整(軸ガタ、縦ガタ)、レバー系交換 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第8回	金管楽器(ホルン)応用実習 ローター調整(軸ガタ、縦ガタ)、レバー系交換 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第9回	金管楽器(ホルン)応用実習 レバー曲がり、レバー系交換 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第10回	金管楽器総合実習 溶接、凹み修正、各部調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第11回	金管楽器総合実習 溶接、凹み修正、各部調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第12回	金管楽器総合実習 溶接、凹み修正、各部調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第13回	金管楽器総合実習 溶接、凹み修正、各部調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第14回	金管楽器総合実習 溶接、凹み修正、各部調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
第15回	金管楽器総合実習 溶接、凹み修正、各部調整 【課題（復習・他）学んだ内容の復習（3h）】
時間外での学修	技術の反復練習が重要です。確実にリペア技能を身に付ける様、空き時間等も活用しながら進めていって下さい。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	自分の将来を見据えて、今やるべきことを理解し、更なる技能向上を図ってください。クラス内で討議も必要ですし、コミュニケーション作りの重要性も学修してください。 オフィスアワーは、毎週水曜日授業後にF101で行いますので、気軽に来てください。

【3R6A312】リペア応用(金管I)B		音楽総合学科		2年後期		
		3単位	必修	実技	120時間	
教員	河本 幾乃					
資格・制限等	Rコース必修					
授業内容	前期で学修したリペア技能を発展させ、より高度なリペア技能を身に付け、作業時間短縮に向けて効率の良い作業方法を考える。また、お客様に渡せる状態とは？をしっかりと考えて、不快感が起らないようにするにはどうしたら良いかを考えてください。					
実務家教員	河本：楽器店販売修理職・10年					
授業方法	実技中心となりますが、自分の苦手意識克服を考えて反復練習となります。また、老朽化した楽器をリペアする事は、卒業後に楽器店等での経験値を増加させることとなりますから、積極的にトライして下さい。					
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組みや構造を理解し、的確なリペア技能が出来る。			△	
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を見つけ解決方法を判断できる。			○	
	技能	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らの技術で問題解決が出来る。			◎	
	関心・意欲・態度	楽器に関する関心や興味を持ち、自らが率先して学修することが出来る。			○	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	筆記試験	10	-	-	-	10
	実技試験	-	20	50	-	70
	受講態度	-	-	-	20	20
	合計(点)	10	20	50	20	100
評価の特記事項	全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格がありません。					
ICT活用	学生ポータル等で、ICTを活用した自主学習支援を行います。					
課題に対するフィードバック	授業毎に、分からない事や、完成品のチェック希望には挙手を促し、状態等についてフィードバックを行います。					
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下』 1年次に購入したものを使用します。					
参考書・教材	授業毎に必要な資料は配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
第1回	金管楽器応用実習 ピストン固着修正 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)					
第2回	金管楽器応用実習 ピストン固着修正 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)					
第3回	金管楽器応用実習 ピストン固着修正、抜き差し管変形修正、スライド調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)					
第4回	金管楽器応用実習 ピストン固着修正、抜き差し管変形修正、スライド調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)					
第5回	金管楽器応用実習 ロータリー調整、糸テンション調整、レバー曲がり、スライド調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)					
第6回	金管楽器応用実習 ロータリー調整、糸テンション調整、レバー曲がり、スライド調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)					
第7回	金管楽器応用実習 溶接、ロータリー調整、糸テンション調整、レバー曲がり、スライド調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)					
第8回	金管楽器応用実習 溶接、ローターガタ修正(ブッシュの場合含む)レバー曲がり、スライド調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)					
第9回	金管楽器応用実習 溶接、ローターガタ修正(ブッシュの場合含む)レバー曲がり、スライド調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)					
第10回	金管楽器総合実習 老朽化した楽器のリペア全般 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)					
第11回	金管楽器総合実習 老朽化した楽器のリペア全般 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)					
第12回	金管楽器総合実習 老朽化した楽器のリペア全般 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)					
第13回	金管楽器総合実習 老朽化した楽器のリペア全般 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)					
第14回	金管楽器総合実習 老朽化した楽器のリペア全般 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
第15回	<p>金管楽器総合実習            老朽化した楽器のリペア全般  <b>【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）</b></p>
時間外での学修	<p>苦手意識を無くし、確実性を目指してください。グループディスカッションの場を設けますから、出来ないで悩んでいない様に、積極的に活用してください。  <b>【この科目で求める望ましい総学修時間：30時間】</b></p>
受講学生へのメッセージ	<p>リペア技術を軸としたセールスエンジニアを目指しますが、人間性も重要ですので、日頃からコミュニケーション作りの意識付けを行って下さい。            オフィスアワーは、毎週月曜日授業終了後にF101で行います。</p>

【3R6S313】リペア応用(金管Ⅱ)A		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	実技	90時間		
教員	渡辺 博夫・河本 幾乃						
資格・制限等	Rコース必修						
授業内容	1年次に学修した基礎知識を発展させ、より高度なりペア技能を身に付け、作業時間短縮の為に効率の良い作業方法を考え、問題解決できる様授業を展開してしていきます。 また、卒業後を見据えたより実践的なりペア技能の習得。 金管楽器全般の商品知識の習得。						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年 河本：楽器店修理販売職・10年						
授業方法	実技が主になります。グループワークも取り入れ、講義、DVD等を活用しながら、専門的なりペア技能や商品知識を身に付けて下さい。						
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組みや構造を理解し、的確な修理、調整が出来る。			△		
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を見つけ解決方法がしっかり判断できる。			○		
	技能	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らのリペア技術で問題解決ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	楽器に関する興味や関心を持ち、自らが率先して学修することができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。						
ICT活用	学生ポータル等で、ICTを活用した自主学習支援を行います。						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、理解度確認は授業内で挙手をさせ、一人一人に状態を説明し、作業で悪化してしまったものについては、講師が変わって手直しをし、どうしてこうなったのかを説明し、同じミスを繰り返さないよう説明する。						
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下』 1年次に購入したものを使用します						
参考書・教材	各社カタログ、必要資料は授業間に配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
第1回	金管楽器応用実習：溶接、ピストン調整、ベルフレア部変形修正、スライド調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第2回	金管楽器応用実習：溶接、ピストン調整、ベルフレア部変形修正、スライド調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第3回	金管楽器応用実習：溶接、ピストン調整、ベルフレア部変形修正、スライド調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第4回	金管楽器応用実習：溶接、ピストン調整、ベルフレア部変形修正、スライド調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第5回	金管楽器応用実習：溶接、ピストン調整、ベルフレア部変形修正、スライド調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第6回	金管楽器応用実習（ホルン）：固着、縦ガタ修正 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第7回	金管楽器応用実習（ホルン）：固着、縦ガタ修正 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第8回	金管楽器応用実習（ホルン）：ロータリー調整、ロータリー糸交換、レバー板曲がり修正 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第9回	金管楽器応用実習 部品加工、溶接、ピストン調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第10回	金管楽器応用実習 部品加工、溶接、ピストン調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第11回	金管楽器応用実習 部品加工、溶接、ローター調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第12回	金管楽器応用実習 部品加工、溶接、ローター調整 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第13回	金管楽器応用実習総合：自分で楽器を選択し、苦手部分について精度アップを図る。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第14回	金管楽器応用実習総合：自分で楽器を選択し、苦手部分について精度アップを図る。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
第15回	金管楽器応用実習総合：自分で楽器を選択し、苦手部分について精度アップを図る。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～5h）						
時間外での学修	苦手意識を無くし、確実性を目指してください。多くの技術者の作業方法や使用工具を理解することで、自分のスタイルを確立してください。 【この科目で求める望ましい総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	自分の将来を見据えて、今やるべきことをしっかり理解して、更なるリペア技術向上を目指してください。 オフィスアワーは、毎週金曜日10：40～12：10 また空き時間にB304（B号館3F）に気軽に来てください。						



【3R6A314】リペア応用(金管Ⅱ)B		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	実技	90時間		
教員	渡辺 博夫・河本 幾乃						
資格・制限等	Rコース必修						
授業内容	1年次に学修した基礎知識を発展させ、より高度なりペア技能を身に付け、作業時間短縮の為に効率の良い作業方法を考え、問題解決できる様授業を展開してしていきます。 また、卒業後を見据えたより実践的なりペア技能の習得。 金管楽器全般の商品知識の習得。						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年 河本：楽器店修理販売職・10年						
授業方法	実技が主になります。グループワークも取り入れ、講義、DVD等を活用しながら、専門的なりペア技能や商品知識を身に付けて下さい。						
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組みや構造を理解し、的確な修理、調整ができる。			△		
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を見つけ解決方法がしっかり判断できる。			○		
	技能	各金管楽器の状態把握後、リペア箇所を自らのリペア技術で問題解決ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	楽器に関する興味や関心を持ち、自らが率先して学修することができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験を受験することが出来ません。						
ICT活用	学生ポータル等で、ICTを活用した自主学習支援を行います。						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、理解度確認は授業内で挙手をさせ、一人一人に状態を説明し、作業で悪化してしまったものについては、講師が変わって手直しをし、どうしてこうなったのかを説明し、同じミスを繰り返さないよう説明する。						
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下』 1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	必要資料は、授業毎に配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
第1回	溶接、ピストン調整、スライド調整、お客様に渡せる状態作り 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)						
第2回	溶接、ピストン調整、スライド調整、お客様に渡せる状態作り 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)						
第3回	溶接、ピストン調整、スライド調整、凹み修正。お客様に渡せる状態作り 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)						
第4回	溶接、ピストン調整、スライド調整、凹み修正。お客様に渡せる状態作り 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)						
第5回	溶接、ピストン調整、スライド調整、凹み修正。お客様に渡せる状態作り 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)						
第6回	溶接、ピストン調整、スライド調整、へこみ修正、お客様に渡せる状態作り 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)						
第7回	溶接、ピストン調整、スライド調整、凹み修正。お客様に渡せる状態作り 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)						
第8回	老朽化した金管楽器の修正法 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)						
第9回	老朽化した金管楽器の修正法 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)						
第10回	老朽化した金管楽器の修正法 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)						
第11回	老朽化した金管楽器の修正法 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)						
第12回	老朽化した金管楽器の修正法 【課題・(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)						
第13回	金管楽器応用実習総合：苦手意識克服のため、自分で楽器を選択し精度アップを図る 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)						
第14回	金管楽器応用実習総合：苦手意識克服のため、自分で楽器を選択し精度アップを図る 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)						
第15回	金管楽器応用実習総合：苦手意識克服のため、自分で楽器を選択し精度アップを図る 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~5h)						
時間外での学修	苦手意識を無くし、確実性を目指してください。多くの技術者の作業方法や使用工具を理解することで、自分のスタイルを確立してください。 【この科目で求める望ましい総学修時間：30時間】						
受講学生へのメッセージ	リペア技術を軸としたセールスエンジニアを目指しますが、人間性も重要ですので、日頃から意識付けを行ってください。オフィスアワーは、毎週金曜日10：40～12：10、それ以外の時間でも、B304(B号館3階)に気軽に来てください。						

【3R6A315】リペア特講(木管)		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	選択	演習	60時間		
教員	河本 幾乃						
資格・制限等	特になし						
授業内容	吹奏楽で使用されている木管楽器の種類は多くあります。特殊管等の仕組みや構造を理解し、リペア技術の幅や商品知識向上を図ります。						
実務家教員	河本：楽器店修理販売職・10年						
授業方法	実習が主になりますが、小グループで解決策を見出し、検討結果等の発表の活動等も含めて授業を展開していきます。						
到達目標	知識・理解	各木管楽器の仕組みや構造を理解し的確なリペア対応ができる。			○		
	思考・判断・表現	各木管楽器の状態把握をし、リペア箇所を見つけ解決方法を判断する。			◎		
	技能	各木管楽器の状態把握をし、リペア箇所を見つけ自らの技能で問題解決する。			◎		
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味や関心を持ち、自らが率先して学修することができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	40	-	60
	発表・レポート		10	10	-	-	20
	受講態度		-	-	-	10	10
合計(点)		20	30	40	10	100	
評価の特記事項	全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格がありません。						
ICT活用	学生ポータル等で、ICTを活用した自主学習支援を行います。						
課題に対するフィードバック	授業毎に、分からない事や、作業完了品の状態確認については、学生から挙手をさせ、個々にフィードバックを行います。						
テキスト	『「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」上・下巻』ヤマハ1年次に購入したものを使用します。						
参考書・教材	各社カタログ、資料等は授業毎に配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方 【課題(復習)】学んだ内容の復習(1h)						
2	ピッコロについて ヘッドコルク脱着方法、反射板位置(各社の寸法)タンポ調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
3	ピッコロについて タンポ調整、連絡バランスの取り方、ハンミツヒ製についても説明 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
4	フルートリングキタイプについて 仕組みや構造、タンポ調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3~5h)						
5	フルートリングキタイプについて タンポ調整(専用工具製作含む)小グループ化し、ピッコロ・リングキフルートの作業方法等を討議する 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3~6h)						
6	ハーモニクラリネットについて 仕組みや構造 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(2h)						
7	ハーモニクラリネット タンポ調整、連絡バランスの取り方 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3~5h)						
8	ハーモニクラリネットについて レジスター連絡の取り方について小グループ化し、取り方につけて討議する 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3~6h)						
9	オーボエについて 仕組みや構造について 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(1h)						
10	オーボエについて タンポ調整、連絡バランス調整 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3~5h)						
11	ファゴットについて 仕組みや構造について 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(1h)						
12	ファゴットについて タンポ調整、連絡バランスの取り方について、小グループ化し討議する 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3~5h)						
13	ソプラノサクソフォン・バリトンサクソフォンについて 仕組みや構造について 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(1h)						
14	ソプラノサクソフォン・バリトンサクソフォンについて タンポ調整、連絡バランスの取り方について小グループ化し討議する 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h~6h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
15	木管楽器全般復習 学校備品や使用品のリペア対応力アップ 使用頻度や対応年数、メンテナンス不足等で状況の異なるトラブルが発生するため、日常、楽器店等へ持ち込まれる修理品の状態把握と、リペア対応力を身に付ける 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h～6h）
時間外での学修	多くの種類の楽器が存在するため、まずは、構造を理解しなければ先に進みませんので、しっかり身に付けてください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間】
受講学生へのメッセージ	楽器店では、吹奏楽団体との繋がりが多くなりますから、木管楽器全般のリペア対応力が必要となりますので、しっかり身に付けてください。 オフィスアワーは、毎週火曜日授業終了後にF101教室で行います。

【3R6A316】リペア特講(金管)		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	選択	演習	60時間		
教員	渡辺 博夫						
資格・制限等	特になし						
授業内容	吹奏楽で使用されている金管楽器の種類は多くあり、特殊管等の構造や仕組みを理解し、諸品知識の向上を図ります。また、リペア応用授業とは別に、ネジ加工、ロー付け等の作業をおこなって行きます。						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年						
授業方法	実習が主にはなりますが、グループ化し、問題点や解決策を検討する時間を取ります。授業内容によっては、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方で行います。学生ポータルやメールでの質問なども受け付けます。						
到達目標	知識・理解	各金管楽器の仕組みや構造を理解し、的確なリペア対応を考える事が出来る。			○		
	思考・判断・表現	各金管楽器の状態把握をし、リペア箇所を見つけ解決方法を判断する事が出来る。			◎		
	技能	各金管楽器の状態把握をし、リペア箇所を見つけ自らのリペア技能で解決が出来る。			◎		
	関心・意欲・態度	楽器に関する事に興味や関心を持ち、自らが率先して学修することが出来る。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標と結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		20	10	-	-	30
	実技試験		-	20	40	-	60
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		20	30	40	10	100
評価の特記事項	全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格がありません。						
ICT活用	学生ポータル等で、ICTを活用した自主学習支援を行います。						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、授業内で挙手をさせ、一人一人の状態を確認し、悪化したものについては、講師が変わって手直しをし、原因やミスを繰り返さないよう説明をします。						
テキスト							
参考書・教材	1年次生で購入した「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」(上・下) 必要資料は、授業毎に配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
第1回	ガイダンス、授業の進め方 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(1h)						
第2回	ネジ切加工①：タップ加工、ダイス加工でネジを製作 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(2h)						
第3回	ネジ切加工②：タップ加工、ダイス加工でネジを製作 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(2h)						
第4回	ベル＝一番管分解凹み修正(中低音楽器を用いて)① 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第5回	ベル＝一番管分解凹み修正(中低音楽器を用いて)② 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第6回	溶接作業：ロー付け① 加工したパーツ同士をロー付けし、硬化したフラックスの除去方法について。 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第7回	溶接作業：ロー付け② 木管楽器のキイを使用して、溶接時の角度等を作り出す方法等 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第8回	ベルフレア部変形修正、ベル胴部変形修正① 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第9回	ベルフレア部変形修正、ベル胴部変形修正① 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第10回	ロータリー楽器でのガタ修正法① ケーシングカッターを用いた修正法、ブッシュ追い込みによる修正法 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第11回	ロータリー楽器でのガタ修正法② ケーシングカッターを用いた修正法、ブッシュ追い込みによる修正法 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第12回	スライド楽器：スライド分解調整① ピッチ、平行度出しについて 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第13回	スライド楽器：スライド分解調整② ピッチ、平行度出しについて 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第14回	金管楽器のトラブル対処① 溶接剥がれ、凹み、変形 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第15回	金管楽器のトラブル対処① 吹奏感や、音程変化の対処法 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						

時間外での学修	<p>多くの種類の楽器が存在するため、構造を理解しなければ進めません。しっかり理解をして下さい。自分で解決できない部分があれば、他の学生とミーティングの回数等を増やす等して、コミュニケーション作りの場としても考えてください。</p> <p>【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間:60時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>楽器店では、吹奏楽団体との繋がりが強くなります。金管楽器全般への対応力も必要になっていきますから、しっかり身に付けて下さい。</p> <p>オフィスアワーは、毎週金曜日10:40~12:10 それ以外の時間帯でも、B304 (B号館3F) に気軽に来てください。</p>

【3R6A317】リペアグレード対策(木管)		音楽総合学科		2年前期		
		2単位	選択	演習	60時間	
教員	渡辺 博夫					
資格・制限等	特になし					
授業内容	ヤマハ株式会社が実施する管楽器リペアグレード取得に向けて、木管楽器（フルート、クラリネット、サクソフォン）の3品目について実技を行ってきますが、各チェック項目を理解し、規定時間内に合格レベルに到達できる様、作業の反復練習になります。					
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年					
授業方法	実技が中心になり、合格レベルとはどんな状態作りなのかを説明していきます。授業内容によっては、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方で行います。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。					
到達目標	知識・理解	ヤマハでの基準は、どのような状態なのかを十分に理解できる。			○	
	思考・判断・表現	リペア技能をどう導き出して、限られた時間に解決できる。			◎	
	技能	作業手順を理解し、出来上がりの状態が合格レベルに達している。			◎	
	関心・意欲・態度	自らが率先して、応用的なリペア技術を見出し、自分のルーティンを確立する。			△	
	備考	◎・○・△は、DP・到達目標との結びつきの強さを示します。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実技試験	15	35	40	-	90
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	15	35	40	10	100
評価の特記事項	全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。					
ICT活用	学生ポータル等で、ICTを活用した自主学習支援を行います。					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、授業内で挙手をさせ、一人一人の状態を確認し、悪化したものについては、講師が変わって手直しをし、原因やミスを繰り返さないよう説明を行います。					
テキスト						
参考書・教材	1年次に購入した「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」（上・下）必要資料は、授業毎に配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
第1回	ガイダンス：授業の進め方について サクソフォン：リペアグレード対策実習① 1年次に学修したタンボ合わせ（開き、汚れ、焦げ等）の作業確認 【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3h～5h）					
第2回	木管楽器（サクソフォン）：リペアグレード対策実習② タンボ調整（合わせ、ラック量、焦げ、開き）、連絡バランス調整、セリ、ガタ、パネ圧（タッチ感） 【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3h～5h）					
第3回	木管楽器（サクソフォン）：リペアグレード対策実習③ タンボ調整（合わせ、ラック量、焦げ、開き）、連絡バランス調整、セリ、ガタ、パネ圧（タッチ感）、ネックコルク交換 【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3h～5h）					
第4回	木管楽器（クラリネット）：リペアグレード対策実習① タンボ調整（合わせ、開き、シワ取り）、連絡バランス調整、セリ、ガタ、パネ圧（タッチ感） 【課題・（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3h～5h）					
第5回	木管楽器（クラリネット）：リペアグレード対策実習② タンボ調整（合わせ、開き、シワ取り）、連絡バランス調整、セリ、ガタ、パネ圧（タッチ感、ジョイントコルク交換 【課題・（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3h～5h）					
第6回	木管楽器（クラリネット）：リペアグレード対策実習③ タンボ調整（合わせ、開き、シワ取り）、連絡バランス調整、セリ、ガタ、パネ圧（タッチ感）全体調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3h～5h）					
第7回	木管楽器（フルート）：リペアグレード対策実習① タンボ調整（合わせ、開き、ラック量、汚れ）、連絡バランス調整、セリ、ガタ、パネ圧（タッチ感） 【課題・（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3h～5h）					
第8回	木管楽器（フルート）：リペアグレード対策実習② タンボ調整（合わせ、開き、ラック量、焦げ）、連絡バランス調整、セリ、ガタ、パネ圧（タッチ感）、ヘッドコルク交換調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3h～5h）					
第9回	木管楽器（フルート）：リペアグレード対策実習③ タンボ調整（合わせ、開き、ラック量、焦げ）、連絡バランス調整、セリ、ガタ、パネ圧（タッチ感）、反射板位置調整 【課題・（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3h～5h）					
第10回	リペアグレード対策実習④ 各楽器毎のチェックリストに基づいて、不得意部分の解消を心掛けて、リペア技術の向上を図り、合格ラインを目指す。 精度を上げるにはどうすれば良いのか。をよく考えて、クラス内で情報交換の場作りも必要です。 【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3h～5h）					

内容	
実施回	授業内容・目標
第11回	リペアグレード対策実習② 各楽器毎のチェックリストに基づいて、不得意部分の解消を心掛けて、リペア技術の向上を図り、合格ラインを目指す。 精度を上げるにはどうすれば良いのか。をよく考えて、クラス内で情報交換の場作りも必要です。 【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3h～5h）
第12回	リペアグレード対策実習③ 各楽器毎のチェックリストに基づいて、不得意部分の解消を心掛けて、リペア技術の向上を図り、合格ラインを目指す。 精度を上げるにはどうすれば良いのか。をよく考えて、クラス内で情報交換の場作りも必要です。 【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3h～5h）
第13回	リペアグレード対策実習④ 各楽器毎のチェックリストに基づいて、不得意部分の解消を心掛けて、リペア技術の向上を図り、合格ラインを目指す。 精度を上げるにはどうすれば良いのか。をよく考えて、クラス内で情報交換の場作りも必要です。 【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3h～5h）
第14回	リペアグレード対策実習④ 各楽器毎のチェックリストに基づいて、不得意部分の解消を心掛けて、リペア技術の向上を図り、合格ラインを目指す。 精度を上げるにはどうすれば良いのか。をよく考えて、クラス内で情報交換の場作りも必要です。 【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（5h）
第15回	リペアグレード対策実習④ 各楽器毎のチェックリストに基づいて、不得意部分の解消を心掛けて、リペア技術の向上を図り、合格ラインを目指す。 精度を上げるにはどうすれば良いのか。をよく考えて、クラス内で情報交換の場作りも必要です。 【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（5h）
時間外での学修	復習が大切ですので、授業外の空時間を効率的に活用してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	反復練習が重要ですが、同じ作業が続くとモチベーション低下に繋がりますから、自己管理に気を付けて下さい。オフィスアワーは、毎週金曜日10：40～12：10 それ以外の時間でも、B304（B号館3F）に気軽に来てください。

【3R6A318】リペアグレード対策(金管)		音楽総合学科		2年前期		
		2単位	選択	演習	60時間	
教員	渡辺 博夫					
資格・制限等	特になし					
授業内容	ヤマハ(株)が実施する管楽器リペアグレード取得に向けて、金管楽器(トランペット、ホルン、トロンボーンスライド)の3品目について実技を行っていきませんが、各チェック項目を理解し、規定時間以内に合格レベルに到達できる様、作業の反復練習になります。					
実務家教員	渡辺: メーカー修理職・34年					
授業方法	実技が中心となり、合格レベルとはどんな状態作りなのかを説明していきます。授業内容によっては、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方で行います。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。					
到達目標	知識・理解	目指している合格基準は、どのような状態なのかを十分に理解できる。			○	
	思考・判断・表現	リペア技能をどう導き出して、限られた時間内に解決できる。			◎	
	技能	作業手順を理解し、出来上がりの状態が合格レベルに達している。			◎	
	関心・意欲・態度	自らが率先して、応用的なリペア技能を見出し、楽器の状態や作業環境が異なっても精度が落ちない。			△	
	備考	◎・○・△は、DP・到達目標とも結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実技試験	15	35	40	-	90
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	15	35	40	10	100
評価の特記事項	全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。					
ICT活用	学生ポータル等で、ICTを活用した自主学習支援を行います。					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、授業内で挙手をさせ、一人一人の状態を確認し、悪化したものについては、講師が変わって手直しをし、原因やミスを繰り返さないよう説明を行います。					
テキスト						
参考書・教材	1年次生で購入した「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」(上・下)他必要資料は、授業毎に配布します。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
第1回	金管楽器(トランペット)リペアグレード対策実習① ピストン固着修正作業の確認及び見直し。 【課題(復習)】学んだ内容について復習をする。(3h)					
第2回	金管楽器(トランペット)リペアグレード対策実習② マウスパイプハンダ付け作業の確認及び見直し。 【課題(復習)】学んだ内容について復習をする。(3h)					
第3回	金管楽器(トランペット)リペアグレード対策実習③ 第3抜差し管中管変形修正作業の確認及び見直し。 【課題(復習)】学んだ内容について復習をする。(2h)					
第4回	金管楽器(トランペット)リペアグレード対策実習総合 リペアグレード対策実習で学修した内容について、規定時間内で行い、チェックリストに基づいてチェックをし、不出来部分について再考する。 【課題(復習)】学んだ内容について復習をする。(3h~5h)					
第5回	金管楽器(ホルン)リペアグレード対策実習① ローター固着修正の確認及び見直し。ローター縦ガタ修正方法確認 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3h~5h)					
第6回	金管楽器(ホルン)リペアグレード対策実習① ローター固着修正の確認及び見直し。ローター縦ガタ修正方法確認 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3h~5h)					
第7回	金管楽器(ホルン)リペアグレード対策実習② ローター糸(紐)交換時のテンションとレバー板曲がり修正の確認及び見直し。 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3h~5h)					
第8回	金管楽器(ホルン)リペアグレード対策実習総合 リペアグレード対策実習で学修した内容について、規定時間内で実施し、チェックリストに基づいてチェックを行い、不出来部分について再考する。 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3h~5h)					
第9回	金管楽器(トロンボーン)リペアグレード対策実習① スライド曲がり修正方法の確認及び見直し 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3h)					
第10回	金管楽器(トロンボーン)リペアグレード対策実習① スライド曲がり修正方法の確認及び見直し 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3h)					
第11回	金管楽器(トロンボーン)リペアグレード対策実習② スライストップフェルト交換時の適正な状態確認確認及びウォーターキョルク交換時に気を付ける事を確認。 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(2h)					
第12回	金管楽器(トロンボーン)リペアグレード対策実習総合 リペアグレード対策実習で学修した内容について、規定時間内で行い、チェックリストに基づいてチェックを行い、不出来部分について再考する。 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3h)					



内容	
実施回	授業内容・目標
第13回	金管楽器全般リペアグレード対策実習 リペアグレード取得に向けて、リペアの精度アップを図り合格ラインに到達する。周りと情報交換を行い、ベストな手法を確立する。 【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3h～5h）
第14回	金管楽器全般リペアグレード対策実習 リペアグレード取得に向けて、リペアの精度アップを図り合格ラインに到達する。周りと情報交換を行い、ベストな手法を確立する。 【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3h～5h）
第15回	金管楽器全般リペアグレード対策実習 リペアグレード取得に向けて、リペアの精度アップを図り合格ラインに到達する。周りと情報交換を行い、ベストな手法を確立する。 【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3h～5h）
時間外での学修	復習が重要ですので、空き時間の有効活用を心掛けてください。 （この科目の求める望ましい授業外での総学修時間：60時間）
受講学生へのメッセージ	反復練習が重要ですが、モチベーション低下に気を付けて自己管理をしっかり行って下さい。 オフィスアワーは、毎週金曜日10：40～12：10 それ以外の時間帯でもB304（B号館3F）へ気軽に来ててください。

【3R6A319】リペアグレード対策(総合)		音楽総合学科		2年前期		
		2単位	選択	演習	60時間	
教員	渡辺 博夫					
資格・制限等	特になし					
授業内容	ヤマハ(株)が実施する管楽器リペアグレード取得に向け、木管楽器3品目、金管楽器3品目について実技を行っていきまが、チェック項目をよく理解して、合格レベルに達する様反復練習を行っていきます。					
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年					
授業方法	実技が中心になり、合格レベルとはどんな状態作りなのかをしっかりと理解するよう、授業を進めて行きます。 授業内容によっては、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方で行います。 学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。					
到達目標	知識・理解	合格基準は、どんな状態なのかを十分に理解している。			○	
	思考・判断・表現	リペア技能をどう導き出して、限られた時間内に解決できる。			◎	
	技能	作業手順を理解し、出来上がりの状態が合格レベルに達している。			◎	
	関心・意欲・態度	自らが率先して、応用的なリペア技術を見出してブレ幅が少ない様になる。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	実技試験	15	35	40	-	90
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	15	35	40	10	100
評価の特記事項	全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。					
ICT活用	学生ポータル等で、ICTを活用した自主学習支援を行います。					
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、授業内で挙手をさせ、一人一人の状態を確認し、悪化したものについては、講師が変わって手直しをし、原因やミスを繰り返さないよう説明を行います。					
テキスト						
参考書・教材	1年次生で購入した「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」(上・下) 必要資料は、授業毎に配布します。					

内容	
実施回	授業内容・目標
第1回	木管楽器(サクソフォン)：リペアグレード対策実習① 連絡バランス、アソビの必要箇所再確認 【課題・(復習他)】学んだ内容について復習する。(3h)
第2回	木管楽器(サクソフォン)：リペアグレード対策実習② 連絡バランス、レゾネーターの出方やタンポ形状、アソビの必要箇所再確認 【課題・(復習他)】学んだ内容について復習する。(3h)
第3回	木管楽器(クラリネット)：リペアグレード対策実習① 連絡バランス、タンポ形状、アソビの必要箇所再確認 【課題・(復習他)】学んだ内容について復習する。(3h)
第4回	木管楽器(クラリネット)：リペアグレード対策実習② 連絡バランス、ジョイントコルクの適正嵌合について(外観についても考える) 【課題・(復習他)】学んだ内容について復習する。(3h~5h)
第5回	木管楽器(フルート)：リペアグレード対策実習① 連絡バランス、基本的に同着だが、干渉しないセッティングについて 【課題・(復習他)】学んだ内容について復習する。(3h~5h)
第6回	木管楽器(フルート)：リペアグレード対策実習② 連絡バランス、皿ズレとタンポ形状についての再確認 【課題・(復習他)】学んだ内容について復習する。(3h~5h)
第7回	金管楽器(トランペット)：リペアグレード対策実習① ピストン調整(ラッピング作業の再確認)、抜き差し管変形修正後の要求レベルについて 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3h~5h)
第8回	金管楽器(トランペット)：リペアグレード対策実習② ハンダ付け(溶接作業)の再確認(量、傷、汚れ等) 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3h~5h)
第9回	金管楽器(ホルン)：リペアグレード対策実習① ローター調整(動き、ガタの有無)ロータリー系のテンションレバー高さ、全体調整 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3h~5h)
第10回	金管楽器(ホルン)：リペアグレード対策実習② ローター調整(動き、ガタの有無)ロータリー系のテンションレバー高さ、全体調整 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3h~5h)
第11回	金管楽器(トロンボーン)：リペアグレード対策実習① スライド調整、ストップフェルト交換 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3h)
第12回	リペアグレード対策実習① 規定時間内に作業を行い、指摘箇所を克服しながら合格レベルまで精度を上げていく。 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(3h~5h)

内容	
実施回	授業内容・目標
第13回	リペアグレード模試実習① 規定時間内に作業を行い、指摘箇所を克服しながら合格レベルまで精度を上げていく。 各項目をチェックし、状態についてそれぞれフィードバックします。 【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3h～5h）
第14回	リペアグレード模試実習② 規定時間内に作業を行い、指摘箇所を克服しながら合格レベルまで精度を上げていく。 各項目をチェックし、状態についてそれぞれフィードバックします。 【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3h～5h）
第15回	リペアグレード模試実習③ 規定時間内に作業を行い、指摘箇所を克服しながら合格レベルまで精度を上げていく。 各項目をチェックし、状態についてそれぞれフィードバックします。 【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3h～5h）
時間外での学修	復習が重要ですので、空き時間の有効活用をしっかりと考えて実践してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】
受講学生へのメッセージ	反復練習が重要ですが、同じ作業が連続するとモチベーション低下に繋がりますから、自己管理に気を付けて下さい。 オフィスアワーは、毎週金曜日10：40～12：10 それ以外の時間でも、B304（B号館3F）に気軽に来てください。

【3R6A220】打楽器リペア演習		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	渡辺 博夫						
資格・制限等	特になし						
授業内容	打楽器類より、主にティンパニーを取り上げ、仕組みや構造を理解し、基礎となるリペア技術や知識を学修し、膜楽器、音板打楽器等の日頃起こりやすいトラブルに対処できるリペア技術を身に付けます。打楽器類は大型楽器が多く、重量もありますから、安全な作業を十分に理解し、適切な工具の使用法を学修します。						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年						
授業方法	実技を中心として、構造説明やそれぞれの楽器についても演奏方法等、打楽器全般の基礎的な知識やリペア技術が身につく様に授業を進めていきます。授業内容によっては、Google Meetによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方で行います。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。						
到達目標	知識・理解	各楽器の仕組みや構造を理解し、基本的な楽器の状態を把握する事が出来る。			○		
	思考・判断・表現	各楽器の状態把握後、修理が必要と思われる箇所を見つけ、対処法を考える。			○		
	技能	各楽器の状態把握後、リペア箇所を自らのリペア技術で問題解決が出来る。			◎		
	関心・意欲・態度	楽器に関する興味を持ち、自らが率先して学修することが出来る。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		15	25	40	-	80
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		15	25	40	20	100
評価の特記事項	全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。						
ICT活用	学生ポータル等で、ICTを活用した自主学習支援を行います。						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、理解度確認は授業内で挙手をさせ、一人一人に状態を説明し、作業で悪化してしまったものについては、講師が変わって手直しをし、どうしてこうなったのかを説明し、同じミスを繰り返さないよう説明します。						
テキスト							
参考書・教材	1年時に購入した「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」(下巻) 各社カタログ等 資料等は、授業毎に配布します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
第1回	ガイダンス、打楽器概論について「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」下巻p210より解説 【課題(復習・他)】打楽器概論で学んだ内容の復習(1.5h)						
第2回	ティンパニーの形態と構造及び演奏方法 【課題(復習・他)】ティンパニーの形態と構造及び演奏方法、学んだ内容の復習(3h)						
第3回	ティンパニー基礎実習① TP520～532を使用して分解作業を行い、構造理解や工具の使い方について学修する。 【課題(復習・他)】ティンパニー分解手順や、使用工具の使い方について復習する。(3h～5h)						
第4回	ティンパニー基礎実習② TP520～532を使用して分解作業を行い、構造理解や工具の使い方について学修する。 【課題(復習・他)】ティンパニー分解手順や、使用工具の使い方について復習する。(3h～5h)						
第5回	ティンパニー基礎実習③ TP520～532を使用して分解作業を行い、構造理解や工具の使い方について学修する。 【課題(復習・他)】ティンパニー分解手順や、使用工具の使い方について復習する。(3h～5h)						
第6回	ティンパニー基礎実習④ バランステンションロッド、テンションロッド等の調整ポイントについて学修する。 【課題(復習・他)】ベース部分分解手順や、使用工具の使い方について復習する。(3h～5h)						
第7回	ティンパニー基礎実習⑤ バランステンションロッド、テンションロッド等の調整ポイントについて学修する。 【課題(復習・他)】ベース部組み立て手順や使用工具の使い方について復習する。(3h～5h)						
第8回	ティンパニー基礎実習⑥ チューニング、ペダル作動チェックと対処法について学修する。 【課題(復習・他)】チューニング手順や使用工具の使い方について復習する。(3h～5h)						
第9回	ティンパニー基礎実習⑦ チューニング、ペダル作動チェックと対処法について学修する。 【課題(復習・他)】チューニング手順や使用工具の使い方について復習する。(3h～5h)						
第10回	膜打楽器の形態と構造、分解調整他① コンサートバスドラム、マーチングバスドラムを使用して、構造や演奏法について学修する。 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(2h)						
第11回	膜打楽器の形態と構造、分解調整他② コンサートスネアドラム、マーチングスネアドラム、を使用して、構造や演奏法について学修する。 【課題(復習・他)】学んだ内容について復習する。(2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
第12回	音板打楽器の形態と構造、よくあるトラブル対処法について① コンサートマリンバを使用して 【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（2h）
第13回	音板打楽器の形態と構造、よくあるトラブル対処法について② シロフォン、グロッケン、ヴィブラフォンを使用して 【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（2h）
第14回	チャイム、ハーブ、チェレスタの形態と構造、トラブル対処法について 【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（2h）
第15回	打楽器総合基礎実習 シンバルの手皮交換作業や、日頃行うケア等について 【課題（復習・他）】学んだ内容について復習する。（3h）
時間外での学修	ティンパニー分解組み立ての作業は、危険を伴いますから必ず教員立ち合いを原則とします。 各社カタログをしっかりと読み取り、仕様の違いやセールスポイントを理解してください。 演奏形態が異なる団体での打楽器類の音色追求を理解してください。 （この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30時間）
受講学生への メッセージ	リペア技術を軸としたセールスエンジニアを目指しますが、人間性も重要ですので、日頃から意識付けを行って下さい。オフィスアワーは、毎週金曜日10：40～12：10、それ以外の時間でも、B304（B号館3階）に気軽に来てください。

【3R6A221】弦楽器リペア演習		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	松永 幸宏						
資格・制限等	特になし						
授業内容	楽器店及び学校販売の現場において最低限必要な弦楽器の知識や技術を学ぶ。						
実務家教員	楽器店修理販売職・19年						
授業方法	実際に楽器にさわる実習が中心ですが、資料などを活用した講義も取り入れグループでの実習などを含めて授業を展開していきます。学生ポータルやメールで質問等も受け付けます。場合により、Google Meetなどによる遠隔授業や、ICTを活用した課題提出とそのフィードバックなども双方向で行うこともあります。						
到達目標	知識・理解	弦楽器の歴史や名称など基本的な知識を理解できる。			◎		
	思考・判断・表現	不具合を見つけ適切な処置方法を考えることができる。			○		
	技能	基本的なメンテナンス技術を身に付ける。			◎		
	関心・意欲・態度	より深く楽器に対して関心を持ち、積極的に知識を得ようと努力し取り組むことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		30	20	-	-	50
	実技試験		-	-	30	-	30
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		30	20	30	20	100
評価の特記事項	受講態度は学修取り組み、技術向上への意欲等の状況。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（学生ポータルなど）						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題回収後、解答の解説を行います。						
テキスト	ありません。						
参考書・教材	必要な資料は授業で配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方・バイオリンについて（歴史・名称） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
2	バイオリンについて（扱い方・セットアップ） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
3	バイオリンについて（弦交換） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
4	バイオリンについて（全体ばらし、組立） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
5	バイオリンについて（魂柱たて1） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
6	バイオリンについて（魂柱たて2） [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
7	バイオリンの弓について [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
8	バイオリンのメンテナンス [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
9	コントラバスの知識・実技1 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
10	コントラバスの知識・実技2 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
11	楽器店における弦楽器の販売1 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
12	楽器店における弦楽器の販売2 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
13	楽器店における接客対応1 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
14	楽器店における接客対応2 [課題(復習)]学んだ内容の復習(1h)						
15	授業外の課題のまとめ、試験に向けての復習確認作業 [課題(復習)]試験への再確認(1h)						
時間外での学修	[課題]は技術を身に付ける上で必要なことです。授業外で確実に学修を行いましょう。 [この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間]						
受講学生へのメッセージ	専門外の楽器ですが、今後必要になる知識です、積極的に授業に参画してください。オフィスアワーは毎週月曜日授業終了後に行います。						

【3W5S215】演奏会研究Ⅲ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育						
資格・制限等	Wコース必修						
授業内容	演奏会に関する様々な知識や教養について学修します。前後期で教公演を鑑賞します。演目や出演者などを研究する事で、深い知識を持って鑑賞に臨みます。本番の臨場感、演奏家のエネルギーを感じ取り、自分の演奏技術、表現力に活かします。また、演奏会について様々なテーマを設定し研究することで、演奏会についての総合的な知識やマナーを学びます。これらを総合的に学修することで、自分たちの企画する演奏会に活かします。研究成果を発表することによって、プレゼンテーション能力を磨きます。相互に批評・評価する中で、傾聴力や、的確にアドヴァイスできる力を養成します。						
実務家教員	吹奏楽指導者（含 高等学校教員）35年						
授業方法	実際に鑑賞する公演については、鑑賞前に演目や出演者などの調査、研究を行い、個別発表やディスカッションをします。また、演奏会に関するテーマを設定し、各自調査・研究のうえ資料を作成し、プレゼンテーションを行います。各発表終了ごとにGoogleフォームによる確認テストと振り返り調査を行います。						
到達目標	知識・理解	鑑賞する演奏会における演奏者の基本情報やプログラム等を調べ、演奏会に臨み、その知識を理解することができる。また、分野別に演奏会について調べ、研究することで、そこから得られた知識を理解し活用することができる。			◎		
	思考・判断・表現	演奏者の表現を受け入れ分析し評価することができ、自身の演奏表現に活かすことができる。また、他者の調査内容を聞くことにより、自己の知識を増幅させ、自己表現力を磨き、定期演奏会に活かすことができる。			◎		
	関心・意欲・態度	自分の理想とする演奏を求め、より質の高い演奏や演奏会を目指し、積極的に努力して学修に取り組む事ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート提出・発表		30	30	-	20	80
	小テスト		10	10	-	-	20
	合計(点)		40	40	-	20	100
評価の特記事項	資料と、発表・講評は、それぞれ観点別に評価します。発表は、態度・話し方、内容・構成を細かく項目別に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終の評価を受ける資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、各発表の確認テストには、解答の解説、質疑応答を行うとともに、調査表にはコメントを返します。						
テキスト	なし						
参考書・教材	その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、この授業で学ぶこと。研究の仕方、授業内容、到達目標等。 [課題（準備）]シラバスの熟読。演奏会についての考察課題。演奏会研究冒頭調査。（1～2h）						
2	演奏会についての考察（第1回授業振り返りと発展） プレゼンテーション資料作成の仕方。発表の仕方。 「コンサートホール研究」発表についての解説および、調査・発表対象の選択。 [課題（準備）]「世界のホール研究」発表準備・資料作成。（3～4h）						
3	「コンサートホール研究」についてのプレゼンテーション① 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。（1～2h）						
4	「コンサートホール研究」についてのプレゼンテーション② 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。（1～2h）						
5	「コンサートホール研究」についてのプレゼンテーション③及び三回分の質疑応答、ディスカッション。 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する 「鑑賞演奏会分野別研究」発表についての説明および、調査・発表対象の選択。 [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。全体のまとめ。復習。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備、資料作成。（3～4h）						
6	「コンサートホール研究」発表振り返り調査および、「コンサートホール研究」における確認テストをGoogleフォームにて実施する。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備、資料作成。 [課題（復習・準備）]「コンサートホール研究」についての確認テスト復習。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備・資料作成。（3～4h）						
7	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション① 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。（1～2h）						
8	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション② 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。（1～2h）						
9	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション③及び三回分の質疑応答、ディスカッション。 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する 「自分の企画する演奏会プログラム研究」発表についての説明 [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。全体のまとめ。復習。（1～2h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
10	「鑑賞演奏会分野別研究」発表振り返り調査および、「鑑賞演奏会分野別研究」における確認テストをGoogleフォームにて実施する。「自分の企画する演奏会プログラム研究」発表準備、資料作成。 [課題（復習・準備）]「鑑賞演奏会分野別研究」についての確認テスト復習。「自分の企画する演奏会プログラム研究」発表準備・資料作成。(3～4h)
11	第26回ウィンドアンサンブル定期演奏会について 意義・目的・プログラムについて [課題（復習・準備）]第26回定期演奏会「意義・目的・プログラムについて」に関する復習と考察。 「自分の企画する演奏会プログラム研究」発表準備・資料作成。(3～4h)
12	「自分の企画する演奏会プログラム研究」についてのプレゼンテーション① 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。(1～2h)
13	「自分の企画する演奏会プログラム研究」についてのプレゼンテーション② 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。(1～2h)
14	「自分の企画する演奏会プログラム研究」についてのプレゼンテーション③及び全体の質疑応答、ディスカッション。 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。全体のまとめ。(2～3h)
15	「自分の企画する演奏会プログラム研究」発表振り返り調査および、「自分の企画する演奏会プログラム研究」における確認テストをGoogleフォームにて実施する。前期全体のまとめを学生ポータルで行う。 [課題（復習・準備）]「自分の企画する演奏会プログラム研究」についての確認テスト復習。前期全体の振り返り。(2～3h)
時間外での学修	各発表については、内容の充実した資料作成を心がけてください。発表は、定められた時間の中で、より中身の濃い発表ができるように準備を進めてください。各確認テスト、調査、課題については期限を厳守すること。[この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：27～42時間]
受講学生へのメッセージ	実際の鑑賞に当たっては服装等、マナーを守り、何事も学ぶ姿勢で鑑賞しましょう。他者の調査内容や発表姿勢を参考にして、自分の知識や表現力を磨いていきましょう。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。



【3W5A216】演奏会研究IV		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育						
資格・制限等	Wコース必修						
授業内容	演奏会に関する様々な知識や教養について学修します。前後期で教公演を鑑賞します。演目や出演者などを研究する事で、深い知識を持って鑑賞に臨みます。本番の臨場感、演奏家のエネルギーを感じ取り、自分の演奏技術、表現力に活かします。また、演奏会について様々なテーマを設定し研究することで、演奏会についての総合的な知識やマナーを学びます。これらを総合的に学修することで、自分たちの企画する演奏会に活かします。研究成果を発表することによって、プレゼンテーション能力を磨きます。相互に批評・評価する中で、傾聴力や、的確にアドヴァイスできる力を養成します。						
実務家教員	吹奏楽指導者（含 高等学校教員）35年						
授業方法	実際に鑑賞する公演については、鑑賞前に演目や出演者などの調査、研究を行い、個別発表やディスカッションをします。また、演奏会に関するテーマを設定し、各自調査・研究のうえ資料を作成し、プレゼンテーションを行います。各発表終了ごとにGoogleフォームによる確認テストと振り返り調査を行います。						
到達目標	知識・理解	鑑賞する演奏会における演奏者の基本情報やプログラム等を調べ、演奏会に臨み、その知識を理解することができる。また、テーマ別に演奏会について調べ、研究することで、そこから得られた知識を理解し活用することができる。			◎		
	思考・判断・表現	演奏者の表現を受け入れ分析し評価することができ、自身の演奏表現に活かすことができる。また、他者の調査内容を聞くことにより、自己の知識を増幅させ、自己表現力を磨き、定期演奏会に活かすことができる。			◎		
	関心・意欲・態度	自分の理想とする演奏を求め、より質の高い演奏や演奏会を目指し、積極的に努力して学修に取り組む事ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	レポート提出・発表		30	30	-	20	80
	小テスト		10	10	-	-	20
	合計(点)		40	40	-	20	100
評価の特記事項	資料と、発表・講評は、それぞれ観点別に評価します。発表は、態度・話し方、内容・構成を細かく項目別に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終の評価を受ける資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、各発表の確認テストには、解答の解説、質疑応答を行うとともに、調査表にはコメントを返します。						
テキスト	なし						
参考書・教材	その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業日程の説明、選択演奏会研究・世界の指揮者研究発表についての説明および、調査・発表対象の選択。 第26回ウインドアンサンブル定期演奏会に関する考察 [課題（準備・復習）]第26回定期演奏会に関する考察のまとめ、課題。「世界の指揮者研究」発表準備・資料作成。(3~4h)						
2	第26回ウインドアンサンブル定期演奏会について①情宣活動について（チラシ・案内・広報など） [課題（復習・準備）]第26回定期演奏会「情宣活動」に関する復習、考察。「世界の指揮者研究」発表準備・資料作成。(3~4h)						
3	「世界の指揮者研究」についてのプレゼンテーション① 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。(1~2h)						
4	「世界の指揮者研究」についてのプレゼンテーション② 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。(1~2h)						
5	「世界の指揮者研究」についてのプレゼンテーション③及び三回分の質疑応答、ディスカッション。 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する 「鑑賞演奏会分野別研究」発表についての説明および、調査・発表対象の選択。 [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。全体のまとめ。復習。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備・資料作成。(3~4h)						
6	「世界の指揮者研究」発表振り返り調査および、「世界の指揮者研究」における確認テストをGoogleフォームにて実施する。 [課題（復習・準備）]「世界の指揮者研究」についての確認テスト復習。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備・資料作成。(3~4h)						
7	第26回ウインドアンサンブル定期演奏会について②プログラム・演出について（タイムテーブル・ロビーコンサート・舞台演出など） [課題（復習・準備）]第26回定期演奏会「プログラム・演出について」に関する復習。「鑑賞演奏会分野別研究」発表準備・資料作成。(3~4h)						
8	「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション① 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。(1~2h)						
9	鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション② 授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する [課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。(1~2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
10	<p>「鑑賞演奏会分野別研究」についてのプレゼンテーション③及び三回分の質疑応答、ディスカッション。授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する</p> <p>「選択演奏会研究」発表についての説明。調査対象演奏会の報告。</p> <p>[課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。全体のまとめ。復習。「選択演奏会研究」発表準備、資料作成。(3～4h)</p>
11	<p>「鑑賞演奏会分野別研究」発表振り返り調査および、「鑑賞演奏会分野別研究」における確認テストをGoogleフォームにて実施する。</p> <p>[課題（復習・準備）]「鑑賞演奏会分野別研究」についての確認テスト復習。「選択演奏会研究」発表準備・資料作成。(3～4h)</p>
12	<p>「選択演奏会研究」についてのプレゼンテーション①</p> <p>授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する</p> <p>[課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。(1～2h)</p>
13	<p>「選択演奏会研究」についてのプレゼンテーション②</p> <p>授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する</p> <p>[課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。(1～2h)</p>
14	<p>「選択演奏会研究」についてのプレゼンテーション③及び全体の質疑応答、ディスカッション。</p> <p>授業時間外の課題で作成した資料を参考にしながら、自分の意見や考えをまとめて発表する</p> <p>[課題（復習・準備）]本日発表のチェックシートをまとめ、各発表の良かった点、改善点を振り返り省察する。全体のまとめ。(2～3h)</p>
15	<p>「選択演奏会研究」発表振り返り調査および、「選択演奏会研究」における確認テストをGoogleフォームにて実施する。後期全体のまとめを学生ポータルで行う。</p> <p>[課題（復習・準備）]「選択演奏会研究」についての確認テスト復習。後期全体の振り返り。(2～3h)</p>
時間外での学修	<p>各発表については、内容の充実した資料作成を心がけてください。発表は、定められた時間の中で、より中身の濃い発表ができるように準備を進めてください。各テスト、調査、課題については期限を厳守すること。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：31～46時間】</p>
受講学生へのメッセージ	<p>鑑賞に当たっては服装等、マナーを守り、何事も学ぶ姿勢で鑑賞しましょう。他者の調査内容や発表姿勢を参考にして、自分の知識や表現力を磨いていきましょう。</p> <p>オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。</p>

【3W5S217】奏法研究 I		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	鈴木 孝育						
資格・制限等	Wコース必修						
授業内容	各自が楽器を演奏する上で必要なベーシックとなる方法論を身につけます。異種楽器によるアンサンブルを通して、演奏技術、表現能力、各奏者間のコミュニケーション能力を磨きます。前期は特に移調を学修した上で、楽曲を自分たちの編成に合うようにアレンジする能力と、美しいハーモニーの響かせ方を身につけます。						
実務家教員	吹奏楽指導者（含 高等学校教員）35年						
授業方法	講義、ディスカッション、個人レッスン、グループレッスン、レッスン聴講、など多彩な活動を通して研鑽します。時に、視聴覚教材も使用します。また、発表等を録音し、それを聴くことにより、演奏成果をフィードバックします。						
到達目標	知識・理解	異種楽器のアンサンブルを遂行するために美しいハーモニーを響かせるための基本的な知識や方法を理解できる。			◎		
	思考・判断・表現	小さなアンサンブルを通して、各自が持つ積極性、運営力やコミュニケーション力を使い、楽譜を深く理解した上で、音楽性を伴った表現豊かな演奏ができる。			◎		
	技能	スムーズな移調ができるとともに響きを同調させ、バランスをとることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	感動を生むくらいの調和、自発性、総合的音楽性を養うために深く探求することができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		10	10	30	-	50
	小テスト・課題提出		20	20	-	-	40
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	受講態度は、課題提出状況や受講姿勢を含めて総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。						
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）						
課題に対するフィードバック	小テストや課題は、個々の取り組みや学びを確認し、質問にはコメントを返します。						
テキスト	随時プリント配付						
参考書・教材	楽譜等その都度配布						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の進め方、授業の内容説明等 [課題（準備・復習・予習）]シラバスの熟読、本時学修内容の復習。スケール等の予習。（1～2h）						
2	基本的な奏法：スケール全調（長音階）、アルペジオ。 [課題（復習・準備）]本時学修内容の復習。小テスト（スケール全調、アルペジオ）の予習。						
3	スケール全調（長音階）、アルペジオの確認。チューニングの方法。 [課題（準備、復習）]事前に自分の音程の癖の把握しておく。苦手な調のスケール・アルペジオ、及び短音でのピッチ合わせの練習。（1～2h）						
4	記譜の方法、楽譜について。実際に楽譜を書く練習。 [課題（復習）]本時学修内容（記譜の方法）の復習及び、練習課題に取り組む。（1～2h）						
5	移調の基礎知識と移調楽器について [課題（復習）]本時学修内容（各移調楽器の特徴、調性）の復習及び、練習課題に取り組む。（1～2h）						
6	移調の方法と実践 [課題（復習・予習）]本時学修内容（管楽器における移調の実践方法）の復習及び、練習課題に取り組む。小テスト（記譜・移調）の予習。（1～2h）						
7	ハーモニー感のトレーニング① 和音を美しく響かせる [課題（復習）]平均律と純正律の理解を深める。第3音の音程について理解する。次回までに練習すべき課題を個別に設定する。						
8	ハーモニー感のトレーニング② 音程・ハーモニーのトレーニング [課題（復習）]和音からの音程の取り方に留意して、客観的に音程をチェックする。次回までに練習すべき課題を個別に設定する。						
9	移調のトレーニングを含めた音楽作り① コラール [課題（復習）]美しいハーモニーの組み立て方を考えて練習する。次回までに練習すべき課題を個別に設定する。（1～2h）						
10	移調のトレーニングを含めた音楽作り② ハーモニー・トレーニングのための小品集 [課題（復習）]自分たちの編成に合うように移調し、他パートとの調和を考えて練習する。次回までに練習すべき課題を個別に設定する。（1～2h）						
11	移調のトレーニングを含めた音楽作り③ ハーモニー・トレーニングのための小品集 [課題（復習）]自分たちの編成に合うように移調し、他パートとの調和を考えて練習する。次回までに練習すべき課題を個別に設定する。（1～2h）						
12	他のアンサンブル作品を自分たちの編成に合うように編曲する① ハーモニー・トレーニングのための小品集 [課題（復習）]美しいハーモニーが成立するように音を選び編曲し、他パートとのバランスを考えて練習する。次回までに練習すべき課題を個別に設定する。（1～2h）						
13	他のアンサンブル作品を自分たちの編成に合うように編曲する② ハーモニー・トレーニングのための小品集 [課題（復習）]美しいハーモニーが成立するように音を選び編曲し、他パートとのバランスを考えて練習する。次回までに練習すべき課題を個別に設定する。（1～2h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
14	他のアンサンブル作品を自分たちの編成に合うように編曲する③ ハーモニー・トレーニングのための小品集 [課題 (復習・予習)] 美しいハーモニーが成立するように音を選び編曲し、他パートとのバランスを考えて練習する。次回までに練習すべき課題を個別に設定する。小テスト (ハーモニー) の予習。(1~2h)
15	前期まとめ 試験対策 [課題 (復習)] 本時学修内容 (1回から14回までの内容全て) の復習 (1~2h)
時間外での学修	基礎練習を日頃から行い身体にしみ込ませましょう。実際の演奏には、基礎となる理論の学修も必要です。授業時間外で楽器の練習や研究の実践が必要です。気を抜かず取り組んでください。【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：30時間】
受講学生へのメッセージ	履修学生は授業内容に沿った個人練習 (予習・復習) と学修内容の復習を必要不可欠とします。授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組みましょう。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【3W5A218】奏法研究Ⅱ		音楽総合学科		2年後期		
		1単位	必修	演習	30時間	
教員	鈴木 孝育					
資格・制限等	Wコース必修					
授業内容	各自が楽器を演奏する上で必要なベーシックとなる方法論を身につけます。特に後期は、メロディの歌い方や、様々なジャンルのリズムについて学修します。また、ウインドアンサンブルにおいて必要な表現記号の研究、指揮の見方、他の楽器との調和やバランス感覚等の基本的な能力を養います。自分の考え方や音楽性をどのように演奏に結びつけるか実際に演奏を通して研究します。					
実務家教員	吹奏楽指導者（含 高等学校教員）35年					
授業方法	講義、ディスカッション、個人レッスン、グループレッスン、レッスン聴講、など多彩な活動を通して研鑽します。時に、視聴覚教材も使用します。また、発表等を録音し、それを聴くことにより、演奏成果をフィードバックします。					
到達目標	知識・理解	異種楽器のアンサンブルを遂行するためのメロディやリズムに関する基本的な知識や演奏方法を理解できる。			◎	
	思考・判断・表現	小さなアンサンブルを通して、各自が持つ積極性、運営力やコミュニケーション力を使い、楽譜を深く理解した上で、音楽性を伴った表現豊かな演奏ができる。			◎	
	技能	学修内容を実際の演奏や創作に活用できる。			◎	
	関心・意欲・態度	感動を生むくらいの調和、自発性、総合的音楽性を養うために深く探求することができる。			△	
	備考	◎・○・△の記号は、音楽総合学科のDP・到達目標との結びつきの強さを示しています。				
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	10	10	30	-	50
	小テスト・課題提出	20	20	-	-	40
	受講態度	-	-	-	10	10
	合計(点)	30	30	30	10	100
評価の特記事項	受講態度は、課題提出状況や受講姿勢を含めて総合的に評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。					
ICT活用	ICTを活用した自主学習支援（Googleフォーム、学生ポータル）					
課題に対するフィードバック	小テストや課題は、個々の取り組みや学びを確認し、質問にはコメントを返します。					
テキスト	随時プリント配付					
参考書・教材	楽譜等その都度配布					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	ガイダンス、授業の進め方、授業の内容説明等 [課題（準備・復習・予習）]シラバスの熟読、本時学修内容の復習。スケール等の予習。（1～2h）					
2	基本的な奏法：スケール全調（短音階）、アルペジオ。 [課題（復習・予習）]本時学修内容の復習。小テスト（スケール全調、アルペジオ）の予習。					
3	スケール全調（短音階）、アルペジオの確認。和音の中での音程の取り方。 [課題（復習）]苦手の調のスケール・アルペジオ、及び和音の中での音程を取る練習をする。（1～2h）					
4	発音のそろえ方、呼吸、タイミングの統一。 [課題（準備、復習）]楽器の違いによる発音の時差を調べておく。自分の楽器の特性と他楽器とのあわせ方を研究する。（1～2h）					
5	メロディの演奏法① セレナーデ（J.ハイドン） [課題（復習）]フレージング、音の重みのかけ方、倚音、場面転換などの演奏法を理解し、自分の楽器で演奏できるようにする。（1～2h）					
6	メロディの演奏法② アヴェ・マリア（J.S.バッハ/C.ぐの一） 歌の翼幻想曲（F.メンデルスゾーン/H.ステックメスト） [課題（復習）]長い音のメロディの構成法や、さまざまなアーティキュレーションに対する対応の仕方を理解し、自分の楽器で演奏できるようにする。（1～2h）					
7	リズム感のトレーニング ハンドクラッピングによる練習 [課題（復習）]4分音符、8分音符、16分音符、三連符のリズムを確実に体得するまで練習する。（1～2h）					
8	リズムの分析① クラシック 様々な音楽のリズム [課題（準備・復習）]様々な音楽のリズムパターンを調べる。実践の曲に即したリズムのノリを体感するまで練習する。（1～2h）					
9	リズムの分析② ジャズ&ポップス・スタディ [課題（復習）]ジャズ&ポップスの様々なリズムやノリについて理解する。次回の実践のために十分なイメージトレーニングをする。（1～2h）					
10	リズムの分析③ ジャズ&ポップス・スタディ [課題（復習・予習）]ジャズ&ポップスの様々なリズムやノリについて、CDを聞きながら、実際に自分の楽器で演奏してみる。小テスト（メロディ・リズム）の予習。（1～2h）					
11	ウインドアンサンブルスタディ① 表現記号、強弱記号などの研究。 主にウインドアンサンブル授業で取り上げる曲を中心に行う [課題（復習）]本時に使用する楽譜の記号を事前に全て調べる。本時学修内容の復習（1～2h）					
12	ウインドアンサンブルスタディ② 指揮の見方の研究。 主にウインドアンサンブル授業で取り上げる曲を中心に行う [課題（予習・復習）]本時に使用する楽譜について、指揮を注意してみる箇所を一考しておく。本時学修内容の復習（1～2h）					
13	ウインドアンサンブルスタディ③ 他の楽器との調和。 主にウインドアンサンブル授業で取り上げる曲を中心に行う [課題（復習）]本時間中に録画したものを客観的に聞いて改善する。（1～2h）					

内容	
実施回	授業内容・目標
14	ウインドアンサンブルスタディ④ 作品の背景と作者。 主にウインドアンサンブル授業で取り上げる曲を中心に行う [課題 (復習・予習)]本時に使用する楽譜について、作品の背景と作者が実際の演奏にどう影響するかを確認する。小テスト (ウインドアンサンブル授業で取り上げる曲) の予習。(1~2h)
15	後期まとめ 試験対策。 [課題 (復習)]本時学修内容 (1回から14回までの内容全て) の復習(1~2h)
時間外での学修	基礎練習を日頃から行い身体にしみ込ませましょう。実際の演奏には、基礎となる理論の学修も必要です。授業時間外で楽器の練習や研究の実践が必要です。気を抜かず取り組んでください。【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：30時間】
受講学生へのメッセージ	履修学生は授業内容に沿った個人練習 (予習・復習) と楽曲の下調べ等の研究の実践を必要不可欠とします。授業の性格上、欠席や遅刻が全体の音楽作りや授業の進行に多大な迷惑をかけることを承知の上で自覚と責任の心を持って授業に取り組みましょう。 オフィスアワーは、講義終了後、教室で行います。

【3R6S227】楽器奏法Ⅲ		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	佐溝 佳奈						
資格・制限等	Rコース必修						
授業内容	リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくは、プロの技術者とは呼べません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用される代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を修得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。						
実務家教員							
授業方法	各楽器に分かれ5～6週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。						
到達目標	知識・理解	各楽器の演奏上の基本的な構造が理解し、その説明ができる。			△		
	思考・判断・表現	リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。			△		
	技能	各楽器の基本的な奏法を身につけ、ロングトーン・スケール・タンギングなどの奏法が容易にできる。			◎		
	関心・意欲・態度	各楽器を演奏し修理の依頼者に対し故障の原因や修理での改善点がある程度説明できる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	各楽器の修得力		10	10	-	-	20
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は最終試験の受験資格はありません。						
I C T 活用							
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、奏法や理解度確認テスト実施後、アドバイスをを行う。						
テキスト							
参考書・教材	楽譜等その都度配付。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、授業の説明、レッスンのグループ分け、レッスンの受け方 [課題（準備）]次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)						
2	楽器1レッスン1:グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題（準備）]レッスン楽器の練習(1～2h)						
3	楽器1レッスン2:グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（準備）]レッスン楽器の練習(1～2h)						
4	楽器1レッスン3:グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（準備）]レッスン楽器の練習(1～2h)						
5	楽器1レッスン4:グループA(F1) B(C1) C(Sax) D(Tp) E(Hr) F(Tb) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（準備）]次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)						
6	楽器2レッスン1:グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)						
7	楽器2レッスン2:グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)						
8	楽器2レッスン3:グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)						
9	楽器2レッスン4:グループA(C1) B(Sax) C(Tp) D(Hr) E(Tb) F(F1) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（準備）]次回レッスン楽器の基礎知識(1～2h)						
10	楽器3レッスン1:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 楽器の取り扱い(組み立て、演奏前のメンテナンス、演奏後の手入れなど)、基本奏法 [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)						
11	楽器3レッスン2:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 基本奏法(音の出し方、ロングトーン等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)						
12	楽器3レッスン3:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) 基本奏法(ロングトーン、スケール等)注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の練習(1～2h)						
13	楽器3レッスン4:グループA(Sax) B(Tp) C(Hr) D(Tb) E(F1) F(C1) スケール、簡単な楽曲、実技試験 注:各楽器によってレッスン方法は異なる [課題（復習）]レッスン楽器の復習(1～2h)						
14	不得意楽器のレッスン1 学期末実技試験対策 [課題（準備）]レッスン楽器の練習(1～2h)						
15	不得意楽器のレッスン2 学期末実技試験対策 [課題（準備）]レッスン楽器の練習(1～2h)						

時間外での学修	短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、修得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：30時間】
受講学生へのメッセージ	授業前に楽器の準備をしてください。レッスンに当たっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかりと聞いて行ってください。オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。



【3R6A228】楽器奏法IV		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	必修	演習	30時間		
教員	佐溝 佳奈						
資格・制限等	Rコース必修						
授業内容	リペア技術者にとって修理品の点検は不可欠、修理をしても点検するすべがなくは、プロの技術者とは呼べません。楽器奏法の授業では、フルート・クラリネット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンといった吹奏楽で使用される代表的な管楽器のレッスンを受けることにより、各楽器の基本的な奏法を修得し楽器検品などに活かします。また演奏することによって、その楽器の機構や特徴を学ぶことができます。						
実務家教員							
授業方法	各楽器に分かれ5～6週かけてレッスンを受け各楽器の演奏技術を修得します。						
到達目標	知識・理解	各楽器の演奏上の基本的な構造が理解し、その説明ができる。			△		
	思考・判断・表現	リペア修理後の楽器の状態が演奏によってある程度把握できる。			△		
	技能	各楽器の基本的な奏法を身につけ、基本奏法の他に簡単な楽曲の演奏ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	楽器の扱い方、初歩の演奏指導ができ、初級者への楽曲の指導ができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	-	60	-	60
	各楽器の修得力		10	10	-	-	20
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		10	10	60	20	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は最終試験の受験資格はありません。						
I C T活用							
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、奏法や理解度確認テスト実施後、アドバイスをを行う。						
テキスト							
参考書・教材	楽譜等その都度配付。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	楽器レッスン1レッスン1：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 1年の復習 基本奏法1 ロングトーン スケール 等 [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)						
2	楽器レッスン1レッスン2：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 1年の復習 基本奏法2 タンギング 等 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)						
3	楽器レッスン1レッスン3：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 楽曲レッスン1 課題曲の譜読み 等 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)]課題曲の練習(1～2h)						
4	楽器レッスン1レッスン4：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 楽曲レッスン2 課題曲仕上げ 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(準備)]次回レッスン楽器の練習(1～2h)						
5	楽器レッスン2レッスン1：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 1年の復習 基本奏法1 ロングトーン スケール 等 [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)						
6	楽器レッスン2レッスン2：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 1年の復習 基本奏法2 タンギング 等 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)						
7	楽器レッスン2レッスン3：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 楽曲レッスン1 課題曲の譜読み 等 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(準備、復習)]課題曲の練習(1～2h)						
8	楽器レッスン2レッスン4：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 楽曲レッスン2 課題曲仕上げ 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(準備)]次回レッスン楽器の練習(1～2h)						
9	楽器レッスン3レッスン1：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 1年の復習 基本奏法1 ロングトーン スケール 等 [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)						
10	楽器レッスン3レッスン2：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 1年の復習 基本奏法2 タンギング 等 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(復習)]レッスン楽器の練習(1～2h)						
11	楽器レッスン3レッスン3：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 楽曲レッスン1 課題曲の譜読み 等 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(準備、復習)]課題曲の練習(1～2h)						
12	楽器レッスン3レッスン4：グループA(F1) B(C1) C (Sax) D (Tp) E (Hr) F (Tb) 楽曲レッスン2 課題曲仕上げ 注：各楽器によってレッスン方法は異なる [課題(準備)]次回レッスン楽器の練習(1～2h)						
13	不得意楽器のレッスン1 学期末実技試験対策 [課題(準備)]レッスン楽器の練習(1～2h)						
14	不得意楽器のレッスン2 学期末実技試験対策 [課題(準備)]レッスン楽器の練習(1～2h)						
15	不得意楽器のレッスン3 学期末実技試験対策 [課題(準備)]レッスン楽器の練習(1～2h)						

時間外での学修	短期間のレッスンの中で基本的な奏法を学ばなければいけないため、修得するためには強い意志と、努力が必要となります。与えられた課題をこなすためにしっかりと練習しましょう。【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：30時間】
受講学生へのメッセージ	授業前に楽器の準備をしてください。レッスンに当たっては楽器の取り扱いなど担当教員の指示をしっかりと聞いて行ってください。 オフィスアワーは授業前後の休み時間に教室で実施。

【3R6S222】楽器業界ビジネス I		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	木下 紘治郎						
資格・制限等	Rコース必修						
授業内容	楽器業界で即戦力として通用する幅広い知識を修得します。業界の過去から現在を知り将来を展望します。(温故知新)楽器業界の製・配・販(製造業、卸業、小売業)の流通の仕組みを学び、それぞれの業態を学びます。又、業務を遂行する上で必要な関連知識(中古楽器販売、楽譜出版、著作権)について学びます。楽器店に就職すると担当する可能性の高い「学校販売業務(学販)」「店頭(店舗)販売業務」の実際について学びます。楽器業界人の基本は豊かな感性と人間性及びコミュニケーション能力です。それらを実例から学びます。						
実務家教員	楽器製造販売会社勤務・35年						
授業方法	講義形式で行います。						
到達目標	知識・理解	楽器業界で即戦力として通用する幅広く豊富な知識を修得できる。楽器業界の流通、関連業務の業態を知ることが出来、卒業後の就職に生かせる。			◎		
	思考・判断・表現	プレイングセールスエンジニアとしての優れた思考、感受性と判断力、表現力を持っている。			○		
	関心・意欲・態度	学校教育や吹奏楽活動の現状に関心を持ち、学校から信頼される人間性豊かな人材を目指す。営業やリペアを実施する際、意欲的にお客様と良好な関係を築くことが出来る。コミュニケーションを築こうとする意欲がある。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		80	10	-	-	90
	レポート		3	5	-	2	10
	合計(点)		83	15	-	2	100
評価の特記事項	ICT活用						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題やレポートにコメントを返します。						
テキスト							
参考書・教材	授業ごとに自作資料を配付します。管楽器・打楽器価格一覧表2020、楽器別カタログを使用します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	授業のガイダンス、「楽器業界ビジネス講座で学ぶ事」、楽器研究Iで学んだプレイング・セールス・エンジニアについての再確認をする。今、求められる新しいタイプの業界人とは。 [課題(復習)]学修内容を復習し年間の授業の内容と流れを確認すること。(1h)						
2	管打楽器業界の歴史 日本における管楽器メーカーの歴史の流れを知り現在を理解する。(クラリネット製造、フルート製造、金管楽器製造の3項目) [課題(復習)]学修内容を復習。歴史を学ぶ意図・目的を考えること(1h)						
3	製造業(1) 楽器の歴史と楽器製造の歴史について。楽器製造業とは。管・打楽器メーカーの業務① [課題(復習)]学修内容の復習。(1h)						
4	製造業(2) 楽器メーカーの業務②(生産開発、研究開発、流通)及び楽器製造の方向性について管楽器を中心に行う。スクールバンドで売られているメーカー。 [課題(復習)]学修内容の復習。国内外の売れ筋楽器メーカーを覚えること。(1h) 管楽器・打楽器価格一覧表で国内外のメーカーを確認しておくこと。						
5	卸業 卸業の業態 業務内容(6つの機能) 日本の主要楽器関連卸商社を研究する。 [課題(復習/作成)]学修内容の復習(1h) 日本の主要楽器関連卸商社一覧表を作成する(提出課題) ※提出は本年6月18日(金)授業時						
6	小売業(1) 小売業の業態(楽器小売商としての楽器店の業態) 楽器店が人間中心型小売店と分類される理由。 [課題(復習)]学修内容の復習。(1h) 楽器店から楽器業界の第一線としての業務を学ぶ。機会を見つけて楽器店を訪問する事。(必ず客として訪問することを心掛ける)						
7	小売業(2) 楽器店業務”伸びる楽器専門店とは”及び店頭(店舗)業務。企業にとって重要な課題であるコンプライアンスについて考える。 [課題(復習)]学修内容の復習。(1h) 楽器店で活躍する自分の姿をイメージする事。						
8	中古楽器販売 古物営業法と古物商、中古楽器の査定項目について(リペア技術者に求められる能力) [課題(復習)]学修内容の復習。(1h) 中古楽器販売の現状を楽器店、インターネット等で確認すること。						
9	音楽著作権(1) 音楽著作権とは。音楽著作権法、著作隣接権について。 [課題(復習)]学修内容の復習。(1h) 著作権(商標権)の本質を考え、理解すること。						
10	音楽著作権(2) 二次的著作物、著作権の保護期間、JASRACの業務と著作権使用許可申請の実際。 [課題(復習)]学修内容の復習(1h) 音楽著作権は楽器業界人としての必須の知識である。プロフェッショナルな知識が求められる。						
11	楽譜出版業と楽譜の知識(楽譜出版業の業態) 楽譜出版業界組織と出版業界の課題について。 管打楽器関連楽譜の知識、コンサートプログラム作成のヒント。 [課題(復習/作成)]学修内容の復習。(1h) 高校吹奏楽部定期演奏会のプログラムを作成すること。(提出の必要はありません。)						
12	学校販売(1) 学校販売(学販)の業態及びその意義と本質。楽器店に就職すると担当する可能性の高い業務。 [課題(復習/予習)]学修内容の復習と予習。(1h) 小・中・高校で出会った、学販担当者の存在と仕事内容を思い出し確認しておくこと。						
13	学校販売(2) 学校及び関連組織。 [課題(復習/予習)]学修内容の復習と予習(1h)。小・中学校の年間行事、活動について自身の体験をまとめておくこと。						

内容	
実施回	授業内容・目標
14	学校販売(3) 学校の年間活動と営業の実際。①教育楽器 [課題(復習)]学修内容の復習。(1h) 学校の年間活動と学販業務との関連の理解を深めること。
15	学校販売(4) 学販営業の実際。②管打楽器 [課題(復習)]学習内容の復習。(1h) 来週、前期定期試験(筆記試験)を行う。準備を怠らないこと。 夏期休暇課題提示「我が国における吹奏楽活動の重要なポイントである中学校の吹奏楽活動の活性化について」※10月1日(金)授業時提出。
時間外での学修	楽器店は楽器業界の第一線として重要です。楽器店以外の店舗からも多くを学べます。吹奏楽及び管打楽器関連専門誌、楽器関連業界誌、インターネット等で最新情報を学び、自分だけの資料として記録しましょう。”将来に必ず活かされます”。吹奏楽コンクール、マーチングコンクール・コンテスト視察で楽器業界人としての視点をもって観察、学びを行って下さい。【この科目で求める授業外での総学修時間：15時間】※求められる授業外学修時間は復習、予習に充てられるものです。この時間外にも是非意欲的に多くを学んでください。
受講学生へのメッセージ	プレイング・セールス・エンジニアに興味を持ってください。この能力は楽器業界で仕事をする上で大きな力になります。オフィスアワー：質問等は授業前に非常勤講師控室、授業後に教室で対応します。

【3R6A223】楽器業界ビジネス II		音楽総合学科		2年後期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	木下 紘治郎						
資格・制限等	Rコース必修						
授業内容	<p>これまでに学んだ知識を生かす「営業力」「企画力」を学びます。お客様への提案、説得には営業技術とともに人間としての優秀さ及びコミュニケーション能力が重要です。次の3つの課題から修得します。</p> <p>1. 営業の基本 2. ロールプレイング 3. グループ学修活動「楽器店における管楽器フェア企画及びプレゼンテーション」をこれまでの授業のまとめとして行います。強い参画意識の中で積極的な討論、必要な項目の調査、資料・宣材物の制作等の仕事の分担、グループの総意であるプレゼンテーションを行います。</p>						
実務家教員	楽器製造販売会社勤務・35年						
授業方法	講義形式及びグループ学修活動（6～7名のグループ）で行います。						
到達目標	知識・理解	一般的な営業活動の基礎的な知識を修得し、楽器業界を幅広く知り、そこで働く仕事を予測、想像できる。（シミュレーションができる）			◎		
	思考・判断・表現	プレイングセールスエンジニアとしての臨機応変な思考、判断力、感受性及び表現力を有する。			○		
	関心・意欲・態度	新情報収集（業界、学校、音楽活動）に敏感である。会社、学校現場から信頼される人間性を身につける努力ができる。チームの一員として積極的に活動できる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		60	10	-	-	70
	グループ活動		5	5	-	5	15
	レポート		8	7	-	-	15
	合計(点)		73	22	-	5	100
評価の特記事項	ICT活用						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題やレポートにコメントを返します。						
テキスト							
参考書・教材	自作資料を配付します。管楽器・打楽器価格一覧表2020年度版、楽器別カタログを使用します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	営業の基本(1) 会社から信頼される営業担当者について具体的に学び、求められる担当者像を理解する。新入社員が心掛けないといけないことを現場の先輩社員のアンケートから学ぶ。 [課題(復習)]学修内容の復習(1h)						
2	営業の基本(2) 社会人としての基本姿勢 「学生と社会人の違い」「会社組織とは」「報連相の重要性」新人が陥りやすい指示待ち人間とは。 [課題(復習)]学修内容の復習。社会人となった時に生かせるよう”今の自分を考える”(1h)						
3	営業の基本(3) 基本的な営業マナー 小売店等での営業例から学び、学販、一般販売、店頭販売の実際のシミュレーションができる。AIDMAの法則とAISASの法則について。 [課題(復習)]学修内容の復習。(1h) 多くの営業現場で学ぶこと。観察力を高める努力をすること。						
4	営業の基本(4) 電話対応、名刺交換、メモの重要性 コミュニケーション能力を高める基本を理解する。 [課題(復習)]学修内容の復習。今、身に付けなければならない課題として取り組むこと。(メモの習慣、諸動作等の練習)を行うこと。(1h)						
5	営業の基本(5) 接客の基本① 知識と営業活動の実際を知り、実践力の基本としてロールプレイング(ロープレ)を行う。併せてこれまで学んだ知識を確認する。 [課題(復習/作成)]学修内容の復習。(1h) ロープレ課題(実践例を学んだあと個人で管楽器店頭販売の流れのストーリーを作成する)(次週提出)発表はグループ分けし個人で作成された作品を一つ選び役割を決め行う)カタログ、楽器本体を使用する。						
6	営業の基本(6) 接客の基本②ロープレ実習(発表)グループ作品を選び読み合わせと練習後発表を行う。知識を実践に生かす基本を学ぶ。 [課題(復習)]今後も機会を見つけ学生同士でロープレをすること(1h)						
7	企画(1) 企画とは…販売促進企画(販促企画)① 営業効果を上げるための工夫を学ぶ。 [課題(復習)]学修内容の復習。様々な業種の興味深いと感じたチラシを収集すること。(1h)						
8	企画(2) 販促企画② 4つのプロモーションについて。宣材物について…チラシ、POP・DMの研究と催事動員の重要性について。 [課題(復習)]学修内容の復習。様々な店舗を観察し、学ぶ習慣をつけること(1h)						
9	企画(3) 楽器店における”春の管楽器フェア”について グループで活動する。グループ分けし架空の楽器店を作り、そこでのフェア企画。 ※実際の楽器店管楽器フェアを学ぶ。討議内容の提示。 [課題(復習/準備)]学修内容の復習。春の管楽器フェアの概要を十分に理解する事。個人企画書作成(5W3Hで考える)次週提出(1h)						
10	企画(4) グループ討議①(催事概要についての討議(個人で作成した企画書をたたき台として考え、グループの方針を決める) [課題(復習/作成)]学修内容の復習。グループで討議された内容の確認と、次回への取り組み、まとめを行うこと。(1h)						
11	企画(5) グループ討議②(催事の具体的な内容決定、企画書作成)実施日時、会場、対象、展示規模、会場レイアウト、動員、イベント、宣材物(チラシ、POP、DMなど)の内容決定。 [課題(復習/準備)]学修内容の復習。具体的な内容を確認し、メンバー個々の役割分担を明確にする。(1h)						
12	企画(6) グループ討議③(企画書提出、資料作成)会場レイアウト、催事会場等、宣材物作成の作業をする。 [課題(準備/作成)]授業内では時間が不足する。作業役割を決め時間外でも対応すること。(1h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
13	企画(7) 最終まとめ(プレゼンテーション準備) [課題(準備)]プレゼン資料、進め方を確認すること。(1h)
14	企画(8) グループ発表・企画プレゼンテーション(質疑応答と評価) [課題(実習/評価)]他グループの発表、自グループ評価を検証すること。(1h)
15	普及業務について「夏期課題”中学校における吹奏楽活動を考える”のまとめ」「これまでの授業について」のまとめ プレーイング・セールス・エンジニアとしての能力を確認する。これからの仕事への取り組み及び目標の重要性について」 [課題(復習)]この科目で学んだことを確認すること。知識を生かせる知恵を身につけること。(1h)
時間外での学修	POPやチラシの作成は授業内では不十分です。時間外でも積極的に取り組んでください。各方面のチラシを収集し研究しましょう。チラシは情報を知るだけでなく、そこに込められた思いをくみ取ってください。この科目で求める授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	業界人としての視点をもって多くの現場を見てください。楽器業界に就職した際のシュミレーションが出来ます。グループ活動では個人の参画意識が重要です。やむを得ない場合を除き、授業は休まないよう個人の責任感を強く意識してください。オフィスアワー：質問等は授業前は非常勤講師控室で、授業後には教室で対応します。

【3R6S224】楽器店実習		音楽総合学科		2年前期			
		1単位	選択	演習	30時間		
教員	服部 篤典・渡辺 博夫・松永 幸宏						
資格・制限等	Rコース必修						
授業内容	主に愛知県、岐阜県内の楽器店（管楽器専門店、総合楽器店）にインターン実習で出向き、店頭での楽器等販売や、日頃の楽器店業務を理解する。事前に、実習での心構え等を学修したのち実習へ向かいます。実際の楽器店業務全般に携わることで、楽器店従業員、リペア技術者としての基礎を学び、就職した際、スムーズに業務への対応が出来るようになる。						
実務家教員	服部：オーケストラ・25年、渡辺：メーカー修理職・34年、松永：楽器店修理販売業・19年						
授業方法	講義においては、心構え等を学修したあと、各楽器店へ出向き、実際の楽器店全般業務を行います。実習後は、実習内容や反省点についてレポート提出します。						
到達目標	知識・理解	各楽器店担当者のアドバイスを理解し、的確に業務遂行ができる。			○		
	思考・判断・表現	楽器店の業務内容について十分理解をすることによって、楽器店就職意識をより明確にする。			○		
	技能	各楽器の構造や演奏技術に関する知識を持ってお客様と接することができる。また、楽器店担当者からの依頼業務について、自身で考え解決ができる。			○		
	関心・意欲・態度	楽器店担当者、マネージャー及びお客様とのコミュニケーション作りが円滑にできる。			◎		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	言語挨拶・整頓美化		20	-	-	-	20
	迅速化		-	20	-	-	20
	接客態度		-	-	20	-	20
	総合所見		-	-	-	40	40
	合計(点)		20	20	20	40	100
評価の特記事項	実習評価用紙に基づいて算出しますが、総合所見コメントについても加味します。						
ICT活用	学生ポータル等で、ICTを活用した自主学習支援を行います。						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、課題やレポートにコメントして返します。						
テキスト	ありません						
参考書・教材	楽器店担当者から必要資料の配付はあります。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス、専門店や総合楽器店の形態について調べる。 受け入れ可能について各楽器店へ打診、人数、日程調整他本人の意向についても確認する。 【課題（準備）】楽器店実習の意味合いについても理解する。（1h）						
2	楽器店業務について（店頭販売、リペア、音楽教室等） 実施内容を楽器店オーナー、マネージャー経由でご担当者に説明し理解を得る。 【課題（復習）】楽器店のスタイルはそれぞれ異なった職種で成り立っていることを理解する。（2h）						
3	楽器店業務について（店頭販売、リペア、音楽教室等） 将来の就職先と言う意味合いも検討し、愛知、岐阜県内楽器店への人選を行う。 【課題（復習・他）】学んだ内容を復習し、楽器店業務についてまとめる。（2h）						
4	実習スケジュール確認 それぞれの学生に対して日程調整を行う。 【課題（復習・他）】訪問先の楽器事情を理解する。（2h）						
5	楽器店実習に臨む心構え等説明 楽器店オーナー宛に決定学生名等ご連絡 【課題（復習）】服装や言葉使い等注意する事を理解する。前日までに代表者が、電話を入れ確認すること。（1.5h）						
6	実習開始 終了後にレポート作成及び担当者からのヒアリング実施 【課題（復習・他）】業務レポート作成を忘れないように。また、担当者から指摘があった場合、明日からの行動をよく考える事。（2h）						
7	実習開始 終了後にレポート作成及び担当者からのヒアリング実施 【課題（復習・他）】業務レポート作成を忘れないように。また、担当者から指摘があった場合、明日からの行動をよく考える事。（2h）						
8	実習開始 終了後にレポート作成及び担当者からのヒアリング実施 【課題（復習・他）】業務レポート作成を忘れないように。また、担当者から指摘があった場合、明日からの行動をよく考える事。（2h）						
9	実習開始 終了後にレポート作成及び担当者からのヒアリング実施 【課題（復習・他）】業務レポート作成を忘れないように。また、担当者から指摘があった場合、明日からの行動をよく考える事。（2h）						
10	実習開始 終了後にレポート作成及び担当者からのヒアリング実施 【課題（復習・他）】業務レポート作成を忘れないように。また、担当者から指摘があった場合、明日からの行動をよく考える事。（2h）						
11	実習を終えてヒアリング実施 評価用紙を絡め、個々の学生と面談実施 【課題（復習・他）】実際に働いてみて、楽器店をどう思ったか考える。（2h）						
12	実習を終えてヒアリング実施 評価用紙を絡め、個々の学生と面談実施 【課題（復習・他）】実際に働いてみて、楽器店をどう思ったか考える。（2h）						

内容	
実施回	授業内容・目標
13	お礼状の書き方や、就職に対して意欲の確認 【課題（復習・他）】社会人マナーでの令状投函の重要性等をよく理解する。（1h）
14	お礼状の書き方や、就職に対して意欲の確認 【課題（復習・他）】社会人マナーでの令状投函の重要性等をよく理解する。（1h）
15	まとめ 楽器店希望だけではなく、社会人として必要なものを十分に理解し、卒後の進路を考える。 【課題（復習・他）】実習で学んだ全体の内容を振り返り、総合的にまとめを行う。（5h）
時間外での学修	各楽器店のHPを見ることで、店舗の独自性や主力商品等を理解して、単なる実習経験ではなく、楽器店の様々な業務内容を理解してください。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】
受講学生へのメッセージ	初めて会う楽器店スタッフの方々や、環境の違いなどで緊張の連続になるかも知れませんが、いろんな事を吸収して下さい。挨拶は、元気にはっきりと。第一印象が決まってしまうので。オフィスアワーは、F101で毎週木曜日授業終了後に行います。



【3P1S212】卒業演奏 I (ピアノ)		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	Pコース必修						
授業内容	各々の希望する楽曲を1～2曲取り組み、演奏テクニックと表現力を高め、高度な演奏を目指します。						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンをを行います。音楽的知識や技術・表現力修得の確認のため、学修成果の発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。						
到達目標	知識・理解	作曲家や作品などについての知識を身に付け、音楽的知識を十分に活用し、楽曲理解に繋げることができる。			○		
	思考・判断・表現	作品に対するイメージや考えのもと、演奏表現をすることができる。			◎		
	技能	卒業年次にふさわしい演奏技術を身に付けることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	自己の内面・感性を磨き、積極的な取り組みができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	35	35	-	70
	レポート		20	-	-	-	20
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		20	35	35	10	100
評価の特記事項	実技試験は任意の曲の演奏を最終試験（前期定期試験）で行います。レポートは取り組んでいる楽曲について研究したことを記述し提出してもらいます。フィードバックとしてレポートにコメントを返し、実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、最終試験（実技試験）の受験資格はありません。						
ICT活用							
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方 レッスン（1）選曲した曲のレッスン [課題(準備)] レッスンができるように準備しておく（2～3h）						
2	レッスン（2）課題の確認、譜読みの確認 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、譜読みが正確か確認をする（2～3h）						
3	レッスン（3）課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、スムーズに弾けるようにする（2～3h）						
4	レッスン（4）課題の確認、テクニックの向上 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、反復練習をしてテクニックを向上する（2～3h）						
5	レッスン（5）課題の確認、強弱・曲想 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、強弱、音楽用語などを理解して弾く（2～3h）						
6	レッスン（6）課題の確認、テンポアップ [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、徐々にテンポを上げて弾けるようにする（2～3h）						
7	レッスン（7）課題の確認、バランス [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、響きのバランスを考える（2～3h）						
8	レッスン（8）課題の確認、音色 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を研究する（2～3h）						
9	レッスン（9）課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、楽曲にふさわしい音楽表現をする（2～3h）						
10	レッスン（10）課題の確認、部分練習 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、演奏が困難な個所を反復練習し、演奏力を向上する（2～3h）						
11	レッスン（11）課題の確認、表現力 [課題(予習・復習)] レッスンの復習をし、表現力豊かな演奏ができるようにする（2～3h）						
12	レッスン（12）課題の確認、暗譜 [課題(復習)] レッスンの復習をし、暗譜に取り組む（2～3h）						
13	レッスン（13）学修成果の発表、課題の確認、確実な暗譜 [課題(復習)] レッスンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする（2～3h）						
14	レッスン（14）課題の確認、弾き込み [課題(復習)] レッスンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める（2～3h）						
15	レッスン（15）課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッスンの復習をし、音楽性を高め仕上げる（2～3h）						
時間外での学修	授業外での毎日の練習はもちろん、演奏会等に出席して様々な音楽を聴く、作曲家や作品について調べる、西洋の風景や歴史・文化に触れるなど、音楽的素養を更に身に付け、感性を磨き、自分の技術や音楽性を十分に表現できるよう幅広い学修を行いましょう。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間】						
受講学生へのメッセージ	心と頭と身体を使い、一音一音に心を込めた演奏を心掛けましょう。 オフィスアワーは研究室B206で毎週金曜日の午後です。						

【3P1A213】卒業演奏Ⅱ(ピアノ)		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	横井 香織						
資格・制限等	Pコース必修						
授業内容	各々の希望する楽曲を1～2曲取り組み、演奏テクニックと表現力を高め、高度な演奏を目指します。						
実務家教員	音楽教室講師・10年						
授業方法	演習を中心とした個人レッスンをを行います。音楽的知識や技術・表現力修得の確認のため、学修成果の発表も含めて授業を展開していきます。質問等は授業時に受け付けます。						
到達目標	知識・理解	作曲家や作品などについての知識を身に付け、音楽的知識を十分に活用し、楽曲理解に繋げることができる。			○		
	思考・判断・表現	作品に対するイメージや考えのもと、演奏表現をすることができる。			◎		
	技能	卒業演奏にふさわしい演奏技術を身に付けることができる。			◎		
	関心・意欲・態度	自己の内面・感性を磨き、積極的な取り組みができる。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	35	35	-	70
	レポート		20	-	-	-	20
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		20	35	35	10	100
評価の特記事項	実技試験は卒業演奏発表会として公共のホールで行います。レポートは取り組んでいる楽曲について研究したことを記述し提出してもらいます。フィードバックとしてレポートにコメントを返し、実技試験実施後に講評を行います。受講態度は学修への取組状況で評価します。全授業の3分の1以上欠席の場合、実技試験の受験資格はありません。						
ICT活用							
課題に対するフィードバック	毎週の課題については次回の授業でコメントし、指導に活かします。						
テキスト							
参考書・教材	個々に合わせて選択します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	レッスン(1) 選曲した曲のレッスン [課題(準備)] レッスンができるように準備しておく(2～3h)						
2	レッスン(2) 課題の確認、譜読みの確認 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、譜読みが正確か確認をする(2～3h)						
3	レッスン(3) 課題の確認、テクニック練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、スムーズに弾けるようにする(2～3h)						
4	レッスン(4) 課題の確認、テクニックの向上 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、反復練習をしてテクニックを向上する(2～3h)						
5	レッスン(5) 課題の確認、強弱・曲想 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、強弱、音楽用語などを理解して弾く(2～3h)						
6	レッスン(6) 課題の確認、テンポアップ [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、徐々にテンポを上げて弾けるようにする(2～3h)						
7	レッスン(7) 課題の確認、バランス [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、響きのバランスを考える(2～3h)						
8	レッスン(8) 課題の確認、音色 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音色を研究する(2～3h)						
9	レッスン(9) 課題の確認、音楽表現 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、楽曲にふさわしい音楽表現をする(2～3h)						
10	レッスン(10) 課題の確認、部分練習 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、演奏が困難な箇所を反復練習し、演奏力を向上する(2～3h)						
11	レッスン(11) 課題の確認、表現力 [課題(予習・復習)] レッソンの復習をし、表現力豊かな演奏ができるようにする(2～3h)						
12	レッスン(12) 課題の確認、暗譜 [課題(復習)] レッソンの復習をし、暗譜に取り組む(2～3h)						
13	レッスン(13) 学習成果の発表、課題の確認、確実な暗譜 [課題(復習)] レッソンの復習をし、確実に暗譜演奏ができるようにする(2～3h)						
14	レッスン(14) 課題の確認、弾き込み [課題(復習)] レッソンの復習をし、弾き込んで演奏力を高める(2～3h)						
15	レッスン(15) 課題の確認、仕上げ [課題(復習)] レッソンの復習をし、音楽性を高め仕上げる(2～3h)						
時間外での学修	授業外での毎日の練習はもちろん、演奏会等に出掛けて様々な音楽を聴く、作曲家や作品について調べる、西洋の風景や歴史・文化に触れるなど、音楽的素養を更に身に付け、感性を磨き、自分の技術や音楽性を十分に表現できるよう幅広い学修を行いましょ。【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：30～45時間】						
受講学生へのメッセージ	2年間の集大成となります。自分の学んだものが存分に発揮できるよう取り組みましょう。オフィスアワーは研究室B206で毎週金曜日の午後です。						

【3W5S221】卒業演奏Ⅰ(ウインドアンサンブル)		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	服部 篤典						
資格・制限等	Wコース必修						
授業内容	卒業演奏発表に向け正確な譜読み、演奏技術、個性を生かした表現力の向上を図る個人レッスンを行います。個々で決めた楽曲を、深く理解した上で如何に演奏で表現するかを研究します。						
実務家教員	オーケストラ25年						
授業方法	個々のレベル、進捗状況に応じた個人レッスンを行います。最終週に演奏会形式による発表を行います。						
到達目標	思考・判断・表現	楽曲を深く読み込み表現することができる。			○		
	技能	譜面を正確に演奏した後、個性を生かした表現力豊かな演奏ができる。			◎		
	関心・意欲・態度	演奏技術向上を目指し積極的に取り組むことができる。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	実技試験		-	10	50	-	60
	受講態度		-	10	10	20	40
	合計(点)		-	20	60	20	100
評価の特記事項	ICT活用						
課題に対するフィードバック	レッスン時に指摘された箇所が修正されているか否かを次週のレッスンでチェックします。						
テキスト							
参考書・教材	各自で決めた楽曲を購入してください。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	ガイダンス 授業の進め方、楽曲の決め方、練習法、レッスンに臨む姿勢などを詳細に説明。 「課題」復習・予習：説明事項を念頭に様々な楽曲を研究。(2h)						
2	楽曲決め準備 楽曲決定に向け個別指導。 「課題」復習：アドバイスを受けた内容を参考に楽曲を決める。(1h) 予習：正確な音に留意し練習。(1h~2h)						
3	個人レッスン 各音を正確に出せているかをチェック1。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：正確な音に留意し練習。(1h~2h)						
4	個人レッスン 各音を正確に出せているかをチェック2。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：アーティキュレーションに留意し練習。(1h~2h)						
5	個人レッスン アーティキュレーションのチェック1。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：アーティキュレーションに留意し練習。(1h~2h)						
6	個人レッスン アーティキュレーションのチェック2。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：強弱に留意し練習。(1h~2h)						
7	個人レッスン 強弱のチェック1。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：強弱に留意し練習。(1h~2h)						
8	個人レッスン 強弱のチェック2。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：フレージングに留意し練習。(1h~2h)						
9	個人レッスン フレージングのチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：表現記号、楽語などに留意し練習。(1h~2h)						
10	個人レッスン 表現記号、楽語などを演奏に反映させているかチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：個性を生かした表現に留意し練習。(1h~2h)						
11	個人レッスン 個々の個性が演奏に表現されているかチェック1。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：個性を生かした表現に留意し練習。(1h~2h)						
12	個人レッスン 個々の個性が演奏に表現されているかチェック2。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：伴奏譜を見て曲の流れに留意し練習。(1h~2h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
13	個人レッスン 伴奏合わせ1。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：伴奏譜を見て曲の流れに留意し練習。(1h~2h)
14	個人レッスン 伴奏合わせ2。 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所を中心に、次週発表に向けて仕上げ練習。(2h~3h)
15	発表 個別に演奏会形式で発表。 「課題」復習・予習：発表時の反省を踏まえ、実技試験に向け不得手な箇所を中心に練習。(2h~3h)
時間外での学修	課題としてレッスン時に指摘を受けた箇所の復習、次のレッスンに向けての予習を行ってください。 【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：30時間~45時間】
受講学生へのメッセージ	悔いの残らない演奏を期待します。 オフィスパワーは水曜日5限、木曜日4限

【3W5A222】卒業演奏Ⅱ(ウインドアンサンブル)		音楽総合学科		2年後期		
		2単位	必修	演習	30時間	
教員	服部 篤典					
資格・制限等	Wコース必修					
授業内容	卒業演奏発表に向け正確な譜読み、演奏技術、個性を生かした表現力の向上を図る個人レッスンを行います。個々で決めた楽曲を、深く理解した上で如何に演奏で表現するかを研究します。					
実務家教員	オーケストラ25年					
授業方法	個々のレベル、進捗状況に応じた個人レッスンを行います。最終週に演奏会形式による発表を行います。					
到達目標	思考・判断・表現	楽曲を深く読み込み表現することができる。			○	
	技能	譜面を正確に演奏した後、個性を生かした表現力豊かな演奏ができる。			◎	
	関心・意欲・態度	演奏技術向上を目指し積極的に取り組むことができる。			○	
観点別評価	評価の観点	知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法					
	実技試験	-	10	50	-	60
	受講態度	-	10	10	20	40
	合計(点)	-	20	60	20	100
評価の特記事項	ICT活用					
課題に対するフィードバック	レッスン時に指摘された箇所が修正されているか否かを次週のレッスンでチェックします。					
テキスト						
参考書・教材	各自で決めた楽曲を購入してください。					
内容						
実施回	授業内容・目標					
1	楽曲決め準備 楽曲決定に向け個別指導。 「課題」復習：アドバイスを受けた内容を参考に楽曲を決める。(1h) 予習：正確な音に留意し練習。(1h~2h)					
2	個人レッスン 各音を正確に出せているかをチェック1。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：正確な音に留意し練習。(1h~2h)					
3	個人レッスン 各音を正確に出せているかをチェック2。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：アーティキュレーションに留意し練習。(1h~2h)					
4	個人レッスン アーティキュレーションのチェック1。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：アーティキュレーションに留意し練習。(1h~2h)					
5	個人レッスン アーティキュレーションのチェック2。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：強弱に留意し練習。(1h~2h)					
6	個人レッスン 強弱のチェック1。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：強弱に留意し練習。(1h~2h)					
7	個人レッスン 強弱のチェック2。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：フレージングに留意し練習。(1h~2h)					
8	個人レッスン フレージングのチェック1。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：フレージングに留意し練習。(1h~2h)					
9	個人レッスン フレージングのチェック2。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：表現記号、楽語などに留意し練習。(1h~2h)					
10	個人レッスン 表現記号、楽語などを演奏に反映させているかチェック。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：個性を生かした表現に留意し練習。(1h~2h)					
11	個人レッスン 個々の個性が演奏に表現されているかチェック1。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：個性を生かした表現に留意し練習。(1h~2h)					
12	個人レッスン 個々の個性が演奏に表現されているかチェック2。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：伴奏譜を見て曲の流れに留意し練習。(1h~2h)					

内容	
実施回	授業内容・目標
13	個人レッスン 伴奏合わせ1。 「課題」復習：レッスンで指摘を受けた箇所を復習。(1h) 予習：伴奏譜を見て曲の流れに留意し練習。(1h～2h)
14	個人レッスン 伴奏合わせ2。 「課題」復習・予習：レッスンで指摘を受けた箇所を中心に、次週発表に向けて仕上げ練習。(2h～3h)
15	発表 個別に演奏会形式で発表。 「課題」復習・予習：発表時の反省を踏まえ、実技試験(卒業演奏発表会)に向け不得手な箇所を中心に練習。(2h～3h)
時間外での学修	課題としてレッスン時に指摘を受けた箇所の復習、次のレッスンに向けての予習を行ってください。 【この科目で求める望ましい授業時間外での総学修時間：30時間～45時間】
受講学生へのメッセージ	悔いの残らない演奏を期待します。 オフィスアワーは水曜日5限、木曜日4限

【3R6S231】卒業研究 I		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	渡辺 博夫・松永 幸宏						
資格・制限等	Rコース必修						
授業内容	1年次に学修した、基礎から応用的な技術を身に付けると共に、幅広い角度から管楽器本体や、付属品等を理解して、研究発表のテーマを決定して行って下さい。						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年 松永：楽器店修理販売職・19年						
授業方法	前期の授業では、まず基礎力から応用力を身に付ける事をまず行いますが、2年次生の研究発表を聞いて、自分として何をテーマにするのかを明確にして下さい。同一テーマでも、それぞれの解釈や切り口がありまますから気にしない様にして下さい。						
到達目標	知識・理解	仕組み、構造理解を基本として、今日に至る変遷等について知識と持ち理解が出来る。			△		
	思考・判断・表現	管楽器等の構造や仕組みを理解して、自らが考えるテーマに沿っての考え方や表現が出来る。			○		
	技能	プレゼンテーションを十分に理解し、資料も纏め方や、伝達方法がしっかりと出来ている。			◎		
	関心・意欲・態度	楽器全般に関する関心や興味を日頃から持ち続け、自らが率先してリペア技能や知識向上を図ることが出来る。			○		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	筆記試験		10	-	-	-	10
	実技試験		-	20	50	-	70
	受講態度		-	-	-	20	20
	合計(点)		10	20	50	20	100
評価の特記事項	全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。						
ICT活用	学生ポータル等で、ICTを活用した自主学習支援を行います。						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、授業内に挙手をさせ、一人ひとりの状態を確認しフィードバックする。						
テキスト							
参考書・教材	1年次に購入した「管打楽器の新しい楽器学と演奏法」(上・下) 管楽器に関する文献、各社カタログ等						
内容							
実施回	授業内容・目標						
第1回	テーマの決定 2年次生の研究発表を聞いた事や、興味を持っている分野について考えテーマを決定して下さい。 【課題(復習・他)】課題提出(2h)						
第2回	テーマについて情報収集を行う 2年次生の研究発表を聞いた事や、興味を持っている分野について考え決定したテーマについての情報収集。 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(2h)						
第3回	テーマについて情報収集を行う 2年次生の研究発表を聞いた事や、興味を持っている分野について考え決定したテーマについての情報収集。 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(2h)						
第4回	テーマについて情報収集を行う 2年次生の研究発表を聞いた事や、興味を持っている分野について考え決定したテーマについての情報収集。 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(2h)						
第5回	準備物用意 情報収集した情報を整理する 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(2h)						
第6回	準備物用意 情報収集した情報を整理する 【課題(復習・他)】アナンダ内容の復習(2h)						
第7回	準備物用意 情報収集した情報を整理する。製作物があればそれをどの様に製作するのかスケジュールを考え形にして進行する。 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第8回	準備物用意 情報収集した情報を整理する。製作物があればそれをどの様に製作するのかスケジュールを考え形にして進行する。 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第9回	準備物用意 情報収集した情報を整理する。製作物があればそれをどの様に製作するのかスケジュールを考え形にして進行する。 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第10回	準備物用意 情報収集した情報を整理する。製作物があればそれをどの様に製作するのかスケジュールを考え形にして進行する。 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						
第11回	準備物用意 情報収集した情報を整理する。製作物があればそれをどの様に製作するのかスケジュールを考え形にして進行する。 【課題(復習・他)】学んだ内容の復習(3h)						

内容	
実施回	授業内容・目標
第12回	準備物用意 情報収集した情報を整理する。製作物があればそれをどの様に製作するのかスケジュールを考え形にして進行する。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）
第13回	準備物用意 情報収集した情報を整理する。製作物があればそれをどの様に製作するのかスケジュールを考え形にして進行する。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）
第14回	準備物用意 情報収集した情報を整理する。製作物があればそれをどの様に製作するのかスケジュールを考え形にして進行する。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）
第15回	準備物用意 情報収集した情報を整理する。製作物があればそれをどの様に製作するのかスケジュールを考え形にして進行する。 【課題（復習・他）】学んだ内容の復習（3h）
時間外での学修	情報収集にはパソコンの使用頻度が高くなりますから、個人で所有していない人は、学校PCを効率よく使用してください。 （この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間）
受講学生へのメッセージ	幅広い視野からの発表は、個人の貴重な経験値にもなりますが、1年次生にとっても大変参考になります。人前でのプレゼンテーションは、相手にしっかり伝達する難しさを十分に理解してください。 オフィスアワーは、毎週金曜日10：40～12：10 それ以外の時間帯でもB304（B号館3F）に気軽にきて下さい。



【3R6A232】卒業研究Ⅱ		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	渡辺 博夫・松永 幸宏						
資格・制限等	Rコース必修						
授業内容	前期からの継続したテーマに対して、更に完成度を上げ2年間の集大成としての意識を持って下さい。						
実務家教員	渡辺：メーカー修理職・34年 松永：楽器店修理職14年						
授業方法	発表では、プレゼンテーションの進行をよく考えて、準備物の漏れが無い等事前準備をしっかり行って下さい。必ずプレゼンテーションについてのリハーサルを行い本番当日に臨んでください。パワーポイントは、文章が多いと見にくい所がありますから、箇条書き程度に要点を纏める様にして下さい。						
到達目標	知識・理解	仕組み、構造理解を基本として、今日に至る変遷等について知識と持ち理解が出来る。			◎		
	思考・判断・表現	テーマに沿った考えや表現が出来る。			◎		
	技能	パワーポイントでは、しっかりまとめる事が出来る。また、制作物では完成度の高いものとなっている。			◎		
	関心・意欲・態度	楽器全般に興味を持ち、自らが率先して技能や知識向上することが出来る。			△		
	備考	◎・○・△の記号は、DP・到達目標との結びつきの強さを示しています。					
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	発表(グループ発表含む)		30	30	30	-	90
	受講態度		-	-	-	10	10
	合計(点)		30	30	30	10	100
評価の特記事項	全授業の1/3以上欠席の場合、定期試験の受験資格はありません。						
ICT活用	学生ポータル等で、ICTを活用した自主学習支援を行います。						
課題に対するフィードバック	フィードバックとして、授業内に挙手をさせ、一人ひとりの状態を確認し、フィードバックする。						
テキスト							
参考書・教材	各社カタログ、文献等						
内容							
実施回	授業内容・目標						
第1回	情報収集、準備物用意 【課題(復習・他)】テーマに基づいて学んだ内容の復習(2h~3h)						
第2回	情報収集、準備物用意 【課題(復習・他)】テーマに基づいて学んだ内容の復習(2h~3h)						
第3回	情報収集、準備物用意 【課題(復習・他)】テーマに基づいて学んだ内容の復習(2h~3h)						
第4回	発表に向けてパワーポイント作成、実技編での準備物作成 【課題(復習・他)】情報を整理し、プレゼンテーション内容について復習する。(2h~3h)						
第5回	発表に向けてパワーポイント作成、実技編での準備物作成 【課題(復習・他)】情報を整理し、プレゼンテーション内容について復習する。(2h~3h)						
第6回	発表に向けてパワーポイント作成、実技編での準備物作成 【課題(復習・他)】情報を整理し、プレゼンテーション内容について復習する。(2h~3h)						
第7回	発表に向けてパワーポイント作成、実技編での準備物作成 【課題(復習・他)】情報を整理し、プレゼンテーション内容について復習する。(2h~3h)						
第8回	発表に向けてパワーポイント作成、実技編での準備物作成 【課題(復習・他)】情報を整理し、プレゼンテーション内容について復習する。(2h~3h)						
第9回	発表に向けてパワーポイント作成、実技編での準備物作成 【課題(復習・他)】情報を整理し、プレゼンテーション内容について復習する。(2h~3h)						
第10回	発表に向けてパワーポイント作成、実技編での準備物作成 【課題(復習・他)】情報を整理し、プレゼンテーション内容について復習する。(2h~3h)						
第11回	発表に向けてパワーポイント作成、実技編での準備物作成 【課題(復習・他)】情報を整理し、プレゼンテーション内容について復習する。(2h~3h)						
第12回	リハーサルに向けて内容や時間配分を考える。 【課題(復習・他)】情報を整理し、プレゼンテーション内容について復習する。(2h~3h)						
第13回	プレゼンテーションリハーサル 時間、内容、準備物等確認して、リハーサル後に修正を行って下さい。 【課題(復習・他)】情報を整理し、プレゼンテーション内容について復習する。(2h~3h)						
第14回	プレゼンテーションリハーサル 時間、内容、準備物等確認して、リハーサル後に修正を行って下さい。 【課題(復習・他)】情報を整理し、プレゼンテーション内容について復習する。(2h~3h)						
第15回	卒業研究発表 1年次聴講で行います。F101教室or多目的ホールで 発表時のトラブルが無いようにしておいてください。 【課題(復習・他)】発表を振り返り、社会人としてもプレゼンの必要性はありますから、今回の反省をしっかりと行い次に繋いでください。(2h~3h)						
時間外での学修	情報収集にはPCを使用しますが、個人で持っていない人は学校PCの使用となりますから、効率よく使用してください。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：15時間】						

受講学生への  
メッセージ

幅広い視野からの発表は、1年次生にとっても大変参考になります。人前でのプレゼンテーションは、相手にしっかり伝達する難しさを十分に理解して臨んでください。  
オフィスアワーは、毎週金曜日10:40~12:10 また、空き時間でも構いませんのでB304 (B号館3F) へ気軽に来て下さい。

【3T7S222】卒業論文 I		音楽総合学科		2年前期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	菅田 文子・日比 あけみ						
資格・制限等	MTコース必修						
授業内容	自分で決めたテーマについて調べ、一年かけて論文形式に仕上げます。前半2回は講義形式、それ以降は面談（個人、グループ）でテーマの進み具合を担当教員と話し合います。						
実務家教員	菅田：音楽療法関連施設職員・5年、日比：福祉・医療現場における音楽療法実践17年						
授業方法	演習形式。発表を含みます。						
到達目標	知識・理解	論文にふさわしいテーマを決定する。			○		
	思考・判断・表現	過去の文献を探し、正しく記載する。			○		
	技能	論文に適した正しい文体でまとめることができる。			○		
	関心・意欲・態度	継続的にテーマに対する関心を持ち、担当教員と話し合いながら論文作成を進めることができる。			◎		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	課題提出		20	20	20	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	発表		-	-	-	20	20
	合計(点)		20	20	20	40	100
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。中間発表を行い、途中経過の論文を提出することが単位の要件となります。						
I C T活用	論文検索、資料を探すときにインターネットを活用します。						
課題に対するフィードバック	毎時間、個別に進み具合に応じたコメントをします。						
テキスト							
参考書・教材	各自毎時間、自分のUSBメモリを持参すること。授業内でプリントを配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	論文とはどのようなものか。構成、文体、引用の基礎知識 興味のあるテーマを複数探し提出する。 [課題（復習）]学んだ内容の復習、テーマ候補を複数考える（2H）						
2	興味のあるテーマについて担当教員と個別で面談を行う。 資料の検索について [課題（準備）]論文テーマを絞り、類似するテーマの論文を読む（2H）						
3	テーマに関連する文献の検索（J-Stageなど） Web上の文章の引用について注意点 [課題（準備）]学んだ内容の復習、自分のUSBに文献用ファイルを作成する（2H）						
4	担当教員と話し合いながら文献検索を行う。 [課題（準備）]調べた文献の内容をまとめてファイルに整理する（2H）						
5	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。なぜ自分がこのテーマを選んだか書き始める。 [課題（準備）]作成した「なぜ自分がこのテーマを選んだか」を完成させる（2H）						
6	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [課題（準備）]論文の形式にのっとった文書設定を行う、文献を読み込みまとめる（2H）						
7	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [課題（復習）]ページ番号をファイルに入れる。文献を読み込みまとめる（2H）						
8	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [課題（復習）]見出しの形式を整える。文献を読み込みまとめる（2H）						
9	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [課題（準備）]図書館に行き関連する本を借り、資料としてまとめる（2H）						
10	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [課題（準備）]Webから得た資料を文献として形式を整えて使用する（2H）						
11	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [課題（準備）]文献のまとめを論文に正しい形で引用する（2H）						
12	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [課題（復習）]図、表の正しい使い方、タイトルを入れる（2H）						
13	担当教員と話し合いながら文献検索を行う、あるいは実験計画を立てる。予備実験が必要な学生は前期のうちに行う。 [課題（復習）]論文の全体を考えるために見出しと流れを書き出す（2H）						
14	中間報告の準備を行う。報告は一人10分以内で、①研究のテーマ②現在どこまで進めたか③後期はどのように進めるか、を口頭で報告する。ここまで進んだ論文をプリントアウトして提出する。 [課題（準備）]中間報告の準備、読む練習（2H）						
15	中間報告を行う。先週提出した論文を返却するのでコメントを確認、後期の予定を確認する。 [課題（復習）]返却されたコメントに基づき論文を訂正する（2H）						
時間外での学修	各自が授業時間外で文献を探す、まとめるなどの作業が必要です。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						

受講学生への  
メッセージ

音楽に関わるものでしたらどんなテーマでも論文となります。  
自分の興味があるものごとん追求しましょう。  
オフィスアワーは研究室（B403：B号館4階）で毎週木曜日の13：00～14：30です。

【3T7A223】卒業論文Ⅱ		音楽総合学科		2年後期			
		2単位	必修	演習	30時間		
教員	菅田 文子・日比 あけみ						
資格・制限等	MTコース必修						
授業内容	前期に行った中間報告を踏まえて、さらに実験や考察を重ねて1本の論文を完成させる。						
実務家教員	菅田：音楽療法関連施設職員・5年、日比：福祉・医療現場における音楽療法実践17年						
授業方法	演習形式、最終的に口頭発表を行う。						
到達目標	知識・理解	正しく先行研究論文の引用ができる。			○		
	思考・判断・表現	考察に自分の考えを正しい方法でまとめることができる。			○		
	技能	心理学論文の形式で卒業論文を提出する。(30字×40行、10枚以上) 発表用の抄録をまとめることができる。			○		
	関心・意欲・態度	関心を持ったテーマに継続的に取り組み、指導教員と話し合いながら作成することができる。初めて聞く人を対象としてわかりやすいプレゼンテーションができる。			◎		
観点別評価	評価の観点		知識・理解	思考・判断・表現	技能	関心・意欲・態度	合計(点)
	評価方法						
	課題提出		20	20	20	-	60
	受講態度		-	-	-	20	20
	発表		-	-	-	20	20
合計(点)		20	20	20	40	100	
評価の特記事項	3分の1以上欠席した学生は期末試験の受験資格がありません。発表および論文の期日内での提出が単位の要件となります。						
I C T活用	論文や資料の検索にインターネットを活用します。						
課題に対するフィードバック	毎回、個別にコメントします。						
テキスト	各自毎時間、自分のUSBメモリを持参すること						
参考書・教材	授業内でプリントを配付します。						
内容							
実施回	授業内容・目標						
1	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]コメントに応じて訂正した論文を教員と共有し今後の方針を決定する(2H)						
2	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]論文の全体像がわかるように目次の作成を始める(2H)						
3	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]これまで調べた内容を基に考察を書き始める(2H)						
4	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]考察の方向性について教員の指導を受ける(2H)						
5	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]全体の論旨の流れが不自然でないか確認する(2H)						
6	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]結語部分を作成する(2H)						
7	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]テーマと考察が関連しているか、「はじめに」で述べた部分がすべて検討されているかを確認する(2H)						
8	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]教員あるいは他の学生に読んでもらいわかりにくい箇所がないか確認する(2H)						
9	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]英数字を半角にする、通して文献番号をつける(2H)						
10	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]論文タイトル、各章タイトルの形式を整える(2H)						
11	教員の指示に従い自分の研究をすすめる。 [課題(復習)]図と表の形式をチェックし、通し番号をつける(2H)						
12	本文提出第一次締切日(30字×40行、10枚以上。表紙と目次は本文に含まない。文献リストを含む)[課題(復習)]文献リストを完成させる(2H)						
13	抄録締切日 (A4サイズで1~4枚以内、電子データも提出する)[課題(復習)]抄録をまとめる。誤字脱字をチェックし、文献リストをつける(2H)						
14	卒業論文発表会リハーサル。各自抄録を読み(筆者→私、である→ですますに口語体に変えて読む)、より効果的なプレゼンテーションの工夫を行う。[課題(復習)]抄録を読む練習を行う(2H)						
15	卒業論文発表会。各自が行った研究について1人10分の発表を行う。卒業論文最終締切。 [課題(復習)]他の学生の発表にコメントする。表紙、目次も含む完成した論文を提出する(2H)						
時間外での学修	各自が授業時間外で文献を探す、まとめるなどの作業が必要です。 【この科目で求める望ましい授業外での総学修時間：60時間】						
受講学生へのメッセージ	短大で卒業論文を課すところは多くありませんが、卒業後に、文書で音楽療法の成果をまとめる機会は意外と多いものです。将来の自分のために頑張りましょう。 オフィスアワーは研究室(B403:B号館4階)で毎週木曜日の13:00~14:30です。						